OLYMPUS®

DIGITAL VOICE RECORDER

WS-805

取扱説明書

お買い上げいただきありがとうございます。
この取扱説明書をよくお読みのうえ、
製品を正しく安全にお使いください。
お読みになったあとは、いつでも見られる
ところに必ず保管してください。

失敗のない録音をするために
試し録りをしてください。

JP

はじめに

- 本書の内容については将来予告なしに変更する場合があります。商品名、型番など、最新の情報についてはカスタマーサポートセンターまでお問い合わせください。
- 取扱説明書で使用している液晶画面や本機のイラストは実際の製品とは異なる場合があります。また、本書の内容については、万全を期して作成しておりますが、万一ご不審な点、誤り、記載もれなど、お気づきの点がございましたらカスタマーサポートセンターまでお問い合わせください。
- 本書の著作権はオリンパス株式会社、およびオリンパスイメージング株式会社が所有しております。本書を無断で複製したり、複製物を無断で配布したりすることは著作権法により禁じられています。
- 本製品の不適当な使用による万一の損害や、逸失利益、または第三者からのいかなる請求に関しても、当社では一切その責任を負いかねますのでご了承ください。

電波障害自主規制について

この装置は、クラス B 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

商標および登録商標について

- IBM、PC/AT は、International Business Machines Corporation の商標または登録商標です。
- Microsoft、Windows、Windows Media は Microsoft Corporation の登録商標です。
- microSD と microSDHC は、SD Card Association の商標です。
- Macintosh、iTunes は米国アップル社の商標です。
- MP3 オーディオ符号化技術は Fraunhofer IIS 社と Thomson 社からのライセンスに基づき製品化されています。
- 日本電気株式会社からのライセンスに基づくノイズキャンセル技術を利用して製品化されています。
- NTT エレクトロニクス株式会社からのライセンスに基づく音声区間検出技術を利用して製品化されています。

その他の本説明書に記載されているすべてのブランド名または商品名は、それらの所有者の商標または登録商標です。

INDEX

目次

はじめに

1 ご使用になる前の準備

2 録音について

3 再生について

4 FM ラジオについて

5 メニューについて

6 本機をパソコンでお使いいただくためには

7 資料

安全に正しくお使いいただくために

ご使用前にこの取扱説明書をお読みになって、正しく安全にお使いください。また、お読みになった後は、いつでも見られるように必ずお手元に保管してください。

安全に関する重要事項

- 安全に関する重要事項は、以下の表示と文章で示されます。あなたと他の人々への危害や財産への損害を未然に防ぐために、必ず守ってください。
- 表示の意味は、次のようになっています。

危険

この表示は、「誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う差し迫った危険の発生が想定される」内容を示します。

警告

この表示は、「誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される」内容を示します。

注意

この表示は、「誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される」内容を示します。

使用上のご注意

- 直射日光下の車の中や夏の海岸など、高温・多湿の場所に放置しないでください。
- 湿気やほこりの多い場所に保管しないでください。
- 水気がついたら、すぐに乾いた布で水分を拭き取ってください。特に塩分は禁物です。
- 清掃するとき、アルコールやシンナーなど、有機溶剤を使用しないでください。
- テレビ・冷蔵庫などの電気製品の上や近くに置かないでください。
- 砂や泥をかぶらないようにご注意ください。修理不可能なほどの故障になることがあります。
- 強い振動やショックを与えないでください。
- 水気の多い場所で使用しないでください。
- 磁気カード（銀行のキャッシュカードなど）をスピーカやイヤホンの近くに置くと、磁気カードに格納されたデータに異常が生じることがあります。

＜受信に関する注意事項＞

- ラジオはご使用の場所により受信状態が大きく変わります。受信状態が良好でない場合、窓際に移動したり携帯電話、テレビや蛍光灯などの電化製品から離れて使用してください。

＜データ消失に関する注意事項＞

- メモリへの記録内容は、誤操作、機器の故障、修理などで破壊されたり消えることがあります。また、メモリは長時間の保存や繰り返し使用するうちに書き込みや読み出し、消去等ができなくなることがあります。
- 大切な記録内容はパソコンのハードディスクや他の記録メディアにバックアップし、保存されることをおすすめします。

- 記録されたデータの破壊・消失による損害および逸失利益などに関しては、その内容や原因に関わらず、当社では一切その責任を負いかねますのでご了承ください。

<録音したファイルに関する注意事項>

- 本機やパソコンの故障により、録音したファイルが消去されたり再生不能となった場合でも、当社では一切その責任を負いかねますのでご了承ください。
- あなたが録音したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用することはできません。

本機について

⚠ 警告

●可燃性ガス、爆発性ガスなどが大気中に存在するおそれのある場所では使用しないでください。
引火・爆発の原因となります。

●分解、修理、改造をしないでください。
感電やけがをするおそれがあります。

●車両（自転車、バイク、車など）の運転をしながら操作しないでください。
交通事故などの原因となります。

●この製品を幼児、子供の手の届く範囲に放置しないでください。
幼児、子供の近くで使用するときは細心の注意を払い、不用意に製品から離れないでください。幼児､子供には警告･注意の内容の理解ができませんし、加えて以下のような事故のおそれがあります。例えば

- 誤ってイヤホンコードを首に巻き付け、窒息する。
- 操作を誤りケガや感電事故などを起こす。

●microSD ／ microSDHC カード以外は、絶対に本機に入れないでください。
その他のカードを誤って入れた場合は、無理に取り出さず、当社修理センター、またはサービスステーションにご相談ください。

●水に落としたり、内部に水や金属、燃えやすい異物が入ったら、
①速やかに電池を抜いてください。
②お買い上げ店またはオリンパスサービスステーションへ修理をご依頼ください。そのまま使用すると火災や感電の危険があります。

●航空機内や病院など使用に制限のある場所ではご使用をお避けになるか、その場所の指示に従ってください。

●異臭、異常音、煙が出ていたりするなどの異常を感じたときは使用を中止してください。
火災・やけどの原因となることがあります。やけどに注意しながらすぐに電池を取り出し、販売店、当社修理センター、またはサービスステーションにご連絡ください（電池を取り外す際は、素手で電池を触らないでください。また可燃物のそばを避け、屋外で行ってください）。

●本機をストラップで提げて持ち運んでいるときは、他のものに引っかからないように注意してください。

⚠ 注意

●操作前から、音量を上げないでください。
聴覚障害、聴力低下を引き起こすおそれがあります。

電池について

⚠ 危険

- **火気のある場所に電池を置かないでください。**
- **火の中への投入、加熱、⊕と⊖極間のショート、分解をしないでください。**
  火災・破裂・発火・発熱の原因となります。
- **直接ハンダ付けしたり、変形・改造・分解をしないでください。**
- **⊕と⊖端子を接続しないでください。**
  発熱や感電・火災の原因となります。
- **電池を持ち運んだり、保管する際は必ずケースに入れて、端子部分を保護してください。キーホルダーなどの貴金属と一緒に、携帯・保管しないでください。**
  発熱や感電・火災の原因となります。
- **電源コンセントや自動車のシガレットライターの差し込み口などに直接接続しないでください。**
- **直射日光のあたる場所、炎天下の車内、ストーブのそばなど高温になる場所で使用・放置しないでください。**
  液漏れ、発熱、破裂などにより、火災・やけど・けがの原因となります。

⚠ 警告

- **濡れた手で触ったり持ったりしないでください。**
  感電・故障の原因となります。
- **外装にキズや破損がある電池は使用しないでください。**
  破裂・発熱の原因となります。
- **電池の極性（⊕と⊖）を逆に入れないでください。**
  電池は、液漏れ、発熱、発火、破裂するおそれがあります。
  - 外装シール（絶縁被覆）の破れた電池を使わないでください。
  - 長期間使用しないときは、必ず電池を取り出して保管してください。
  - 使用済みの電池は接点部分にテープを貼って絶縁し、一般廃棄物として各自治体の指示に従って廃棄してください。
  - 使えなくなった電池は速やかに本機から取り出してください。液漏れのおそれがあります。
- **電池の液が目に入った場合は失明のおそれがありますので、こすらず、すぐに水道水などのきれいな水で十分に洗い流したあと、直ちに医師の診断を受けてください。**
- **充電できないアルカリ電池、リチウム電池などを充電しないでください。**
- **電池は幼児・子供の手の届くところに置かないでください。**
  電池は幼児・子供が飲み込むおそれがあります。万一飲み込んだ場合は、直ちに医師に相談してください。

●万一、使用中に異常な音がする、異常に熱い、焦げ臭い、煙が出るなどの異常を感じたら、
①けがをしないように注意しながら速やかに電池を抜いてください。
②お買い上げ店またはオリンパスサービスステーションへ修理に出してください。放置すると火災や火傷の原因となります。
●水や海水などにつけたり、端子部を濡らさないでください。
●液漏れ、変色、変形、その他の異常が発生した場合は、使用を中止してください。
●所定の充電時間を超えても充電が完了しない場合は、充電を中止してください。
●電池の液が皮膚・衣類へ付着すると、皮膚に傷害を起こすおそれがありますので、直ちに水道水などのきれいな水で洗い流してください。

⚠ 注意

●電池に強い衝撃を与えたり、投げたりしないでください。
●充電池をはじめてご使用になる場合、また長時間使用していなかった場合は、ご使用の前に必ず充電してください。
●充電池には寿命があります。指定する条件で充電しても使用時間が短くなったときは寿命と判断し、新しい充電池と取り替えてください。

充電式電池の廃棄について

Ni-MH

●使用済みの充電式電池は貴重な資源です。充電式電池を捨てる際には、⊕と⊖端子をテープなどで絶縁してから最寄の充電式電池リサイクル協力店にお持ちください。
詳しくは一般社団法人 JBRC ホームページ（http://www.jbrc.com）をご覧ください。

主な特長

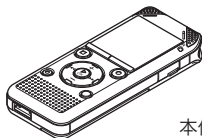
- ステレオ FM チューナーを搭載。ラジオとしてお楽しみいただけます(☞ P.53)。
- CD レベルと同等の音質で記録できるリニア PCM 形式に対応。さまざまな音源をリアルに録音できます（☞ P.76)。
- 多彩な録音形式に対応。MP3 形式(MPEG-1/MPEG-2 Audio Layer3)をはじめ、WMA（Windows Media Audio）形式にも対応。ファイルを高圧縮で保存できるので長時間録音も可能です（☞ P.76)。
  また、外部機器を接続すればアナログ音声入力信号をパソコンなしでエンコードできます（☞ P.37)。
- 本機で録音したファイルのほかにも、パソコンから転送した WAV、WMA、MP3 形式のファイルを再生できます。ミュージックプレーヤーとして、いつでもお楽しみいただけます。
- 大容量記録メディアに対応。内蔵メモリのほか、市販品の microSD カードにも記録できます（☞ P.26)。
  本機で動作確認済みの microSD カードについては、当社 Web サイトでご確認ください。
  http://olympus-imaging.jp/
- 録音をサポートする多彩な機能を搭載。録音レベルの調整、録音状況やお好みに応じ、各種録音機能をカスタマイズできます（☞ P.74 ～ P.83)。
- 音声に反応して自動的に録音の開始・停止を行う音声起動録音（VCVA）機能（☞ P.79）や音声同期録音機能（☞ P.81)、ノイズをカットして録音するローカットフィルタ機能（☞ P.78）を搭載しています。
- 用途に合わせてあらかじめ録音または再生の音質やモード設定を登録することができる録音シーン設定（☞ P.49、P.83)と再生シーン設定(☞ P.49、P.95)機能を搭載しています。
- 録音した日付でファイルを検索できるカレンダー検索機能を搭載しています（☞ P.43)。
- 録音した音声ファイルの音声部分だけを抽出する［**声だけ抽出**］機能、および抽出された音声部分だけを再生する［**声だけ再生**］機能 を搭載しています（☞ P.65、P.86)。
- 録音した音声ファイルの音量が小さい部分を大きくなるように補正して、聞きやすくする［**ボイスバランサー**］機能を搭載しています（☞ P.88)。
- ノイズをカットして、音声をクリアに再生できるノイズキャンセル機能（☞ P.87）を搭載しています。
- 多彩なリピート機能を搭載しています（☞ P.47、P.89)。
- 再生イコライザーの切り替えが可能です（☞ P.92)。

主な特長

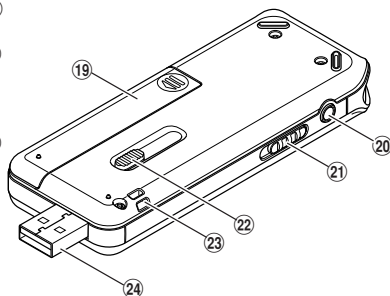
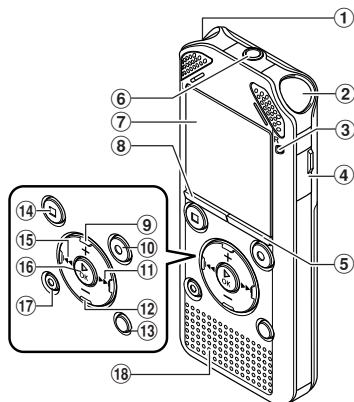
- 内蔵メモリと microSD カード間のファイル移動またはコピーと、メモリ内の各フォルダへのファイル移動またはコピーができます（☞ P.68）。
- 本機で録音したファイル（PCM、MP3）を分割できます（☞ P.70）。
- インデックスマーク機能で、聞きたい場所をすばやく探すことができます（☞ P.45）。
- 再生スピードと音程をお好みに合わせて調節できます（☞ P.44）。
- USB2.0 に対応しているので、パソコンにデータを高速で転送することができます。
- USB 充電機能を搭載しています（☞ P.18）。
- フルドット表示のバックライト付きディスプレイ（液晶表示パネル）を採用しています。

同梱品を確認する

お買い上げの商品には次の付属品が入っています。

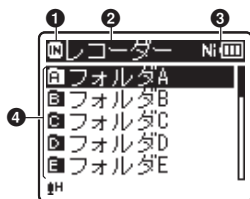
本体

単 4 形ニッケル水素充電池

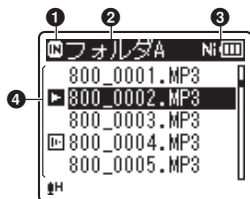
- イヤホン
- 取扱説明書（保証書付）

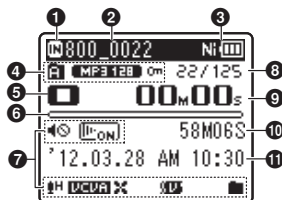
各部のなまえ

① 内蔵ステレオマイク（L）
② 内蔵ステレオマイク（R）
③ LED 表示ランプ（LED）
④ カードカバー
⑤ **LIST** ボタン
⑥ **MIC** ジャック
⑦ ディスプレイ（液晶パネル）
⑧ **MENU** ボタン
⑨ **＋**ボタン
⑩ **REC**（●）ボタン
⑪ ▶▶I ボタン
⑫ **－**ボタン
⑬ **SCENE/INDEX** ボタン
⑭ **STOP**（■）ボタン
⑮ I◀◀ ボタン
⑯ ▶**OK** ボタン
⑰ **ERASE** ボタン
⑱ 内蔵スピーカ
⑲ 電池カバー
⑳ **EAR** ジャック
㉑ **POWER/HOLD** スイッチ
㉒ USB 端子スライドレバー
㉓ ストラップ取り付け部
㉔ USB 端子

ディスプレイ（液晶パネル）

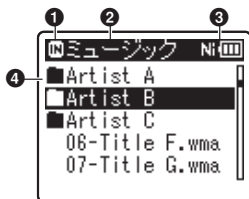
■［レコーダー］モード表示画面：

フォルダリスト表示画面

❶ 記録メディア表示
［IN］：内蔵メモリ
［SD］：microSD カード
❷ 現在のフォルダ名
❸ 電池表示
❹ フォルダ名

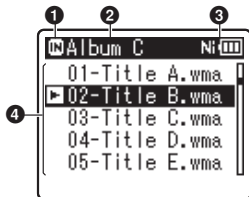
ファイルリスト表示画面

❶ 記録メディア表示
❷ 現在のフォルダ名
❸ 電池表示
❹ ファイル名

ファイル表示画面

❶ 記録メディア表示
❷ 現在のファイル名
❸ 電池表示
❹ フォルダ表示、録音モード表示、ファイルロック表示
❺ 本機の動作状態
［●］：録音表示
［●II］：録音一時停止表示
［■］：停止表示
［▶］：再生表示
［▶▶］：早送り表示
［◀◀］：早戻し表示
［▶F］：早聞き再生表示
［▶S］：遅聞き再生表示
［▶#］：音程変更再生表示（高）
［▶♭］：音程変更再生表示（低）
❻ メモリ残量バー表示、再生位置バー表示
❼ アイコン表示部（☞ P.15）
❽ ファイル番号／フォルダ内の総ファイル数
❾ 録音経過時間、再生経過時間
❿ 録音可能な残り時間、ファイルの長さ
⓫ レベルメーター、録音日時

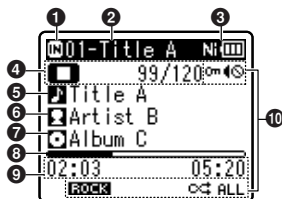
■［ミュージック］モード表示画面：

リスト表示画面 ❶

フォルダ内にファイルと
フォルダがある場合

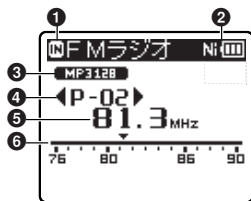
❶ 記録メディア表示
［IN］：内蔵メモリ
［SD］：microSD カード
❷ 現在のフォルダ名
❸ 電池表示
❹ フォルダ名、ファイル名

リスト表示画面 ❷

フォルダ内にファイルのみが
ある場合

❶ 記録メディア表示
❷ 現在のフォルダ名
❸ 電池表示
❹ ファイル名

ファイル表示画面

❶ 記録メディア表示
❷ 現在のファイル名
❸ 電池表示
❹ 本機の動作状態
［▶］：再生表示
［■］：停止表示
［▶▶］：早送り表示
［◀◀］：早戻し表示
［▶F］：早聞き再生表示
［▶S］：遅聞き再生表示
［▶#］：音程変更再生表示（高）
［▶♭］：音程変更再生表示（低）
ファイル番号／
フォルダ内の総ファイル数
❺ タイトル名
❻ アーティスト名
❼ アルバム名
❽ 再生位置バー表示
❾ 再生経過時間、ファイルの長さ
❿ アイコン表示部（☞ P.15）

■［FM ラジオ］モード表示画面：

ラジオ受信画面

❶ 記録メディア表示
❷ 電池表示
❸ 録音モード表示
❹ プリセット番号
❺ 受信周波数
❻ 周波数バー表示

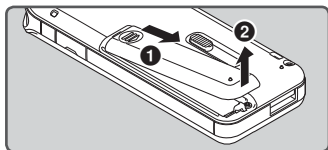
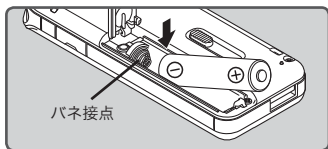
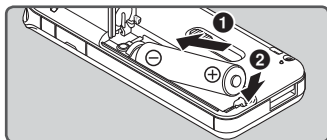
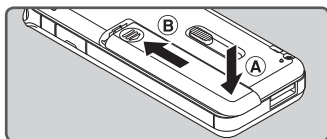
アイコン表示部（全モード共通）

［ ］：スピーカ出力停止
［ ］：声だけ再生
［ ］：声だけ抽出
［ ］：録音レベル
［VCVA］：VCVA
［Sync］：音声同期録音
［ROCK］：イコライザー
［ ］：ローカットフィルタ
［ ］：ノイズキャンセル
［ ］：ボイスバランサー
［ALL］［ ］［ ］：再生モード

電源について

電池を入れる

> **!**
>
> - 本機で充電する場合、必ず付属の専用ニッケル水素充電池（BR404）をご使用ください。
> - 付属の充電池は完全に充電されていません。ご使用の前や長期間ご使用にならなかった場合、連続充電のうえ完全に充電することをおすすめします（☞ P.18）。

1 電池カバーを上から軽く押しながらスライドさせて開ける

2 単４形電池の ⊖ 側を本機のバネ接点に乗り上げないように、電池ボックスに入れる

3 電池の ⊖ 側で本機のバネ接点を押しながら (❶)、⊕ 側を下に押さえ (❷)、完全に装填する

4 電池カバーを Ⓐ の方向に押さえながら閉じ、Ⓑ の方向にスライドさせ電池カバーを完全に閉める

- 電池が浮いている状態で電池カバーを閉めないでください。

ご注意

- 本機でマンガン電池はご使用になれません。
- 交換の際は単４形アルカリ乾電池、またはオリンパス製ニッケル水素充電池をご使用ください。
- 電池の交換は必ず本機を停止状態にしてから行ってください。本機が録音、消去などの動作中に電池を抜くと、ファイルが再生できなくなるなどの故障が発生するおそれがあります。
- 本機から電池を抜いた状態が 15 分以上続いたり、短い間隔で電池の出し入れを行うと、電池や時刻の設定が必要になる場合があります。このとき、［**電池設定**］画面が表示されます。詳しくは「**電池の設定**」をご覧ください（☞ P.17）。

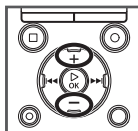
- 長期間本機をご使用にならない場合、電池を取り外してください。
- 充電池をお買い替えの場合、必ずニッケル水素充電池 BR404（別売）をご使用ください。他社製品をご使用になると、故障の原因となりますので、絶対におやめください。

電池の設定

現在使用している電池に合わせてお選びください。

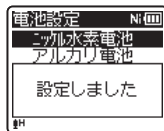
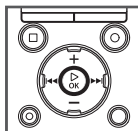
1 電池を入れて、本機の電源を入れる（☞ P.16、P.21）

2 ＋または－ボタンを押して本機に入れた電池の種類を選ぶ

電池の種類

［**ニッケル水素電池**］（Ni）：
オリンパス製ニッケル水素充電池（BR404）をご使用の場合にお選びください。

［**アルカリ電池**］（Al）：
アルカリ乾電池をご使用の場合にお選びください。

3 ►**OK** ボタンを押して設定を完了する

- ディスプレイの［**時**］表示が点滅表示する場合、「**日付・時刻を合わせる［Time & Date］**」をご覧ください（☞ P.23）。

電池表示について

電池の残量に応じてディスプレイの電池表示が次のように変わります。

- ディスプレイに［ ］が表示されたら、早めに充電するか、新しい電池に交換してください。電池がなくなると、［ ］と［**電池残量がありません**］と表示され、動作が停止します。

ご注意

- 内蔵スピーカで再生するとき、電池表示が［ ］であっても音量によっては電池の出力電圧が低下し、本機にリセットが発生する場合があります。この場合、音量を下げてご使用ください。
- 繰り返し使用したニッケル水素充電池では電池持続時間は短くなります（☞ P.130）。
- microSD カードご使用時は電池持続時間は短くなります（☞ P.130）。
- ご使用の電池の性能により電池持続時間は変化します（☞ P.130）。
- 電池を交換したときは自動的に［**電池設定**］画面が表示されます。メニュー操作でも同様に電池の設定ができます（☞ P.104）。

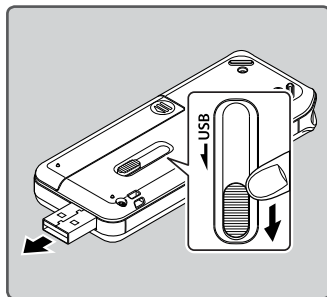
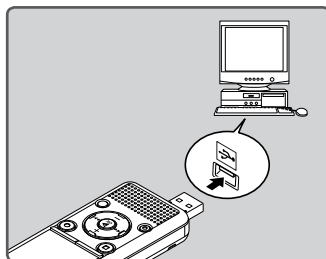
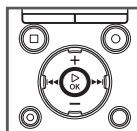
パソコンと USB 接続して充電する

パソコンの USB 端子に接続して充電できます。充電をする場合、充電池（付属）を本体に正しく入れてください（☞ P.16）。

USB 接続する前に、ホールドを解除してください（☞ P.22）。

アルカリ電池やリチウム電池などの一次電池を絶対に充電しないでください。
液漏れ、発熱など本機の故障の原因になります。

1 パソコンを起動する

2 USB 端子スライドレバーを矢印の方向へスライドさせて本機の USB 端子を本体から引き出す

3 本機が停止しているのを確認し、パソコンの USB ポートに接続する

4 ►OK ボタンを押して充電を開始する

- ［**OK ボタンで充電を開始します**］が点滅中に ►**OK** ボタンを押してください。

5 電池表示が［F］になったら充電完了です

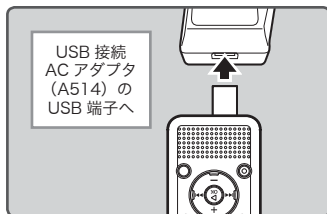
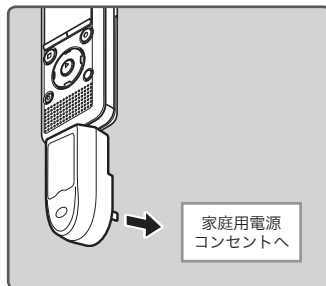
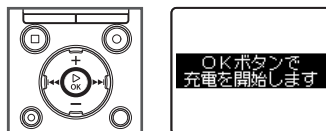
充電時間 : 約 3 時間 *

* 室温で電池残量がない状態から満充電する場合のめやすです。
電池の残量や充電の状態などにより変化します。

USB 接続 AC アダプタ(別売)と接続して充電する

USB 接続 AC アダプタ(A514)(別売)と接続して充電できます。

- AC アダプタを接続する前に USB 接続設定を[**AC アダプタ接続**]に切り替えてください(☞ P.105)。
- USB 接続する前に、ホールドを解除してください(☞ P.22)。

1 本機を AC アダプタの USB 端子に接続する

2 AC アダプタを家庭用電源コンセントに接続する

3 ▶**OK** ボタンを押して充電を開始する

- [**OK ボタンで充電を開始します**]が点滅中に ▶**OK** ボタンを押してください。

4 [**充電完了**]と表示されたら充電完了です

ご注意

- ＵＳＢ接続したパソコンの電源が入っているときに充電をしてください。パソコンの電源が入っていないときやパソコンがスタンバイ、休止、オートパワーオフモードの場合、充電できません。
- パソコンと接続して充電するときはUSB ハブを使用しないでください。
- 付属の充電池を入れ、［**電池設定**］の設定を［**ニッケル水素電池**］にしてください。［**電池設定**］の設定が［**アルカリ電池**］の場合、充電できません（☞ P.17、P.104）。
- ［[C]］ ***1** または ［[H]］ ***2** が点滅している場合、充電できません。周囲の温度が 5 ～ 35℃の環境で充電してください。
  ***1** ［[C]］：周囲の温度が低い場合
  ***2** ［[H]］：周囲の温度が高い場合
- 満充電しても使用時間が著しく短くなったときは電池の寿命です。新しい電池と取り替えてください。
- USB コネクタは奥まで確実に差し込んでください。正しく接続されていない場合、正常に動作しません。
- USB 延長ケーブルは必ず専用ケーブルをご使用ください。他社製品をご使用になると、故障の原因となりますので、絶対におやめください。またこの専用ケーブルを他社製品に接続することも絶対におやめください。
- USB 接続設定を［**コンポジット**］に設定しているときに充電する場合は、USB 接続設定を［**毎回確認**］に設定し、USB ケーブルを接続します。
  ［**USB 接続**］画面で［**AC アダプタ接続**］を選ぶと、充電できるようになります（☞ P.105）。

充電について

ニッケル水素充電池（BR404）を使用の際には下記をよくお読みください。

■ 放電：

充電池は、使用しないと自然に放電します。ご使用の前には、必ず充電するようにしてください。

■ 操作温度：

充電池は化学製品です。 推奨温度範囲で使用する場合にも充電池の性能は変化しますが、故障ではありません。

■ 推奨温度範囲：

本機動作時：0 ～ 42℃
充電：5 ～ 35℃
長期保管：－ 20 ～ 30℃

上記の温度範囲外での充電池の使用は、性能・寿命の低下の原因となります。長期間本機をご使用にならない場合、液漏れ・さびを防ぐために、充電池を取り外して保管してください。

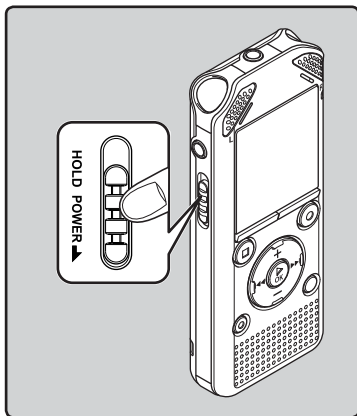
ご注意

- ニッケル水素充電池自体の性質上、新しく購入した電池や長期間（1 カ月以上）使用していない電池は、充電が完全にされない場合があります。この場合は充放電を 2、3 回くり返してください。
- 充電池は、関係する法令に従って処分してください。充電池を完全に放電しないで処分する場合、ショートしないように電池端子をテープで絶縁するなどの処置をしてください。

電源を入れる／切る

本機をご使用にならない場合、電源を切ることで電池の消耗を最小限に抑えられます。電源を切っても既存のデータや各モードの設定、時計設定などは保持されます。

電源を入れる

本機の電源が切れている状態で POWER/HOLD スイッチを矢印の方向へスライドさせる

• 電源が入ります。

電源を切る

POWER/HOLD スイッチを矢印の方向へ 0.5 秒以上スライドさせる

- 電源が切れます。
- レジューム機能により電源を切る前の停止位置を記憶して電源が切れます。

スリープモードについて

電源を入れて停止状態のまま 10 分以上（初期設定）経過すると、ディスプレイ表示が消え、スリープ（省電力）モードになります（☞ P.103）。

- スリープモードを解除するには、いずれかのボタンを押してください。

誤操作を防止する－ホールド機能

ホールドにすると動作中の状態を保ち、ボタン操作を受け付けません。かばんやポケットに入れたときに誤ってボタンが押されても動作しないので､持ち運びに便利です。また、録音中に誤って停止させてしまうことを防ぎます。

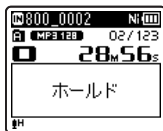
ホールドにする

録音中または再生中に POWER/HOLD スイッチを［HOLD］の位置にスライドさせる

- ディスプレイに［**ホールド**］が表示され、ホールド状態になります。

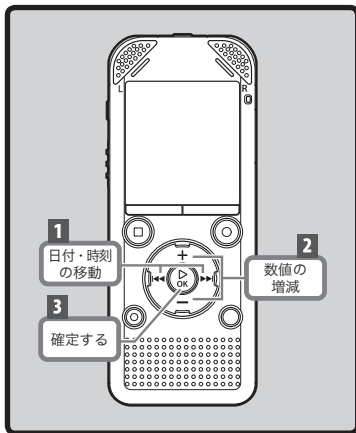
ホールドを解除する

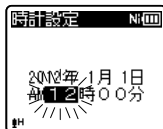
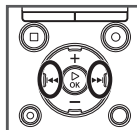
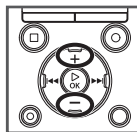
POWER/HOLD スイッチを Ⓐ の位置にスライドさせる

ご注意

- ホールドの状態でいずれかのボタンを押すと、時計表示が 2 秒間点灯しますが動作しません。
- 再生（または録音）中にホールドにすると、再生（録音）状態のまま操作ができなくなります（再生が終了したり、メモリ残量がなくなって録音が終了すると停止状態になります）。

日付・時刻を合わせる [Time & Date]

日付と時刻を設定しておくと、「いつ録音した」という情報がファイルごとに自動で記録されます。録音したファイルの管理を容易にするために、あらかじめ日付・時刻合わせをしてください。

ご購入後初めてご使用になる場合や、長い間ご使用のないあとで電池を入れた場合、[時計を設定してください] と表示されます。「時」表示が点滅したら、手順 1 から設定を行ってください。

1 ▶▶I または I◀◀ ボタンを押して設定項目を選ぶ

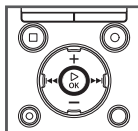
- 「**時**」「**分**」「**年**」「**月**」「**日**」の中から、設定したい項目に点滅を合わせてください。

2 ＋またはーボタンを押して設定する

- 以下同じように ▶▶I または I◀◀ ボタンで次の設定項目を選び、**＋**または**ー**ボタンを押して設定を行います。
- 時、分の設定中、**LIST** ボタンを押すたびに、12 時間表示と 24 時間表示が切り替わります。

例：午後 10 時 38 分の場合

PM 10 時 38 分（初期値） ←→ 22 時 38 分

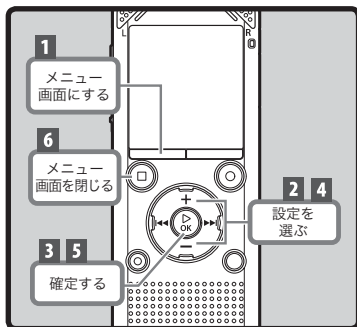
- 年、月、日の設定中、**LIST** ボタンを押すたびに［**年**］［**月**］［**日**］表示の順序が切り替わります。

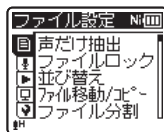
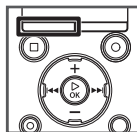
例：2012 年 3 月 24 日の場合

3 ▶OK ボタンを押して設定を完了する

- 設定した日時で本機の時計が動き始めます。時報などに合わせて **▶OK** ボタンを押してください。

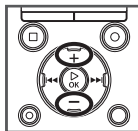
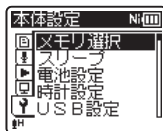
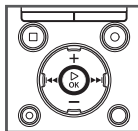
ご注意

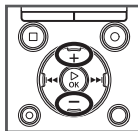
- 設定の途中に **▶OK** ボタンを押すと、それまでに確定した項目が設定され時計が動き始めます。

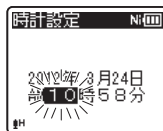
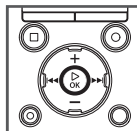
日付・時刻の設定を変えるには

停止中に **STOP**（■）ボタンを押し続けると［**現在日時**］や［**メモリ残量**］（録音可能な残り時間）を確認できます。現在日時が合っていない場合、下記の手順で設定してください。

1 停止中に MENU ボタンを押す

- メニュー画面に入ります（☞ P.59）。

2 **+またはーボタンを押して［本体設定］タブを選ぶ**

- 設定タブのカーソルを移動させるとメニュー画面が切り替わります。

3 **►OK ボタンを押してカーソルを設定項目へ移動させる**

- ［**本体設定**］画面に入ります。

4 **+またはーボタンを押して［時計設定］を選ぶ**

5 **►OK ボタンを押す**

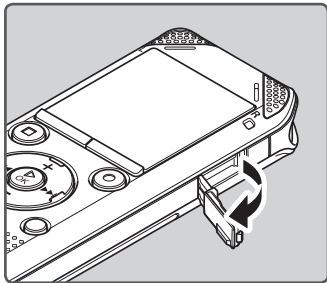
- ［**時計設定**］画面に入ります。
- ［**時**］表示が点滅します。

以下は「**日付・時刻を合わせる**［**Time & Date**］」の手順 1 〜手順 3 の設定と同じです (☞ P.23、P.24)。

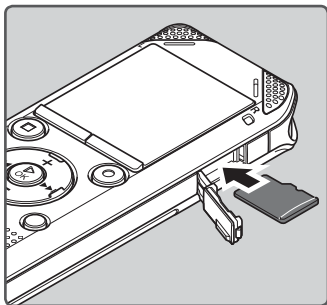
6 **STOP（■）ボタンを押してメニュー画面を終了する**

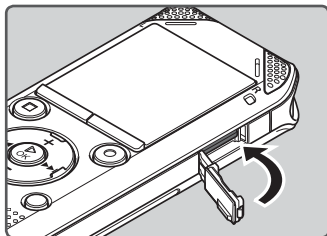
microSD カードを入れる／取り出す

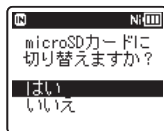
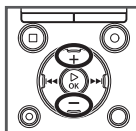
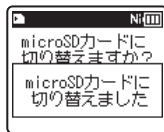
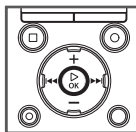
本書に記載されている「microSD」とは microSD と microSDHC の両方をさします。本機では内蔵メモリのほかに市販の microSD カードをご使用になれます。

microSD カードを入れる

1 停止中にカードカバーを開ける

2 図のように microSD カードの向きを正しく合わせて入れる

- microSD カードが斜めに入らないようにまっすぐに入れます。

- microSD カードの向きを間違えたり、斜めに入れると接触面が破壊されたり、microSD カードが抜けなくなる場合があります。
- microSD カードがカチッと音がする奥まで挿入されていないと、microSD カードに記録できない場合があります。

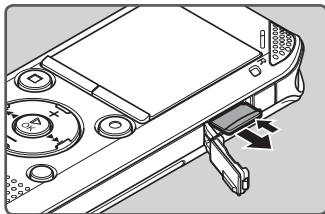
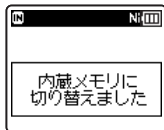
3 カードカバーを閉じる

- microSD カードを入れると、記録メディアの切り替え画面が表示されます。

4 microSD カードに記録する場合、＋または－ボタンを押して［**はい**］を選ぶ

5 ►**OK** ボタンを押して設定を完了する

ご注意

- 記録メディアを内蔵メモリへ切り替えることもできます（☞ P.102）。
- パソコンなどの他の機器でフォーマット（初期化）した microSD カードは、認識できない場合があります。お使いになる前に、必ず本機で初期化してください（☞ P.108）。

microSD カードを取り出す

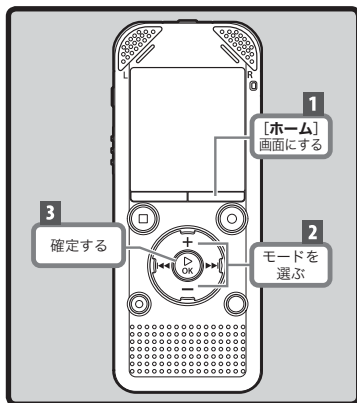
1 停止中にカードカバーを開ける

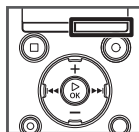
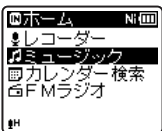
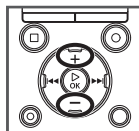
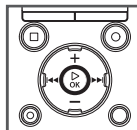
2 microSD カードを一度奥に向かって押し込んで、そのまままゆっくり戻す

- microSD カードが手前に出て止まります。microSD カードをつまんで取り出してください。
- ［**メモリ選択**］の設定を［**microSD カード**］にしていた場合、［**内蔵メモリに切り替えました**］と表示されます。

3 カードカバーを閉じる

ご注意

- microSD カードを取り出す際に、microSD カードを押した指をすぐにはなしたり、指ではじくようにして押し出すと、microSD カードが勢いよく飛び出すことがあります。
- microSD カード、microSDHC カードにおいて、本機との相性により製造メーカーやカードの種類によっては正しく認識しないことがあります。
- 当社基準における動作確認済の microSD カードについては、当社ホームページのサポートページをご覧ください。
  http://olympus-imaging.jp/
  ホームページでは、当社が動作確認を行った microSD カードの製造メーカーとカードの種類を紹介していますが、当社がお客様に対して microSD カードの動作保障をするものではありません。また、各製造メーカーの仕様変更などにより、正しく認識できなくなる場合があります。あらかじめご了承ください。
- ご利用の際は、microSD カードに付属の取扱説明書を必ずお読みください。
- microSD カードが認識されない場合、microSD カードを取り出してからもう一度入れ直し、本機で認識するか試してください。
- microSD カードの種類によっては処理速度が遅くなる場合があります。また、microSD カードは書き込みや削除を繰り返すことによって処理能力が落ちることがあります。この場合、microSD カードを初期化しなおしてください（☞ P.108）。

[ホーム] 画面の操作

IC レコーダーやミュージックプレーヤーとしてご使用いただける他、ラジオとしてもお楽しみいただけます。

1 **LIST** ボタンを繰り返し押して [**ホーム**] 画面にする

- [**ホーム**] 画面に入ります。

2 +または−ボタンを押してモードを選ぶ

3 ►**OK** ボタンを押す

[レコーダー] を選んだ場合:

[**レコーダー**] モードに切り替わり、マイクから録音したり、本機で録音したファイルを再生できます (☞ P.32、P.39)。

[ミュージック] を選んだ場合:

[**ミュージック**] モードに切り替わり、本機に転送した音楽ファイルを再生できます (☞ P.39)。

[カレンダー検索] を選んだ場合:

[**カレンダー検索**] モードに切り替わり、録音した日付でファイルを検索できます (☞ P.43)。

[FM ラジオ] を選んだ場合:

[**FM ラジオ**] モードに切り替わり、FM ラジオを受信できます (☞ P.53、P.54)。

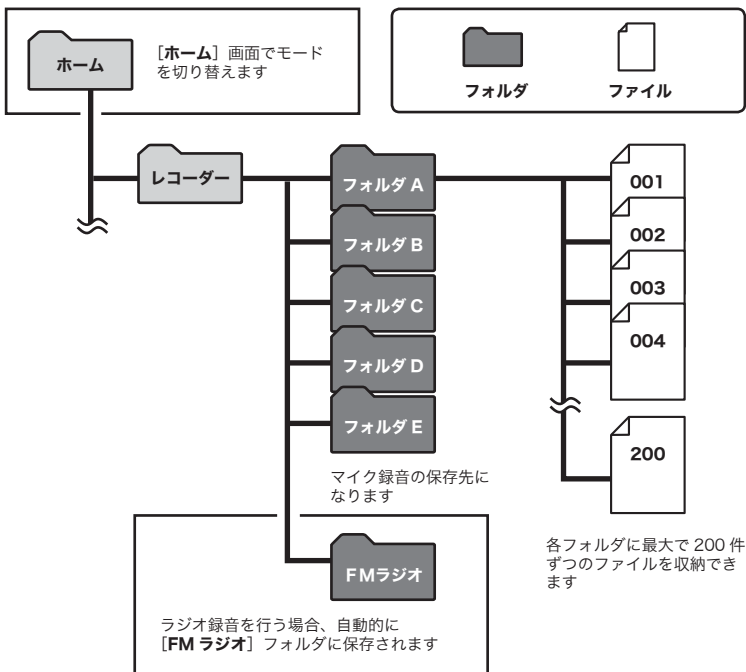
ご注意

- 録音中の場合、本機を停止しないとモードの切り替えができません。

フォルダについて

記録メディアは、内蔵メモリまたは microSD カードを使用できます。記録メディアにかかわらず音声ファイル、音楽ファイルやコンテンツファイルは、ツリー型に構成されたフォルダにそれぞれ振り分けて保存されます。

音声録音用フォルダについて

［**レコーダー**］フォルダ内の［**フォルダ A**］～［**フォルダ E**］は音声録音用フォルダです。本機で録音を行う場合、この 5 つのフォルダのいずれかを選んで行ってください。

ご注意

- ［**レコーダー**］フォルダ直下に入れたファイルやフォルダは本機では表示されません。

音楽再生用フォルダについて

Windows Media Player を使用して音楽ファイルを本機に転送すると、音楽再生用フォルダ内を下記の図のような階層構造で、フォルダを自動作成します。同じフォルダ内にある音楽ファイルは、お好みの順番に並び替えて再生できます（☞ P.67）。

ホーム

第１階層

第２階層

ミュージック

アーティスト 01

アーティスト 02

アーティスト 03

アルバム 01

アルバム 02

アルバム 03

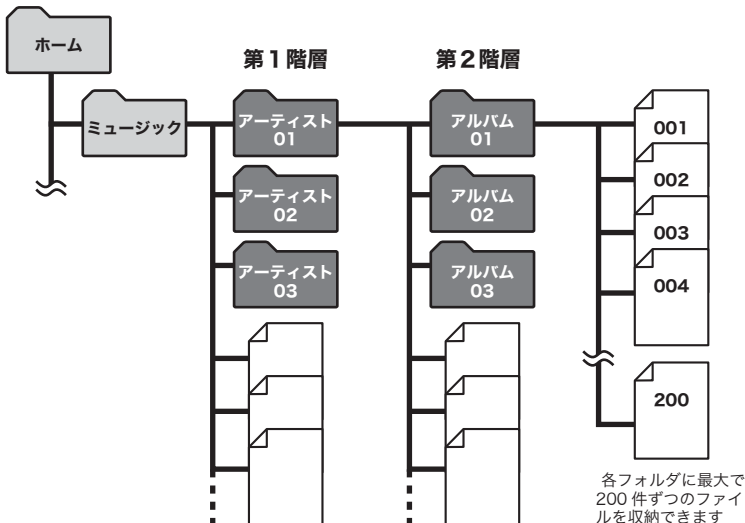
001

002

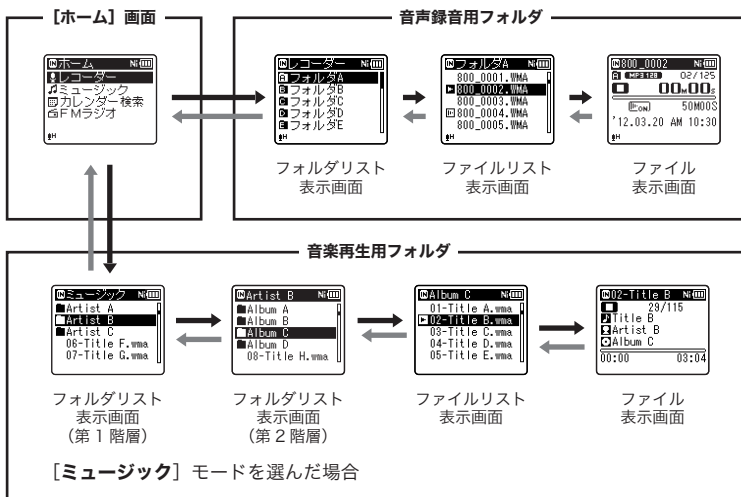
003

004

200

各フォルダに最大で 200 件ずつのファイルを収納できます

［**ミュージック**］フォルダには、［**ミュージック**］を含めて最大 300 フォルダまで作成できます。

フォルダとファイルの選びかた

フォルダの切り替えは停止中または再生中に操作してください。フォルダの階層構造については［**フォルダについて**］をご覧ください（☞ P.29）。

階層を移動する

戻る：LIST ボタン

押すごとに１つ上の階層に戻ります。リスト表示画面では、⏮ ボタンでも操作できます。

- フォルダの階層を移動しているときに **LIST** ボタンを押し続けると、ファイル表示画面に戻ります。

進む：▶OK ボタン

押すごとにリスト表示画面で選んだフォルダまたはファイルを開き１つ下の階層に進みます。リスト表示画面では、⏭ ボタンでも操作できます。

＋または－ボタン

フォルダやファイルを選びます。

［ホーム］画面：

本機のモードを切り替えます（☞ P.28）。

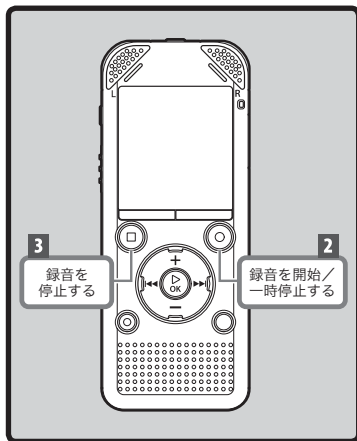
リスト表示画面：

本機に記録されているフォルダとファイルがリスト表示されます。

ファイル表示画面：

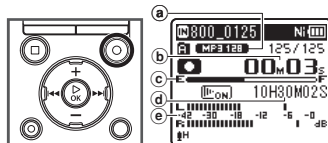
選んだファイルの情報が表示されます。再生待機状態になります。

録音する

録音を開始する前に［A］～［E］の音声録音用フォルダを選んでください。［A］フォルダはプライベート用、［B］フォルダはビジネス用といったように、録音する内容によって使い分けると便利です。

1 録音するフォルダを選ぶ（☞ P.29）

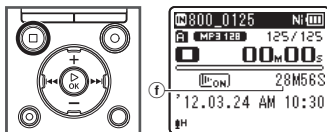
- 新しく録音した音声は、選んだフォルダの一番後ろのファイルとして保存されます。

2 REC（●）ボタンを押して録音を開始する

- LED表示ランプが点灯し、ディスプレイの［●］が点灯します。
- 録音したい方向に内蔵ステレオマイクを向けます。

ⓐ 録音モード
ⓑ 録音経過時間
ⓒ メモリ残量表示バー
ⓓ 録音可能な残り時間
ⓔ レベルメーター（録音音量や録音機能の設定に合わせて変化します）

- 録音中は［**録音モード**］の変更ができません。停止中に設定してください（☞ P.76）。
- 内蔵ステレオマイクで録音する場合、ディスプレイ画面が上にある状態で正しくステレオ録音されます。ディスプレイ画面を下にして録音すると、音源の定位が逆相した状態で録音されるため正しいステレオ録音ができません。

3 STOP（■）ボタンを押して録音を停止する

- ディスプレイの［■］が点灯します。

ⓕ ファイルの長さ

ご注意

- 頭切れを防ぐために、LED 表示ランプの点灯やディスプレイのモード表示を確認してから録音を行ってください。
- 録音可能な残り時間が 60 秒になると、LED 表示ランプが点滅を開始し、30 秒、10 秒と残量が減るにつれて点滅が早くなります。
- ［**ファイル件数がいっぱいです**］と表示された場合、これ以上録音できません。フォルダを変更するか、不要なファイルを消去してから録音をしてください（☞ P.50）。
- ［**メモリがいっぱいです**］と表示された場合、メモリがいっぱいです。不要なファイルを消去してから録音をしてください（☞ P.50）。
- 本機に microSD カードを入れた場合、操作する記録メディアが［**内蔵メモリ**］または［**microSD カード**］のどちらなのか間違えないよう必ず確認してください（☞ P.102）。
- ［A］～［E］以外のフォルダを選んで **REC**（●）ボタンを押すと、［**A ～ E フォルダで録音してください**］が点滅します。改めて［A］～［E］のいずれかのフォルダを選んでから録音を開始してください
- 記録メディアは書き込みや削除を繰り返すことによって処理能力が落ちることがあります。この場合は記録メディアを初期化してください（☞ P.108）。
- 大事な録音をするときには、事前に記録メディアを初期化することをおすすめします。
- ［**FM ラジオ**］モードに切り替えると、ラジオ放送を録音できます（☞ P.53）。

■ リニア PCM 形式で 2GB を超えての録音について：

リニア PCM 形式の録音で、1 ファイルの容量が 2GB を超えた場合でも録音を継続します。

- ファイルは 2GB 毎に分割して保存されます。再生時には複数のファイルとして扱われます。
- 2GB を超えて録音したときは、フォルダ内のファイル件数が 200 件を超える場合があります。201 件目以降のファイルは本機では認識しませんので、パソコンと接続して確認してください。

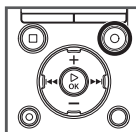
録音に関する設定

録音環境に合わせてさまざまな設定ができます。

［**録音レベル**］（☞ P.74）	録音感度を設定します。
［**録音モード**］*（☞ P.76）	録音形式ごとに録音レートを設定できます。
［**ローカットフィルタ**］（☞ P.78）	エアコンの空調音やプロジェクターなどのノイズを低減できます。
［**VCVA**］（☞ P.79）	音声起動録音（VCVA）の起動レベルを設定できます。
［**音声同期録音**］（☞ P.81）	音声同期録音の起動レベルを設定できます。
［**録音シーン**］（☞ P.83）	録音する場面や状況に合わせた録音設定を選択・保存できます。

* ［**FM ラジオ**］モードのときの［**録音モード**］は以下の設定に固定されます。
  - ［**PCM**］:［**44.1kHz/16bit**］
  - ［**MP3**］:［**128kbps**］
  - ［**WMA**］:［**128kbps**］

一時停止するには

録音中に REC（●）ボタンを押す。

- ディスプレイの［■］が点灯します。
- 録音一時停止のまま 60 分以上過ぎると停止状態になります。

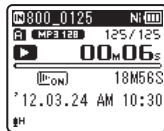
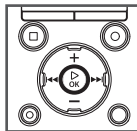
■ 録音を再開するには：

REC（●）ボタンをもう一度押す。

- 一時停止したところから録音を再開します。

録音内容をすばやく確認するには

録音中に ▶OK ボタンを押す。

- ディスプレイの［▶］が点灯します。

- 録音を中断し、今録音したファイルを再生します。
- ［**FM ラジオ**］モードで録音中にこの操作をすると、［**レコーダー**］モードに自動的に切り替わり、今録音したファイルを再生します。

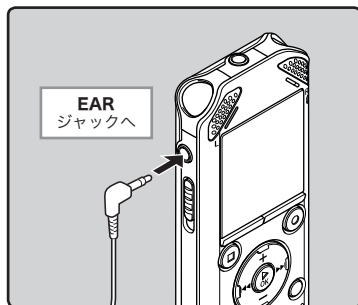
2

録音する

録音中の音声を聞くには（録音モニター）

イヤホンを本機の **EAR** ジャックに差し込むと､録音中の音声を聞くことができます。録音モニターの音量は**＋**または**－**ボタンを使用して調節できます。

本機の EAR ジャックにイヤホンを接続する。

- 録音を開始すると録音中の音声をイヤホンで聞くことができます。

ご注意

- 音量を変えても録音レベルは変化しません。
- 耳への刺激を避けるため、音量を［**00**］にしてからイヤホンを入れてください。
- ハウリングをおこしますので、録音中はイヤホンをマイクに近づけないでください。

録音状況ごとの推奨設定(めやす)

ご購入後すぐに高音質ステレオ録音ができるように[**WMA 128 kbps**]モードが設定されています。録音状況に応じて、録音モードに関する各種機能を詳細に設定することもできます。下記の表は録音状況を例にした録音設定のめやすです。

録音状況	推奨設定		
	[録音モード] (☞ P.76)	[録音レベル] (☞ P.74)	[ローカットフィルタ] (☞ P.78)
広い教室での講義などの録音	[**PCM**]:[**44.1kHz/16bit**] [**MP3**]:[**128kbps**] [**WMA**]:[**128kbps**]	[**高(講義)**]	[**ON**]
大人数での会議などの録音	[**MP3**]:[**128kbps**] [**WMA**]:[**128kbps**]		
少人数での会議、打ち合わせ、商談などの録音	[**MP3**]:[**128kbps**] [**WMA**]:[**128kbps**]	[**中(会議)**]	
ノイズが多い中での口述録音	[**WMA**]:[**64kbps**]	[**低(メモ)**]	
楽器演奏、野鳥の声、鉄道の音などの録音	[**PCM**]:[**44.1kHz/16bit**]	録音する状況に合わせて、録音感度を切り替えてください	[**OFF**]

本機で録音した音声には、自動的に以下のようなファイル名がつけられます。

① **ユーザー ID:**
本機に設定されたユーザー ID 名で、お使いのモデル名になります。

② **ファイル番号:**
記録メディアの切り替えにかかわらず、ファイル番号は連続してつけられます。

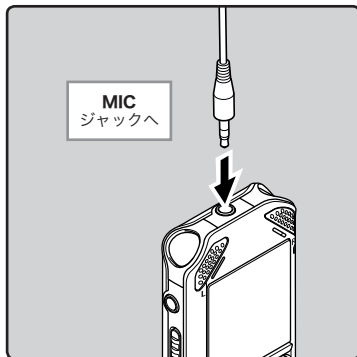
③ **拡張子:**
本機で録音した場合の録音形式の拡張子です。

- リニア PCM 形式:「**.WAV**」
- MP3 形式:「**.MP3**」
- WMA 形式:「**.WMA**」

外部マイクや他の機器から録音する

外部マイクや他の機器を接続し、音声を録音できます。ご使用の機器により、次のように接続してください。本機のジャックへの抜き差しは、録音中に行わないでください。

■ 外部マイクで録音する:

本機の MIC ジャックに外部マイクを接続する

ご使用いただける外部マイク(別売)(☞ P.126)

ステレオマイクロホン:ME51SW
大口径マイク内蔵で、高感度のステレオ録音が可能です。

2 チャンネルマイクロホン(全指向性):ME30W
プラグインパワー対応の高感度全指向性マイクで、楽器演奏の録音に適しています。

コンパクトガンマイクロホン(単一指向性):ME31
野鳥の声の野外録音などに役立つ指向性のガンマイクです。

コンパクトズームマイクロホン:ME32
三脚と一体化しているので、テーブルに設置して会議や講義など離れた場所の音を録音したい場合に適しています。

モノラルマイクロホン(単一指向性):ME52W
周囲の雑音の影響を軽減して、離れた場所の音を録音したい場合に使用します。

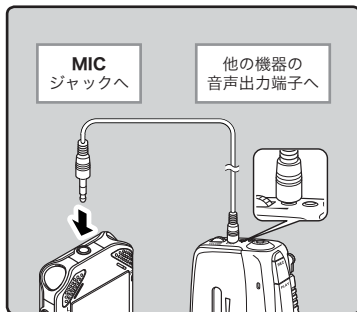
モノラルタイピンマイク(全指向性):ME15
タイピン型ホルダー付きの目立たない小型マイクです。

テレホンピックアップマイクロホン:TP8
イヤホン型マイクを耳に入れてそのまま通話できます。電話の声や会話を明瞭に録音できます。

ご注意

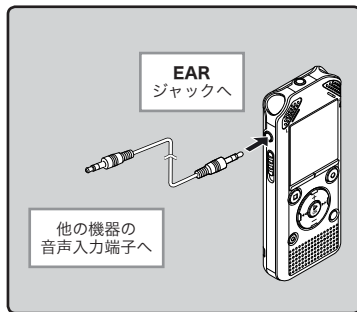
- 本機の **MIC** ジャックに外部マイクをつなぐと、内蔵マイクは動作しなくなります。
- プラグインパワー対応のマイクがご使用になれます。
- [**録音モード**]の設定をステレオ形式にした場合、外部モノラルマイクを接続して録音すると L チャンネルのみに音声が録音されます(☞ P.76)。
- [**録音モード**]の設定をモノラル形式にした場合、外部ステレオマイクを接続して録音すると L チャンネルマイクのみの録音となります(☞ P.76)。

■ 他の機器の音声を本機で録音する：

他の機器の音声出力端子（イヤホンジャック）と本機の **MIC** ジャックをダビング用コネクティングコード KA333（別売）でつなぐと、その音声を録音できます。

ご注意

- 本機では細かい録音レベルの調整はできません。外部機器を接続する場合、試し録音をして外部機器の出力レベルを調整してください。

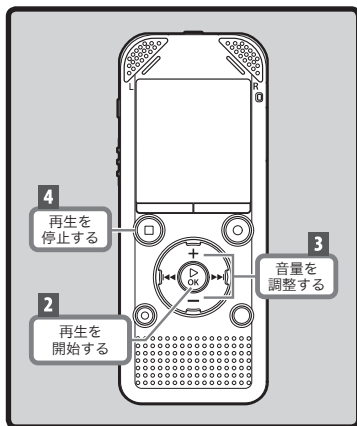
■ 本機の音声を他の機器で録音する：

他の機器の音声入力端子（マイクジャック）と本機の **EAR** ジャックをダビング用コネクティングコード KA333（別売）でつなぐと、本機の音声を他の機器へ録音できます。

ご注意

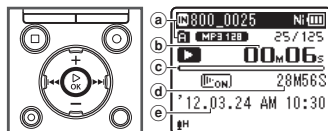
- 本機で再生関連の各種音質設定を調整すると、**EAR** ジャックから出力される音声出力信号も変化します（☞ P.86 ～ P.93）。

2
録音する

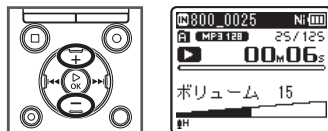
再生する

本機で録音したファイルのほか、パソコンから転送したWAV、MP3、WMA形式のファイルを再生できます。

1 再生するファイルが収録されているフォルダからファイルを選ぶ（☞ P.31）

2 ▶OKボタンを押して再生を開始する

- ディスプレイの［▶］が点灯します。

ⓐ 記録メディア表示、ファイル名、フォルダ表示
ⓑ 再生経過時間
ⓒ 再生位置バー表示
ⓓ ファイルの長さ
ⓔ 録音日時

3 ＋または－ボタンを押して聞きやすい音量にする

- ［**00**］～［**30**］の範囲で調整できます。数字が大きくなると音量が上がります。

4 STOP（■）ボタンを押して再生を停止する

- ディスプレイの［■］が点灯します。
- 再生しているファイルの途中で停止します。レジューム機能が働き電源を切っても停止位置を記憶します。次に電源を入れたときに記憶した停止位置から再生できます。

再生に関する設定

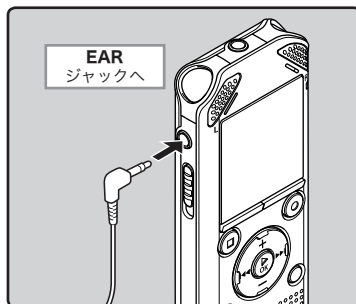
ファイルの再生方法は、目的やお好みに合わせてお選びください。

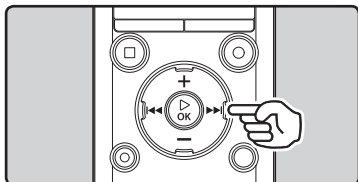
[声だけ再生] *1 (☞ **P.86**)	録音した音声ファイルの音声部分だけを再生します。
[ノイズキャンセル] *1 (☞ **P.87**)	録音した音声が聞き取りにくいときはノイズキャンセルを設定してください。
[ボイスバランサー] *1 (☞ **P.88**)	録音した音声ファイルの音量が小さい部分を補正して再生します。
[再生モード] (☞ **P.89**)	お好みに合わせて再生モードをお選びいただけます。
[イコライザー] *2 (☞ **P.92**)	お好みの音質で音楽を楽しめます
[スキップ間隔] (☞ **P.93**)	再生位置をすばやく移動したり、短いフレーズを繰り返し再生するときなどに便利です。
[再生シーン] (☞ **P.95**)	音質や再生方法に合わせて、お好みの再生設定を保存しておくことができます。

*1 [**レコーダー**] モードのときのみ機能します。
*2 [**ミュージック**] モードのときのみ機能します。

イヤホンで聞くには

本機の **EAR** ジャックにイヤホンを接続して聞くことができます。

- イヤホンを接続すると、スピーカから音は出力されません。

ご注意

- 耳への刺激を避けるため、音量を [**00**] にしてからイヤホンを入れてください。
- 再生中イヤホンで聞く場合、音量をあまり上げないでください。
  聴覚障害、聴力低下を引き起こすおそれがあります。

3 再生する

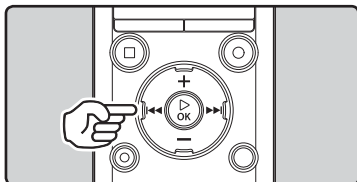
早送りをするには

停止中に ▶▶I ボタンを押し続ける。

- ディスプレイの［▶▶］が点灯します。
- ▶▶I ボタンから手を離すと停止します。▶OK ボタンを押すと、その位置から再生します。

再生中に ▶▶I ボタンを押し続ける。

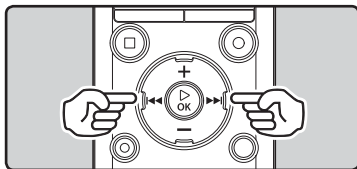
- ▶▶I ボタンから手を離すと、その位置から再生します。
- ファイルの途中にインデックスマークやテンプマークがついているときは、その位置でいったん停止します（☞ P.45）。
- ファイルの終わりまで進むといったん停止します。さらに ▶▶I ボタンを押し続けると、次のファイルの先頭から早送りを続けます。

早戻しをするには

停止中に I◀◀ ボタンを押し続ける。

- ディスプレイの［◀◀］が点灯します。
- I◀◀ ボタンから手を離すと停止します。▶OK ボタンを押すと、その位置から再生します。

再生中に I◀◀ ボタンを押し続ける。

- I◀◀ ボタンから手を離すと、その位置から再生します。
- ファイルの途中にインデックスマークやテンプマークがついているときは、その位置でいったん停止します（☞ P.45）。
- ファイルの先頭まで戻るといったん停止します。さらに I◀◀ ボタンを押し続けると、前のファイルの終わりから早戻しを続けます。

ファイルの頭出しをするには

停止中または再生中に ▶▶I ボタンを押す。

- 次のファイルの頭出しをします。

再生中に I◀◀ ボタンを押す。

- 再生中のファイルの頭出しをします。

停止中に I◀◀ ボタンを押す。

- 1 つ前のファイルの頭出しをします。ファイルの途中で停止している場合、そのファイルの頭出しをします。

再生中に I◀◀ ボタンを 2 回押す。

- 1 つ前のファイルの頭出しをします。

ご注意

- 再生中に頭出しをした場合でもファイルの途中にインデックスマークやテンプマークが記録されている場合は、その位置から再生を開始します。停止中の場合は頭出しをします（☞ P.45）。
- 再生中に頭出しをしたときに、[**スキップ間隔**] が [**ファイル スキップ**] 以外に設定されている場合、設定時間分だけスキップまたは逆スキップして再生を開始します（☞ P.93）。

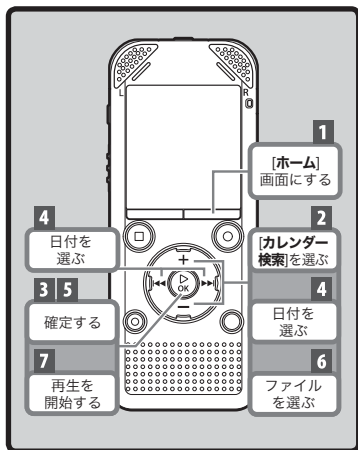
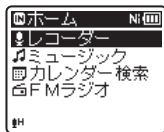
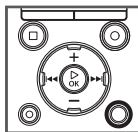
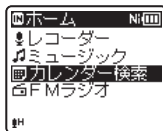
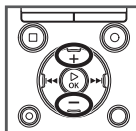
音楽ファイルについて

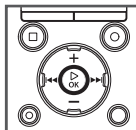
本機に転送した音楽ファイルが再生できない場合、サンプリングレートやビット数、ビットレートが再生できる範囲かご確認ください。本機で再生できる音楽ファイルのサンプリングレートやビット数、ビットレートの組み合わせは下記のとおりです。

ファイル形式	サンプリングレート	ビット数およびビットレート
WAV 形式	44.1 kHz	16 bit
MP3 形式	**MPEG1 Layer3**：32 kHz、44.1 kHz、48 kHz **MPEG2 Layer3**：16 kHz、22.05 kHz、24 kHz	8 kbps から 320 kbps まで
WMA 形式	8 kHz、11 kHz、16 kHz、22 kHz、32 kHz、44.1 kHz、48 kHz	5 kbps から 320 kbps まで

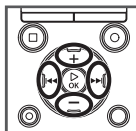
- 可変ビットレート（1 つのファイル内でビットレートを可変させて変換）の MP3 ファイルの再生については、正常に動作しない場合があります。
- WAV ファイルはリニア PCM 形式のみ、本機で再生できます。その他の WAV ファイルは再生できません。
- 本機で再生可能なファイル形式であっても、すべてのエンコーダに対応しているわけではありません。

ファイルを検索する

録音した日付から音声ファイルを検索できます。どのフォルダに録音したのかを忘れてしまっても、日付が分かっていればすぐに探し出せます。
検索できるファイルは、音声録音用フォルダ（[A]～[E]）の中に保存されているファイルのみです。

1 LIST ボタンを繰り返し押して［ホーム］画面にする

2 ＋またはーボタンを押して［カレンダー検索］を選ぶ

3 ▶OK ボタンを押す

- ［**カレンダー検索**］画面に入ります。

ⓐ 現在の日付
ⓑ ファイルを録音した日付

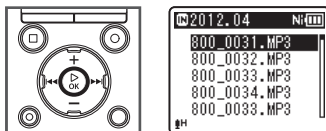
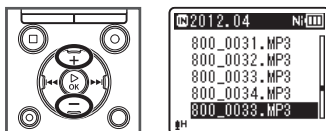
- ファイルが保存されている日付にはアンダーバーが表示されます。

4 ＋、ーまたは ▶▶I、I◀◀ ボタンを押して日付を選ぶ

ⓒ 選択した日付

▶▶I、I◀◀ ボタン：
前日／翌日へ移動します。
＋、ーボタン：
前週／翌週へ移動します。

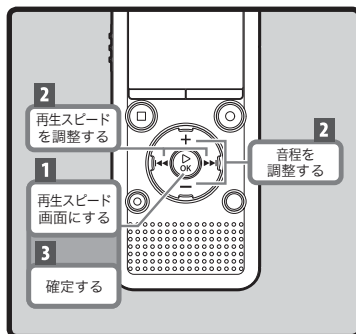
- **STOP**（■）ボタンを押すと設定がキャンセルされ、［**ホーム**］画面に戻ります。

5 ▶**OK** ボタンを押す

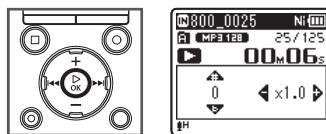
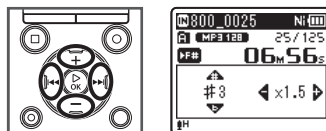
- 選んだ日付に保存されているファイルをリスト表示します。

6 ＋または－ボタンを押してファイルを選ぶ

- ⏮ ボタンを押すと設定がキャンセルされ、ひとつ前の画面に戻ります。

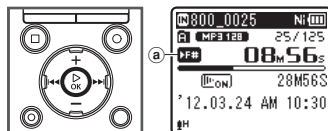
7 ▶**OK** ボタンを押して再生を開始する

再生音声を変更する

再生速度と音声の音程を変更できます。再生速度は会議の内容を早聞きしたり、語学学習で聞き取れなかった箇所を遅聞きするときに便利です。

1 再生中に▶**OK** ボタンを押す

2 ＋、－または ⏭、⏮ ボタンを押して音声を聞き取りやすくする

3 再生する

▶▶I、I◀◀ ボタン：
再生速度の調整ができます。
＋、−ボタン：
音程の調整ができます。
- 再生速度を変えても聞き取りにくいときは、音程を変えると聞きやすくなります。

3 ▶OK ボタンを押す

ⓐ 再生速度・音程表示
- 再生を停止しても、変更した再生スピードおよび音程はそのまま保持されます。

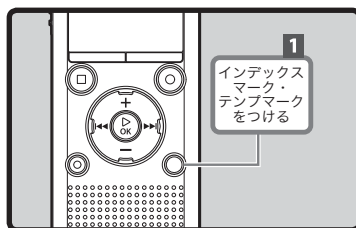
早聞き再生の制限事項について

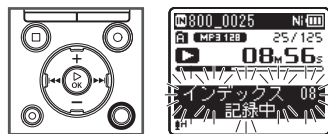
再生ファイルのサンプリング周波数やビットレートによっては、正常に動作しない場合があります。その場合は、再生速度を落として再生してください。

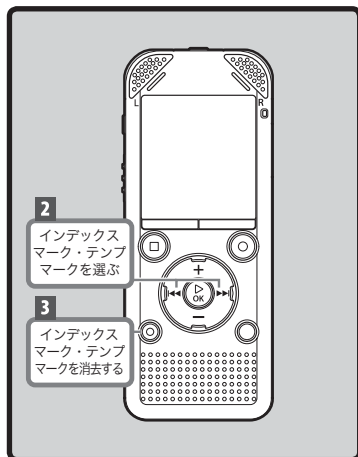
ご注意

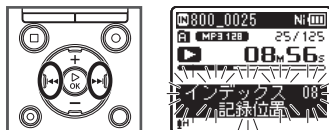
- 速度・音程を変更した再生中でも、通常の再生と同じように、再生の停止、ファイルの頭出し、インデックスマーク・テンプマークの挿入などの操作ができます。
- 速度・音程変更時は以下の機能が使えません。
  - ［**ノイズキャンセル**］(☞ P.87)

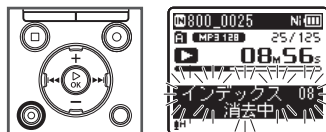
インデックスマーク・テンプマークをつける

インデックスマークやテンプマークをつけると、早送り・早戻しやファイルの頭出し操作で、聞きたい位置をすばやく探せます。オリンパス製 IC レコーダー以外の機器で作成されたファイルにはインデックスマークがつけられませんが、代わりにテンプマークをつけることで聞きたい位置の一時記憶ができます。

1 インデックスマーク・テンプマークをつける位置で、SCENE/INDEX ボタンを押す

- ディスプレイに番号が表示されインデックスマーク・テンプマークがつきます。

- インデックスマーク・テンプマークをつけたあとも録音または再生は続きますので、同様の操作で他の場所にインデックスマーク・テンプマークをつけることができます。

インデックスマーク・テンプマークを消去する

1 消去したいインデックスマーク・テンプマークのあるファイルを選ぶ

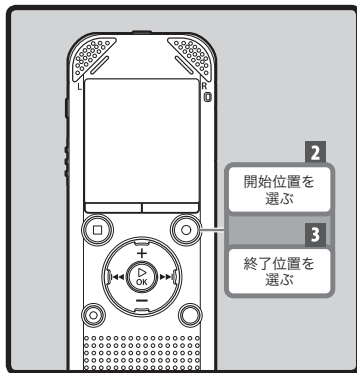
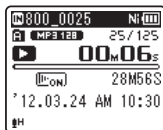
2 ▶▶I または I◀◀ ボタンを押して消去したいインデックスマーク・テンプマークを選ぶ

3 ディスプレイにインデックス・テンプ番号が表示されている間（約 2 秒間）に、**ERASE** ボタンを押す

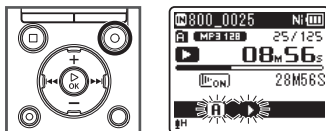
- インデックスマーク・テンプマークが消去されます。

- 消去したインデックスマーク・テンプマーク以降の番号は自動的に繰り上がります。

ご注意

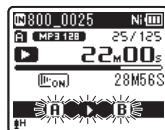
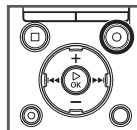
- テンプマークは一時的なマーキングですので、ファイルをパソコンに転送したり、パソコンで移動すると自動的に消去されます。
- インデックスマーク・テンプマークは 1 つのファイル内に最大で 99 件までつけることができます。99 件を超えてインデックスマーク・テンプマークをつけようとすると［**これ以上記録できません**］と表示されます。
- ファイルロックをかけてあるファイルは、インデックスマーク・テンプマークをつけたり消去することができません（☞ P.66）。

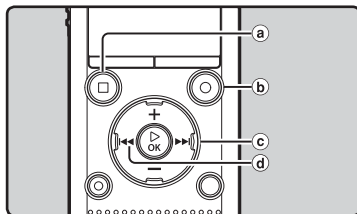
部分リピート再生のしかた

再生中のファイルの一部分を繰り返し再生できます。

1 部分リピートしたいファイルを選び、再生を開始する

2 部分リピート再生の開始位置で、REC（●）ボタンを押す

- ディスプレイの［A］が点滅します。

- この［A］の点滅中も通常の再生中と同じように再生スピードの切り替え（☞ P.44）や、早送り・早戻し（☞ P.41）が行え、終了位置まで早く進められます。
- ［A］の点滅中にファイルの終わりまで到達した場合、そこが終了位置になり、リピート再生を開始します。

3 部分リピート再生を終了させたい位置で、もう一度 REC（●）ボタンを押す

- 部分リピート再生を解除するまで、繰り返し再生します。

ご注意

- 部分リピート再生中も通常再生と同じように、再生スピードを変えることができます（☞ P.44）。また、部分リピート再生中にインデックスマークやテンプマークの挿入・消去をした場合、部分リピート再生が解除され通常の再生に戻ります（☞ P.45）。

部分リピート再生を解除する

下記のいずれかのボタンを押すと、部分リピート再生は解除されます。

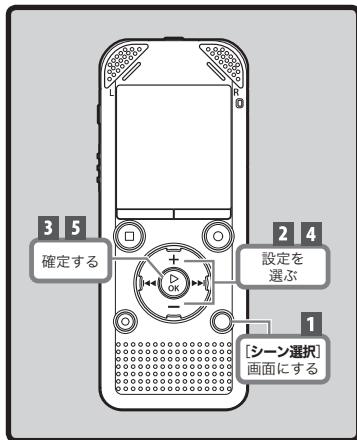
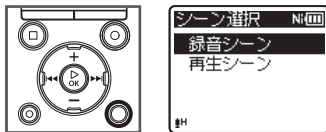
ⓐ **STOP（■）ボタンを押す。**
STOP（■）ボタンを押すと、部分リピート再生が解除され、再生が停止します。

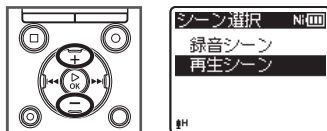
ⓑ **REC（●）ボタンを押す。**
REC（●）ボタンを押すと、部分リピート再生が解除され、通常の再生に戻ります。

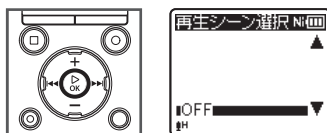
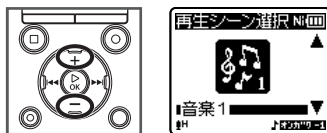
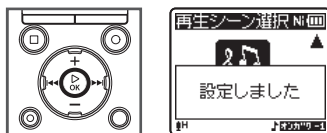
ⓒ **▶▶I ボタンを押す。**
▶▶I ボタンを押すと、部分リピート再生が解除され、次のファイルの頭出しになります。

ⓓ **I◀◀ ボタンを押す。**
I◀◀ ボタンを押すと、部分リピート再生が解除され、再生中のファイルの頭出しになります。

録音シーンや再生シーンを切り替える

録音シーンや再生シーンは簡単に切り替えができます。あらかじめ録音や再生に関する設定を登録すると、その設定内容で録音や再生を操作できます。詳しくは、「**録音シーンの設定［Rec Scene］**」または「**再生シーンの設定［Play Scene］**」をご覧ください（☞ P.83、P.95）。

1 停止中に **SCENE/INDEX** ボタンを押し続ける

- 再生中に **SCENE/INDEX** ボタン押した場合、手順４に進みます。

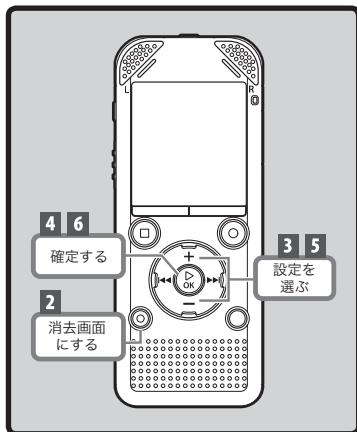
2 **＋**または**－**ボタンを押して［**録音シーン**］または［**再生シーン**］を選ぶ

3 **►OK** ボタンを押す

例：［**再生シーン**］を選んだ場合

4 **＋**または**－**ボタンを押して録音シーンまたは再生シーンを選ぶ

5 **►OK** ボタンを押す

ご注意

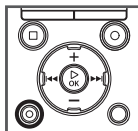
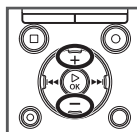
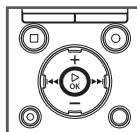
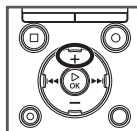
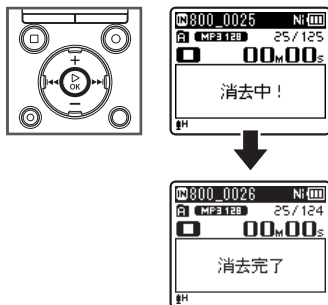
- ご購入直後は再生シーンの設定内容はすべてが初期設定となっています。
- 録音中は録音シーンが切り替えられません。

消去する

ファイルを消去する

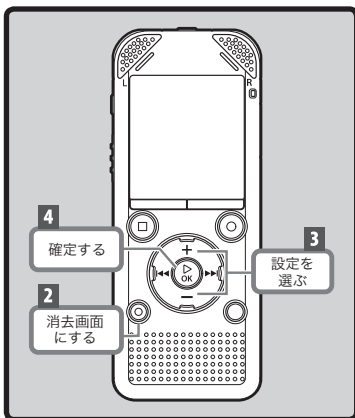
フォルダ内の消去したいファイルを消去できます。また、選んだフォルダやフォルダ内のファイルすべてを消去できます。

1 消去したいファイルを選ぶ
(☞ P.31)

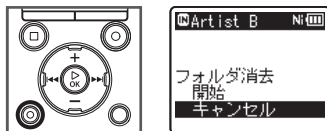
2 ファイル表示画面で停止中に **ERASE** ボタンを押す

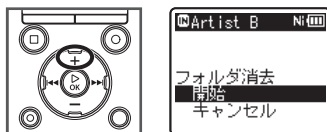
• 操作中に 8 秒間何も操作しないと停止状態に戻ります。

3 **+**または**−**ボタンを押して［**フォルダ内消去**］または［**1 件消去**］を選ぶ

4 **►OK** ボタンを押す

5 **+** ボタンを押して［**開始**］を選ぶ

6 ►**OK** ボタンを押す

- ディスプレイが［**消去中！**］に変わり、消去を開始します。［**消去完了**］と表示されたら終了です。

フォルダを消去する

フォルダごとファイルを消去できます。

1 消去したいフォルダを選ぶ（☞ P.31）

2 フォルダ表示画面で停止中に **ERASE** ボタンを押す

- 操作中に 8 秒間何も操作しないと停止状態に戻ります。

3 **+** ボタンを押して［**開始**］を選ぶ

4 ►**OK** ボタンを押す

- ディスプレイが［**消去中 !**］に変わり、消去を開始します。［**消去完了**］と表示されたら終了です。

ご注意

- 一度消去したファイルは元に戻せません。消去の前に十分確認してください。

- 本機に microSD カードを入れた場合、操作する記録メディアが［**内蔵メモリ**］または［**microSD カード**］のどちらなのか間違えないよう必ず確認してください（☞ P.102）。
- ファイルロック設定のあるファイルや読み取り専用に設定されているファイルは消去されません（☞ P.66）。
- 本機のデフォルトフォルダの［**レコーダー**］（［**フォルダ A**］～［**フォルダ E**］および［**FM ラジオ**］）［**ミュージック**］は消去できません。
- ［**ミュージック**］フォルダでは、［**ミュージック**］以外のフォルダを消去できます。
- 本機で認識できないファイルがある場合、そのファイルおよびファイルのあるフォルダは消去されません。パソコンに接続して消去してください。
- 処理中に電池が切れることのないように充電するか、または新しい電池に交換してください。また、処理が完了するまで数十秒かかる場合があります。処理中には次のような操作は絶対にしないでください。データが破損するおそれがあります。
  ① 処理中に AC アダプタを取り外す。
  ② 処理中に電池を取り外す。
  ③ 記録メディアが［**microSD カード**］の場合、処理中にカードを取り外す。

FM ラジオのご使用にあたって

ラジオはご使用の場所により受信状態が大きく変わります。受信状態が良好でない場合、アンテナの位置や向きを調整するか窓辺など電波の届きやすい場所でご使用ください。

建物の中やビルの影では、受信できない場合があります

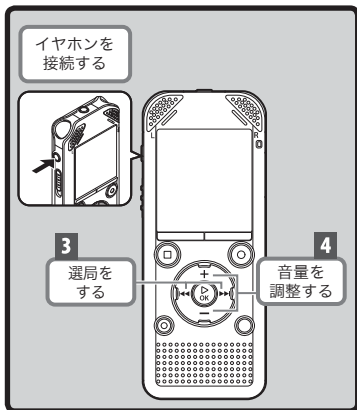
電波の届きやすい場所に移動してください。建物の中では窓辺に移動すると放送波を受信しやすくなります。

イヤホンを接続する

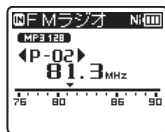
- 付属のイヤホンはＦＭアンテナとして機能します。イヤホンが接続されていないと FM ラジオを受信できません。

- 放送エリアの外や山間部など地形により電波の届かない場所でのラジオ受信はできません。あらかじめご了承ください。

ご注意

- 放送エリア内であってもトンネルや地下道、コンクリートで構造物を覆っているようなビルやマンションの内部や、これら建物の影などでは電波が届きにくくなる場合が多くあります。このような場所でのラジオ受信はできません。
- ラジオを受信する場合、携帯電話、パソコンやテレビなど他の電気製品と同時に使用することはお避けください。ノイズが発生するおそれがあります。
- AC アダプタ（A514 等）と接続して使用するとノイズが発生します。FM ラジオをご使用の際は、必ず電池でご使用ください。

FM ラジオモードの操作

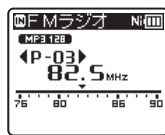
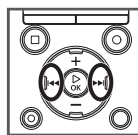
1 ［**FM ラジオ**］モードにする（☞ P.28）

- ［**FM ラジオ**］モードに切り替わります。
- FM ラジオ受信をやめる場合、**LIST** ボタンを押すと［**ホーム**］画面に入ります。［**ホーム**］画面から他のモードに切り替えることができます。

2 放送局を登録する

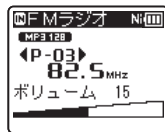
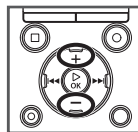
放送局を自動登録する（自動）：
あらかじめ放送局の自動登録をしておくと簡単に放送局の選局ができます。詳しくは、「**放送局を自動で登録する［Auto-preset］**」をご覧ください（☞ P.55）。

放送局を追加登録する（手動）：
受信モードをマニュアル受信に切り替えて周波数を調整します。受信した放送局は追加登録できます（☞ P.56、P.57）。

3 ►►I または I◄◄ ボタンを押して選局をする

- 登録済みの放送局を選べます。

- 放送局の登録が済んでいない場合でも受信はできます。詳しくは、「**受信モードの切り替え**」をご覧ください（☞ P.56）。

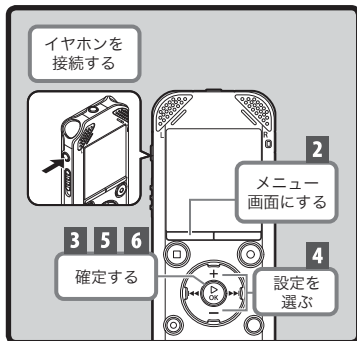
4 ＋または－ボタンを押して聞きやすい音量にする

- ［**00**］～［**30**］の範囲で調整できます。数字が大きくなると音量が上がります。

FM ラジオに関する設定

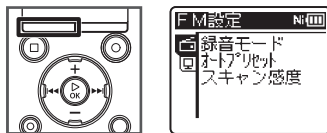
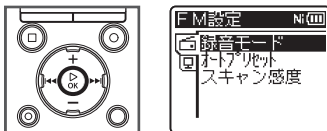
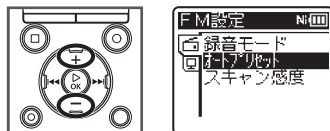
放送局の自動登録や、オートプリセット時のスキャン感度の設定ができます。

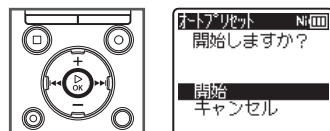
［オートプリセット］（☞ P.55）	受信可能な放送局を自動で登録します。
［スキャン感度］（☞ P.113）	オートプリセット時のスキャン感度を設定できます。
［出力設定］（☞ P.113）	FM ラジオの音声出力を設定できます。

放送局を自動で登録する［Auto-preset］

放送局の登録をしておくと放送局の呼び出しに便利です。

1 ［**FM ラジオ**］モードにする（☞ P.28）

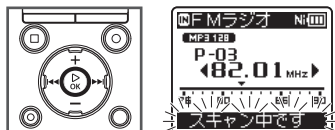
2 **MENU** ボタンを押す

- メニュー画面に入ります（☞ P.59）。

3 ▶**OK** ボタンを押してカーソルを設定項目へ移動させる

4 **+**または**−**ボタンを押して［**オートプリセット**］を選ぶ

5 ▶**OK** ボタンを押す

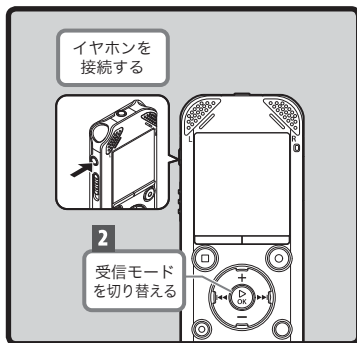
- ［**オートプリセット**］画面に入ります。

- ［**キャンセル**］を選び、▶**OK** ボタンを押すと前の画面に戻ります。

6 もう一度▶**OK** ボタンを押す

- ディスプレイが［**スキャン中です**］に変わり、スキャンを開始します。［**オートプリセットが完了しました**］と表示されたら終了です。

ご注意

- プリセット番号は周波数順に自動ソートされます。

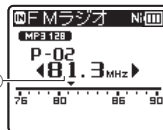
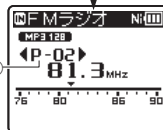
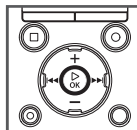
受信モードの切り替え

受信状況に合わせて受信モードを選べます。目的の放送局の電波が弱くオートプリセットでは放送局を検出できない場合には、マニュアル受信に切り替えると周波数の微調整ができます。

1 **「FM ラジオモードの操作」の手順 1 ～手順 3 までを操作する（☞ P.54）**

2 **▶OK ボタンを押して受信モードを選ぶ**

- あらかじめ放送局を登録しておくと、▶**OK** ボタンを押すたびに受信モードが切り替わります（☞ P.55）。

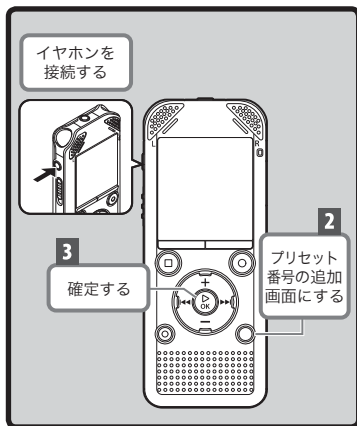
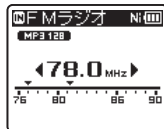
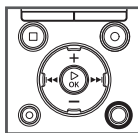
プリセットコールモード

- ▶▶I または I◀◀ ボタンを押して登録済みの放送局（プリセット番号）を選べます。
  ⓐ プリセット番号

オート／マニュアルモード

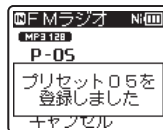
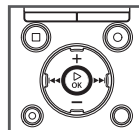
- ▶▶I または I◀◀ ボタンを押して受信周波数を調整して受信します（マニュアル受信）。
- ▶▶I または I◀◀ ボタンを押し続けると受信可能な放送局をスキャンします（オート受信）。
  ⓑ 受信周波数

- 放送局の登録をしていない周波数を受信しているときに ▶**OK** ボタンを押すと、受信していた周波数に近いプリセット番号の放送局に切り替わります。

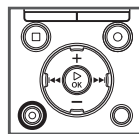
放送局を追加する

オート／マニュアル受信した放送局を追加登録できます。

1 登録する放送局を受信する

2 **SCENE/INDEX** ボタンを押す

- ［**キャンセル**］を選び、**▶OK** ボタンを押すと前の画面に戻ります。

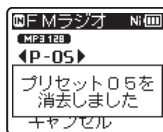
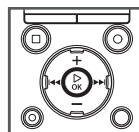
3 **▶OK** ボタンを押す

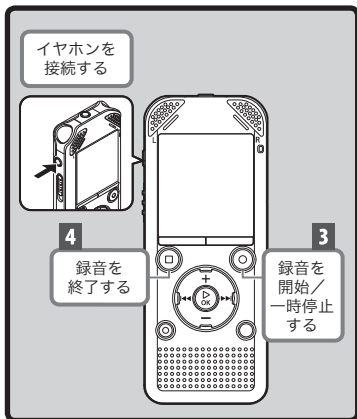
- 放送局は最大で 30 件まで登録できます。

登録した放送局を削除する

① 消去する登録済みの放送局を受信する

② **ERASE** ボタンを押す

③ **＋**または**－**ボタンを押して［**消去する**］を選ぶ

④ **▶OK** ボタンを押す

ご注意

- プリセット番号は周波数順に自動ソートされます。

FM ラジオを録音する

1 録音したい放送番組を受信する（☞ P.28、P.54）

2 FM ラジオに関するメニュー設定の［**出力設定**］を［**イヤホン**］にする（☞ P.113）

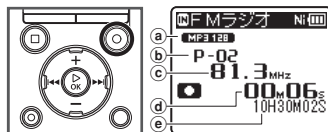
- ［**出力設定**］の設定を［**スピーカ**］にすると録音できません。

FM ラジオを録音するとき

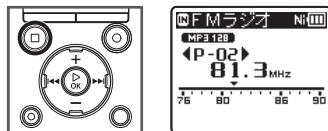
FM ラジオがきれいに聞こえても、受信環境により録音を開始するとノイズが入ることがあります。失敗のない録音をするために試し録りをしてください。またできるだけ受信状況の良い場所で録音してください。

3 **REC**（●）ボタンを押して録音を開始する

- LED 表示ランプが点灯し、ディスプレイの［■］が点灯します。

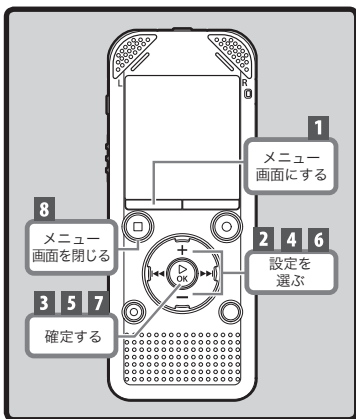
ⓐ 録音モード表示
ⓑ プリセット番号
ⓒ 受信周波数
ⓓ 録音経過時間
ⓔ 録音可能な残り時間

4 **STOP**（■）ボタンを押して録音を停止する

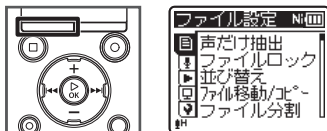
- ［■］が消灯し、受信画面に戻ります。

- 録音したファイルは、［**レコーダー**］フォルダ内の［**FM ラジオ**］フォルダに自動的に保存されます。

ご注意

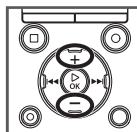
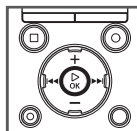
- FM ラジオを録音する場合、必ずイヤホンを **EAR** ジャックに接続してお使いください。
- FM ラジオを録音すると、音声録音の際につけられるファイル名（☞ P.36）の後に、さらに日付と時刻が追加されます。
  805_0001_120715_0915.WMA
  日付：120715（2012 年 7 月 15 日）
  時刻：0915（午前 9 時 15 分）

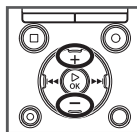
メニュー設定のしかた

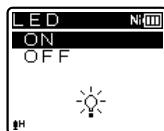
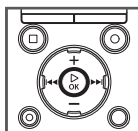
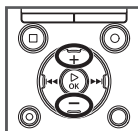
メニュー内の各項目はタブによって分類されているので、タブを選んで項目を移動すれば、すばやく目的の項目が設定できます。メニューの各項目は次の方法で設定が可能です。

1 録音中、再生中または停止中に MENU ボタンを押す

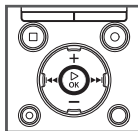
- メニュー画面に入ります。

- 録音中または再生中に設定できるメニュー項目については、メニューの一覧をご覧ください（☞ P.61 ～ P.64）。

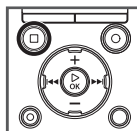
2 ＋または－ボタンを押して設定したい項目のあるタブを選ぶ

- 設定タブのカーソルを移動させるとメニュー画面が切り替わります。

3 ►OK ボタンを押してカーソルを設定項目へ移動する

- ►►I ボタンを押しても操作できます。

4 ＋または－ボタンを押して設定項目を選ぶ

5 ►OK ボタンを押す

- 選んだ項目の設定に移動します。
- ►►I ボタンを押しても操作できます。

6 ＋または－ボタンを押して設定を変更する

7 ►OK ボタンを押して設定を完了する

- 設定が確定されたことを画面でお知らせします。

- **►OK** ボタンを押さずに **I◄◄** ボタンを押すと、設定がキャンセルされ、1 つ前の画面に戻ります。

8 STOP（■）ボタンを押してメニュー画面を終了する

- 録音中または再生中にメニュー画面に入った場合、**STOP**（■）ボタンを押すと、録音または再生を中断させることなく元の画面に戻ります。

ご注意

- 停止中からの設定では、3 分間何も操作しないと停止状態に戻ります。この場合、設定途中の項目は変更されません。
- 録音または再生途中からの設定では、8 秒間何も操作しないとメニュー機能はキャンセルされます。

メニューの一覧

■ ファイルに関するメニュー設定：

設定タブ	設定項目	選択肢
ファイル設定 [File Menu]	**声だけ抽出 *1** [Voice Detect] ☞ P.65	音声ファイルの音声部分のみを抽出できます。
	ファイルロック [File Lock] ☞ P.66	[**ON**] [**OFF**]
	並び替え [Replace] ☞ P.67	フォルダ内のファイルを並び換えて再生順序を変更できます。
	ファイル移動／コピー [Move/Copy] ☞ P.68	メモリ間でファイルのコピーと移動が行えます。
	ファイル分割 [File Divide] ☞ P70	本機で録音したファイル（PCM、MP3）を分割することができます。
	プロパティ [Property] ☞ P.72	ファイルを選んだ場合： [**名前**] [**日時**] [**サイズ**] [**ビットレート**] [**アーティスト**] [**アルバム**] フォルダを選んだ場合： [**名前**] [**フォルダ数**] ***2** [**ファイル数**]

***1** [**レコーダー**] モードのときのみ機能します。
***2** [**ミュージック**] モードのときのみ表示されます。

■ 録音に関するメニュー設定：

設定タブ	設定項目	選択肢
録音設定 [Rec Menu]	**録音レベル** [Rec Level] ☞ P.74	[**高 (講義)**] [**中 (会議)**] [**低 (メモ)**]
	録音モード [Rec Mode] ☞ P.76	[**PCM**] [**MP3**] [**WMA**] 録音形式ごとに録音レートを設定できます。
	ローカットフィルタ [Low Cut Filter] ☞ P.78	[**ON**] [**OFF**]
	VCVA [VCVA] ☞ P.79	[**ON**] [**OFF**]
	音声同期録音 [V-Sync. Rec] ☞ P.81	[**ON / OFF**]： [**ON**] [**OFF**] [**無音検出時間**]： [**1 秒**] ～ [**5 秒**] [**10 秒**] [**モード**]： [**1 回**] [**連続**]
	録音シーン [Rec Scene] ☞ P.83	[**OFF**] [**講義**] [**会議**] [**商談**] [**口述**] [**ユーザー 1**] ～ [**ユーザー 3**]

! 選択肢欄の ▭ 表記は初期設定値です

■ 再生に関するメニュー設定：

設定タブ	設定項目	選択肢
再生設定 [Play Menu]	**声だけ再生 *1**［Voice Playback］ ☞ P.86	［**ON**］［**OFF**］
	ノイズキャンセル *1［Noise Cancel］ ☞ P.87	［**HIGH**］［**LOW**］［**OFF**］
	ボイスバランサー *1［Voice Balancer］ ☞ P.88	［**ON**］［**OFF**］
	再生モード［Play Mode］☞ P.89	［**再生範囲**］： ［**ファイル**］［**フォルダ**］ ［**全ファイル**］***2** ［**リピート**］***2**： ［**ON**］［**OFF**］ ［**ランダム**］***2**： ［**ON**］［**OFF**］
	イコライザー *2［Equalizer］☞ P.92	［**OFF**］［**ROCK**］［**POP**］［**JAZZ**］ ［**USER**］
	スキップ間隔［Skip Space］☞ P.93	［**スキップ**］： ［**ファイル スキップ**］ ［**10 秒 スキップ**］［**30 秒 スキップ**］ ［**1 分 スキップ**］［**5 分 スキップ**］ ［**10 分 スキップ**］ ［**逆スキップ**］： ［**ファイル スキップ**］ ［**1 秒 スキップ**］～［**5 秒 スキップ**］ ［**10 秒 スキップ**］［**30 秒 スキップ**］ ［**1 分 スキップ**］［**5 分 スキップ**］ ［**10 分 スキップ**］
	再生シーン［Play Scene］☞ P.95	［**OFF**］［**音声 1**］［**音声 2**］ ［**音楽 1**］［**音楽 2**］［**音楽 3**］

***1**［**レコーダー**］モードのときのみ機能します。
***2**［**ミュージック**］モードのときのみ機能します。

■ ディスプレイや音に関するメニュー設定：

設定タブ	設定項目	選択肢
表示／音設定 [LCD/Sound Menu]	**バックライト** [Backlight] ☞ P.97	[**OFF**] [**5秒**] [**10秒**] [**30秒**] [**1分**]
	コントラスト [Contrast] ☞ P.98	[**01**] ～ [**06**] ～ [**12**]
	LED [LED] ☞ P.98	[**ON**] [**OFF**]
	ビープ音 [Beep] ☞ P.99	[**ON**] [**OFF**]
	言語選択（Lang） [Language(Lang)] ☞ P.100	[**日本語**] [**English**]
	スピーカ出力 [Speaker] ☞ P.101	[**ON**] [**OFF**]

■ 本機に関するメニュー設定：

設定タブ	設定項目	選択肢
本体設定 [Device Menu]	**メモリ選択** [Memory Select] ☞ P.102	[**内蔵メモリ**] [**microSD カード**]
	スリープ [Power Save] ☞ P.103	[**5分**] [**10分**] [**30分**] [**1時間**] [**OFF**]
	電池設定 [Battery] ☞ P.104	[**ニッケル水素充電池**] [**アルカリ電池**]
	時計設定 [Time & Date] ☞ P.23	[**時**] [**分**] [**年**] [**月**] [**日**]
	USB 設定 [USB Settings] ☞ P.105	[**USB 接続**]： [**PC 接続**] [**AC アダプタ接続**] [**毎回確認**] [**USB クラス**]： [**ストレージ**] [**コンポジット**]
	設定リセット [Reset Settings] ☞ P.106	メニュー設定を初期設定に戻します。
	初期化 [Format] ☞ P.108	メモリを初期化します。
	メモリ情報 [Memory Info.] ☞ P.110	メモリの残量と容量を表示します。
	システム情報 [System Info.] ☞ P.111	[**モデル**] [**バージョン**] [**シリアル番号**]

■ FMラジオに関するメニュー設定:

［**FMラジオ**］モードのときのみ機能します。

設定タブ	設定項目	選択肢
FM設定 ［FM Menu］	**録音モード**［Rec Mode］☞ P.112	［**PCM**］［**MP3**］［**WMA**］
	オートプリセット［Auto-preset］☞ P.55	放送局を自動的に登録します。
	スキャン感度［Scan Level］☞ P.113	FMラジオの受信感度を設定します。
表示／音設定 ［LCD/Sound Menu］	**バックライト**［Backlight］☞ P.97	［**OFF**］［**5秒**］［**10秒**］［**30秒**］［**1分**］
	LED［LED］☞ P.98	［**ON**］［**OFF**］
	出力設定［Output］☞ P.113	［**イヤホン**］［**スピーカ**］

■ 録音動作中のメニュー設定:

設定項目	選択肢
録音レベル	**メニュー項目の選択肢へ**
ローカットフィルタ	
VCVA	
バックライト	
LED	

■ 再生動作中のメニュー設定:

設定項目	選択肢
プロパティ	**メニュー項目の選択肢へ**
ノイズキャンセル *1	
ボイスバランサー *1	
再生モード	
イコライザー *2	
スキップ間隔	
バックライト	
LED	

***1**［**レコーダー**］モードのときのみ機能します。
***2**［**ミュージック**］モードのときのみ機能します。

■ FM受信中のメニュー設定:

設定項目	選択肢
録音モード	**メニュー項目の選択肢へ**
オートプリセット	
スキャン感度	
バックライト	
LED	
出力設定	

- ［**FMラジオ**］モードで録音中は［**バックライト**］および［**LED**］の設定のみ機能します。

ファイル設定 [File Menu]

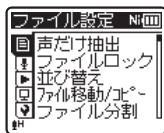
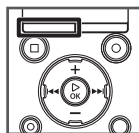
ファイルの音声を抽出する [Voice Detect]

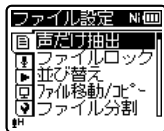
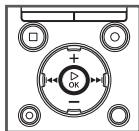
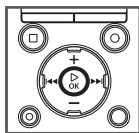
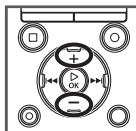
本機で録音した音声ファイルの音声部分を抽出します。抽出処理されたファイルを再生すると、無音部分は自動的にスキップされます（☞ P.86）。

- 音声抽出機能は［**レコーダー**］モードのときのみ機能します。

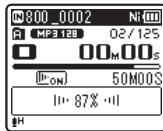
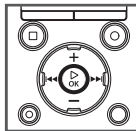
1 音声を抽出したいファイルが収録されているフォルダ（[A]～［E]）を選ぶ（☞ P.31）

2 停止中に **MENU** ボタンを押す

- メニュー画面に入ります（☞ P.59）。

3 ►**OK** ボタンを押してカーソルを設定項目へ移動させる

- ［**ファイル設定**］画面に入ります。

4 ►**OK** ボタンを押す

5 **+**または**−**ボタンを押して音声を抽出したいファイルを選ぶ

- ⏮ ボタンを押すと設定がキャンセルされ、［**ファイル設定**］画面に戻ります。

6 ►**OK** ボタンを押す

- 音声部分の抽出を開始します。ディスプレイに進行状況をパーセンテージで表示します。
- ［**声だけ抽出処理が完了しました**］と表示されたら終了です。

- 設定に合わせて、ディスプレイにアイコンが表示されます。

ファイルリスト表示画面

ⓐ 声だけ抽出

ご注意

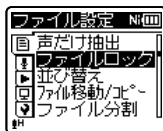
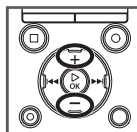
- 音声部分の抽出が終了すると、[**再生設定**] メニューにある [**声だけ再生**] の設定が [**ON**] に切り替わります (☞ P.86)。
- ファイルが保存されていないフォルダを選んでいる場合、[**ファイルを選択してください**] と表示されます。ファイル が保存されているフォルダを選んでから操作してください。
- 楽器の演奏などを録音したファイルでは、音声部分を正しく抽出できないことがあります。
- 録音時における音声が小さい場合 (レベルメーターが －12 dB 以下) や、周囲のノイズによっては、音声部分を正しく抽出できないことがあります。
- 録音した音声ファイルの容量が大きいほど、抽出処理に時間がかかります。処理中に電池が切れることのないように、あらかじめ充電するか、または新しい電池に交換することをおすすめします。

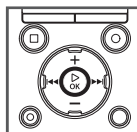
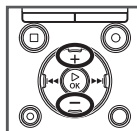
ファイルロックの設定 [File Lock]

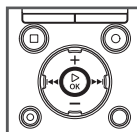
ファイルにファイルロックをかけることにより、重要なファイルの誤消去を防止できます。また、フォルダ内のファイル全消去を行っても消去されません (☞ P.50)。

1 ファイルロックをかけたいファイルを選ぶ (☞ P.31)

2 ファイルの音声を抽出する [Voice Detect] の手順 2 ～ 3 と同様の操作で [**ファイル設定**] 画面に入ります (☞ P.65)

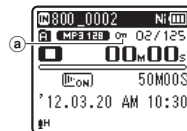
3 ＋または－ボタンを押して [**ファイルロック**] を選ぶ

4 ►OK ボタンを押す

- [**ファイルロック**] 画面に入ります。

5 ＋または－ボタンを押して設定を変更する

[**ON**]：
ファイルロックがかかります。
[**OFF**]：
ファイルロックが解除されます。

6 ►OK ボタンを押して設定を完了する

- ⏮ ボタンを押すと設定がキャンセルされ、[**ファイル設定**] 画面に戻ります。

7 **STOP（■）ボタンを押してメニュー画面を終了する**

- 設定に合わせて、ディスプレイにアイコンが表示されます。

ファイルリスト表示画面

ファイル表示画面

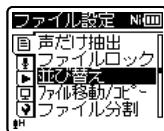
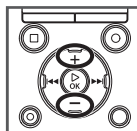
ⓐ ファイルロック

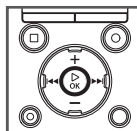
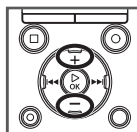
ファイルの並び替えをする [Replace]

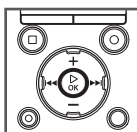
フォルダ内にあるファイルの再生順を変更できます。あらかじめ再生順を変更したいフォルダ（ファイル）を選んでください。

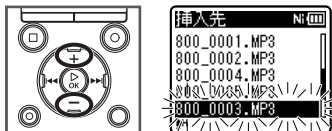
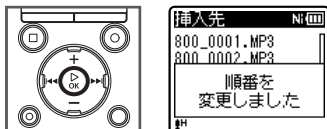
1 **ファイルを入れ替えたいフォルダを選ぶ（☞ P.31）**

2 **ファイルの音声を抽出する［Voice Detect］の手順２～３と同様の操作で［ファイル設定］画面に入ります（☞ P.65）**

3 **＋または－ボタンを押して［並び替え］を選ぶ**

4 **►OK ボタンを押す**

- 手順１で選んだフォルダ内のファイルがリスト表示されます。

5 **＋または－ボタンを押して移動したいファイルを選ぶ**

6 **►OK ボタンを押す**

- カーソルが点滅表示し移動対象ファイルとして確定します。

- ⏮ ボタンを押すと設定がキャンセルされ、[**ファイル選択**] 画面に戻ります。

7 ＋または－ボタンを押して移動したい場所を選ぶ

8 ▶OK ボタンを押して移動を完了する

- 引き続き並び替えたいファイルがある場合、再度手順 5 ～手順 8 の操作を行ってください。
- ▶OK ボタンを押さずに ⏮ ボタンを押すと、設定がキャンセルされ、1 つ前の画面に戻ります。

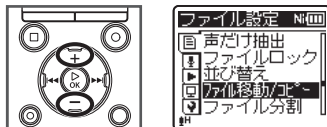
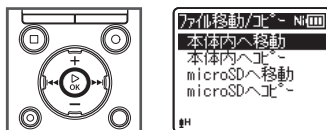
9 STOP（■）ボタンを押してメニュー画面を終了する

ファイルの移動／コピー [Move/Copy]

内蔵メモリまたは microSD カードに保存されているファイルを、メモリ内で移動したりコピーすることができます。
また、メモリ間のファイル移動やコピーも可能です。

1 あらかじめ移動またはコピーしたいファイルが収録されているフォルダを選ぶ(☞ P.31)

2 ファイルの音声を抽出する［Voice Detect］の手順 2 ～ 3 と同様の操作で［**ファイル設定**］画面に入ります(☞ P.65)

3 ＋または－ボタンを押して［**ファイル移動／コピー**］を選ぶ

4 ▶OK ボタンを押す

5 ＋または－ボタンを押してファイルの移動またはコピー方法を選ぶ

[**本体内へ移動**]：
内蔵メモリまたは microSD カード内のファイルを内蔵メモリ内の別のフォルダへ移動する。
[**本体内へコピー**]：
内蔵メモリまたは microSD カード内のファイルを内蔵メモリ内の別のフォルダへコピーする。
[**microSD へ移動**]：
内蔵メモリまたは microSD カード内のファイルを microSD カード内の別のフォルダへ移動する。
[**microSD へコピー**]：
内蔵メモリまたは microSD カード内のファイルを microSD カード内の別のフォルダへコピーする。

6 ►OK ボタンを押す

7 ＋またはーボタンを押してファイルの移動またはコピー件数を選ぶ

[**1 件**]：指定した 1 件を選びます。
[**選択**]：複数のファイルを選びます。
[**全件**]：フォルダ内のファイルをすべて選びます。

8 ►OK ボタンを押してそれぞれの設定に移る

[1 件] を選んだ場合：

① ＋またはーボタンを押して移動またはコピーしたいファイルを選び、►**OK** ボタンを押す。

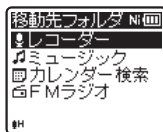
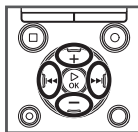
[選択] を選んだ場合：

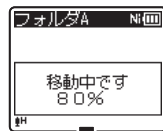
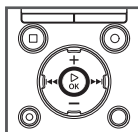
① ＋またはーボタンを押して移動またはコピーしたいファイルを選び、►►I ボタンを押す。

② 手順 ① を繰り返して、移動またはコピーしたいファイルを選んだら、►**OK** ボタンを押す。

[全件] を選んだ場合：

自動的に現在のフォルダ内の全てのファイルが選択され、[**移動先フォルダ**] 画面に移ります。

9 +、−または ▶▶I、I◀◀ ボタンを押してファイルの移動またはコピー先のフォルダを選ぶ

10 ▶OK ボタンを押す

- ディスプレイに [**移動中です**] または [**コピー中です**] が表示され、移動またはコピーを開始します。その間は進行状況をパーセンテージで表示します。

- [**移動しました**] または [**コピーしました**] と表示されたら終了です。

ご注意

- メモリ残量が足りない場合はコピーできません。
- ファイル件数が 200 件を超える場合は移動またはコピーできません。
- ファイルの移動またはコピー中に電池を抜かないでください。データが破損するおそれがあります。
- 同フォルダ内のファイル移動またはコピーはできません。
- 移動またはコピー中に操作をキャンセルすると、現在移動またはコピーを完了したファイルまでは有効となり、それ以外のファイルはキャンセルされます。
- ファイルロック（☞ P.66）のかけてあるファイルは、移動またはコピー後もその状態を保ちます。
- DRM が施されているファイルの移動またはコピーはできません。
- [**レコーダー**] フォルダ直下にはファイルの移動またはコピーはできません。

ファイルの分割をする [File Divide]

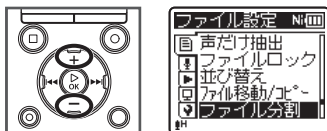
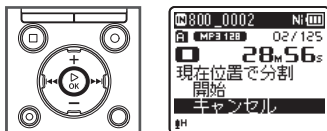
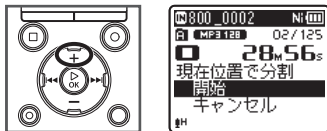
容量の大きいファイルや録音時間の長いファイルを分割して管理・編集しやすくすることができます。

> ! ファイル分割できるファイルは本機で録音した MP3 形式、PCM 形式のみです。

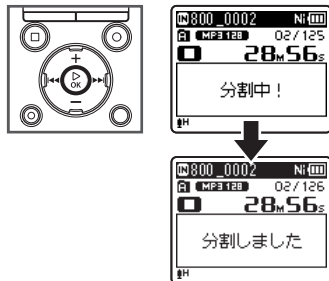
1 ファイル分割したい位置で停止させる

- ▶▶I または I◀◀ ボタンを押し続けると早送り・早戻しします。
- 分割位置はあらかじめインデックスマークなどでマーキングしておくと便利です。

2 ファイルの音声を抽出する［**Voice Detect**］の手順 2 〜 3 と同様の操作で［**ファイル設定**］画面に入ります
（☞ P.65）

3 **＋**または**－**ボタンを押して［**ファイル分割**］を選ぶ

4 **►OK** ボタンを押す

5 **＋** ボタンを押して［**開始**］を選ぶ

• **⏮** ボタンを押すと設定がキャンセルされ、［**ファイル設定**］画面に戻ります。

6 **►OK** ボタンを押す

• ディスプレイが［**分割中 !**］に変わり、ファイル分割を開始します。
［**分割しました**］と表示されたら終了です。

7 **STOP**（■）ボタンを押してメニュー画面を終了する

ご注意

• ファイル表示画面以外からは［**ファイル分割**］はできません。
• フォルダ内のファイル件数が 199 件以上の場合、分割できません。
• ファイルロック（☞ P.66）がかかっているファイルは分割できません。
• 分割後のファイルは、前半部分のファイルは「**ファイル名 _1.mp3**」、後半部分のファイルは「**ファイル名 _2.mp3**」となります。
• MP3 や PCM ファイルでも収録時間の極端に短いファイルは分割できない場合があります。
• ファイルの分割中に電池を抜かないでください。データが破損するおそれがあります。

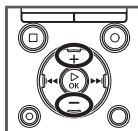
ファイルやフォルダの情報を見る [Property]

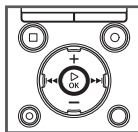
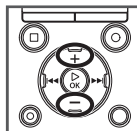
メニュー画面からファイルやフォルダの情報を確認できます。

ファイルの情報を見る

1 情報を表示したいファイルを選ぶ（☞ P.31）

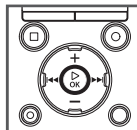
2 ファイルの音声を抽出する［Voice Detect］の手順２～３と同様の操作で［**ファイル設定**］画面に入ります（☞ P.65）

3 **＋**または**－**ボタンを押して［**プロパティ**］を選ぶ

4 **►OK** ボタンを押す

- ［**プロパティ**］画面に入ります。

5 **＋**または**－**ボタンを押して画面を切り替える

- ［**名前**］［**日時**］［**サイズ**］［**ビットレート**］***1**［**アーティスト**］***2**［**アルバム**］***2** が表示されます。

***1** リニア PCM 形式のファイルを選んだ場合、［**ビットレート**］部にサンプリング周波数やビット数が表示されます。

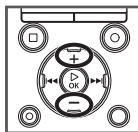
***2** タグ情報がファイルにない場合、［**UNKNOWN_ARTIST**］、［**UNKNOWN_ALBUM**］と表示されます。

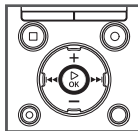
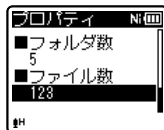
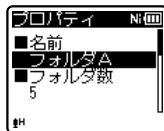
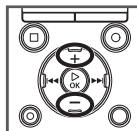
6 情報を確認したら **►OK** ボタンを押して［**プロパティ**］画面から出る

7 **STOP**（■）ボタンを押してメニュー画面を終了する

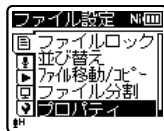
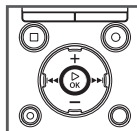
フォルダの情報を見る

1 情報を表示したいフォルダを選ぶ（☞ P.31）

2 ファイルの音声を抽出する［**Voice Detect**］の手順２～３と同様の操作で［**ファイル設定**］画面に入ります（☞ P.65）

3 ＋または－ボタンを押して［**プロパティ**］を選ぶ

4 ▶**OK** ボタンを押す

- ［**プロパティ**］画面に入ります。

5 ＋または－ボタンを押して画面を切り替える

- ［**名前**］［**フォルダ数**］［**ファイル数**］が表示されます。
- ［**レコーダー**］モードの場合、［**フォルダ数**］は表示されません。
- 本機で認識できない形式のファイルについては、ファイル数に含まれません。

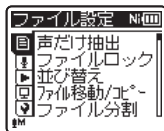
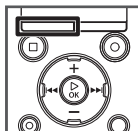
6 情報を確認したら▶**OK** ボタンを押して［**プロパティ**］画面から出る

7 **STOP**（■）ボタンを押してメニュー画面を終了する

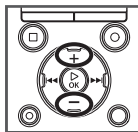
録音設定 [Rec Menu]

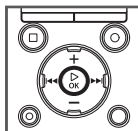
録音レベルの設定 [Rec Level]

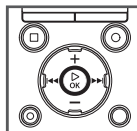
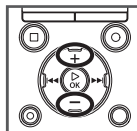
目的に合わせて録音レベルの感度を切り替えられます。

1 停止中または録音中に MENU ボタンを押す

• メニュー画面に入ります (☞ P.59)。

2 ＋またはーボタンを押して［録音設定］タブを選ぶ

• 設定タブのカーソルを移動させるとメニュー画面が切り替わります。

3 ►OK ボタンを押してカーソルを設定項目へ移動させる

• ［**録音設定**］画面に入ります。

4 ►OK ボタンを押す

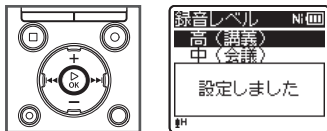
• ［**録音レベル**］画面に入ります。

5 ＋またはーボタンを押して［高（講義）］、［中（会議）］または［低（メモ）］を選ぶ

［**高（講義）**］:
最も録音感度が高く、大人数の会議など、遠くの音や小さな音の録音に適しています。

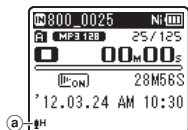
［**中（会議）**］:
打合せや少人数の会議などの録音に適しています。

［**低（メモ）**］:
最も録音感度が低く、口述録音に適しています。

• ⏮ ボタンを押すと設定がキャンセルされ、［**録音設定**］画面に戻ります。

5 録音設定

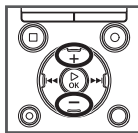
6 ►OK ボタンを押して設定を完了する

7 STOP（■）ボタンを押してメニュー画面を終了する

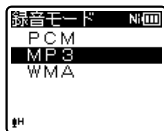
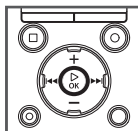
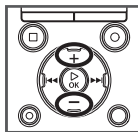
- 設定に合わせて、ディスプレイにアイコンが表示されます。

ⓐ録音レベル

録音モードの設定 [Rec Mode]

ステレオまたはモノラルの録音方式のほか、音質を重視して録音したり録音時間を重視して録音できます。目的に合わせて録音モードをお選びください。

1 停止中に録音レベルの設定［**Rec Level**］の手順 1 〜 3 と同様の操作で［**録音設定**］画面に入ります（☞ P.74）

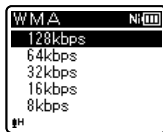
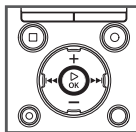
2 ＋または－ボタンを押して［**録音モード**］を選ぶ

3 ►**OK** ボタンを押す

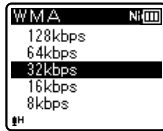
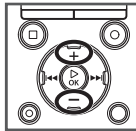
- ［**録音モード**］画面に入ります。

4 ＋または－ボタンを押して録音モードを選ぶ

[PCM]：
音楽 CD などに採用されている非圧縮音声形式です。

[MP3]：
ISO（国際標準化機構）のワーキンググループである MPEG が制定した国際規格です。

[WMA]：
米国マイクロソフト社が開発した音声圧縮符号化方式です。

- ⏮ ボタンを押すと設定がキャンセルされ、［**録音設定**］画面に戻ります。

5 ►**OK** ボタンを押す

例：［**WMA**］を選んだ場合

6 ＋または－ボタンを押して録音レートを選ぶ

[PCM］を選んだ場合：
［**44.1 kHz/16 bit**］

[MP3］を選んだ場合：
［**256kbps**］［**128kbps**］

[WMA］を選んだ場合：
［**128kbps**］［**64kbps**］［**32kbps**］*［**16kbps**］*［**8kbps**］*

* モノラル録音になります。

- サンプリングレートやビット数、ビットレートは数値が高いほどより高音質な規格になります。
- 高い録音レートに設定した場合、ファイル容量が大きくなります。録音操作の前に、メモリ残量が充分にあるかご確認ください。
- ⏮ ボタンを押すと設定がキャンセルされ、前の画面に戻ります。

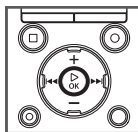
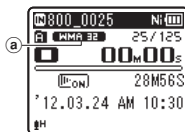
7 ▶OK ボタンを押して設定を完了する

8 STOP（■）ボタンを押してメニュー画面を終了する

- 設定に合わせて、ディスプレイにアイコンが表示されます。

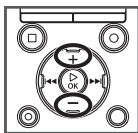
ⓐ 録音モード

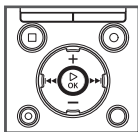
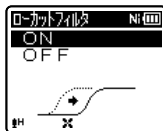
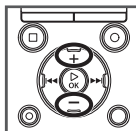
ご注意

- 会議や講演会などをはっきりと録音したい場合、［**録音モード**］の設定を［**8kbps**］以外にして録音してください。
- ［**録音モード**］の設定をステレオ方式にしてモノラルマイクを接続した場合、Lチャンネルのみに音声が録音されます。

ローカットフィルタの設定 [Low Cut Filter]

録音時に低周波音をカットし、音声をよりクリアに録音するローカットフィルタ機能を搭載しています。エアコンの空調音やプロジェクターなどのノイズを低減できます。

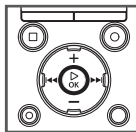
1 録音レベルの設定［Rec Level］の手順１～３と同様の操作で［録音設定］画面に入ります（☞ P.74）

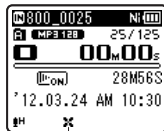
2 ＋または－ボタンを押して［ローカットフィルタ］を選ぶ

3 ►OK ボタンを押す

- ［**ローカットフィルタ**］画面に入ります。

4 ＋または－ボタンを押して［ON］または［OFF］を選ぶ

［**ON**］：ローカットフィルタが機能します。

［**OFF**］：機能しません。

- **⏮** ボタンを押すと設定がキャンセルされ、［**録音設定**］画面に戻ります。

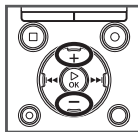
5 ►OK ボタンを押して設定を完了する

6 STOP（■）ボタンを押してメニュー画面を終了する

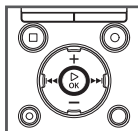
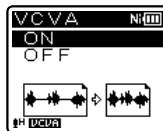
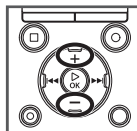
- 設定に合わせて、ディスプレイにアイコンが表示されます。

ⓐ ローカットフィルタ

音声起動録音の設定 [VCVA]

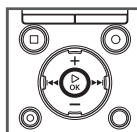
音声起動録音（VCVA）とは、設定した音声起動レベルよりも大きな音声を感知すると自動的に録音が始まり、音声が小さくなると自動的に録音を一時停止する機能です。会議中の長い沈黙などを自動的にカットして録音することによりメモリを節約できます。

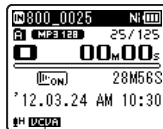
1 録音レベルの設定［Rec Level］の手順 1 ～ 3 と同様の操作で［録音設定］画面に入ります（☞ P.74）

2 ＋または－ボタンを押して［VCVA］を選ぶ

3 ►OK ボタンを押す

- ［VCVA］画面に入ります。

4 ＋または－ボタンを押して［ON］または［OFF］を選ぶ

［ON］：
VCVA が機能します。VCVA の音声起動レベルは調整できます（☞ P.80）。

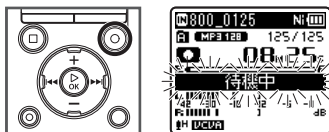
［OFF］：
機能しません。通常の録音に戻ります。

5 ►OK ボタンを押して設定を完了する

6 STOP（■）ボタンを押してメニュー画面を終了する

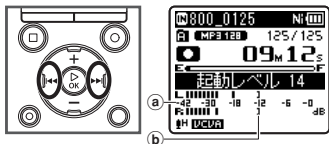
- 設定に合わせて、ディスプレイにアイコンが表示されます。

ⓐ VCVA 表示

5 録音設定

■ 音声起動レベルの調整をして録音する：

1 REC（●）ボタンを押して録音を開始する

- 設定した起動感度より音が小さくなると約 1 秒後に自動的に録音がいったん停止します。
  このときディスプレイに［**待機中**］が点滅します。録音起動中は LED 表示ランプが点灯し、いったん停止すると点滅します。

2 ►►I または I◄◄ ボタンを押して音声起動レベルを調整する

- ディスプレイに VCVA の音声起動レベルを 28 段階で表示します。
- 数字が大きくなるほど VCVA の起動感度は高くなり、小さな音でも録音が始まるようになります。

ⓐ レベルメーター（録音音量に合わせて変化します）
ⓑ 音声起動レベル（設定レベルに応じて左右に動きます）

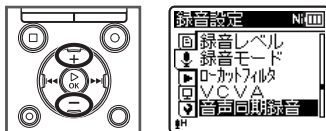
ご注意

- ［**VCVA**］機能を使うときは、以下の機能は使用できません。
  - ［**音声同期録音**］(☞ P.81)
- 音声起動レベルの調整は 2 秒以内に行わないと表示が元に戻ります。
- まわりの雑音が大きいなど、録音状況に応じて VCVA の音声起動レベルを調整できます。
- 失敗のない録音を行うために、事前に試し録音で音声起動レベルを調整することをおすすめします。

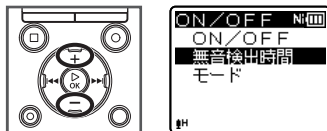
音声同期録音の設定 [V-Sync. Rec]

音声同期録音は、設定した音声同期レベル（検出レベル）よりも大きな音声を感知すると自動的に録音を開始し、音声が小さくなると自動的に録音を停止する機能です。音声同期録音の設定中は、音声同期レベル（検出レベル）以下の入力が、設定した検出時間以上経過すると、本機は録音したファイルを閉じて、待機状態または停止状態になります。

1 **停止中に録音レベルの設定［Rec Level］の手順 1 ～ 3 と同様の操作で［録音設定］画面に入ります（☞ P.74）**

2 **＋または－ボタンを押して［音声同期録音］を選ぶ**

3 **►OK ボタンを押す**

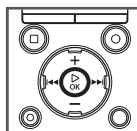
- ［**音声同期録音**］画面に入ります。

4 **＋または－ボタンを押して［ON/OFF］、［無音検出時間］または［モード］を選ぶ**

［**ON/OFF**］：
音声同期録音のオンオフを設定します。

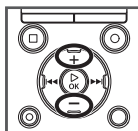
［**無音検出時間**］：
検出時間を設定します。

［**モード**］：
検出時間が経過した後の動作を設定します。

- **⏮** ボタンを押すと設定がキャンセルされ、［**録音設定**］画面に戻ります。

5 **►OK ボタンを押す**

- ［**無音検出時間**］を選んだ場合は手順 8 の操作に進みます。
- ［**モード**］を選んだ場合は手順 10 の操作に進みます。

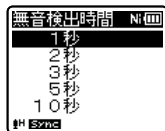
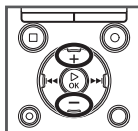
[ON/OFF] を選んだ場合

6 +または−ボタンを押して設定を変更する

[**ON**]:
音声同期録音が機能します。
[**OFF**]:
機能しません。通常の録音に戻ります。

7 ►OK ボタンを押す

- [**ON/OFF**] を選んだ場合、手順 12 の操作に進みます。

[無音検出時間] を選んだ場合

8 +または−ボタンを押して設定を変更する

[**1 秒**] [**2 秒**] [**3 秒**] [**5 秒**] [**10 秒**]:
検出時間を設定します。規定レベル以下の入力（録音レベル）が設定した検出時間以上続くと、本機は待機状態または停止状態になります。

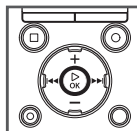
9 ►OK ボタンを押す

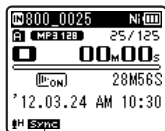
- [**無音検出時間**] を選んだ場合、手順 12 の操作に進みます。

[モード] を選んだ場合

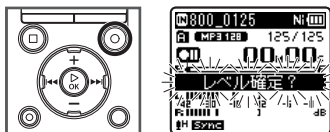
10 +または−ボタンを押して設定を変更する

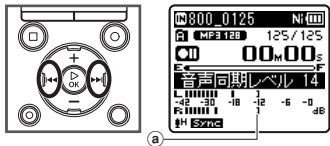
[**1 回**]:
録音後、ファイルを閉じて録音停止状態になります。
[**連続**]:
録音後、ファイルを閉じて録音待機状態になります。音声を検知すると、新しいファイルに録音します。

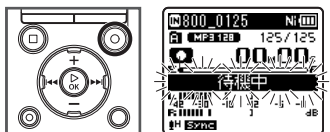
11 ►OK ボタンを押す

12 STOP（■）ボタンを押してメニュー画面を終了する

- 設定に合わせて、ディスプレイにアイコンが表示されます。

ⓐ 音声同期録音

■ 音声同期レベルの調整をして録音する：

1 **REC（●）ボタンを押して録音の準備をする**

2 **▶▶I または I◀◀ ボタンを押して音声同期レベルを調整する**

- ディスプレイに音声同期レベルを28 段階で表示します。
- 数字が大きくなるほど起動感度は高くなり、小さな音でも録音を開始します。

ⓐ 音声同期レベル（設定レベルに応じて左右に動きます）

3 **もう一度 REC（●）ボタンを押す**

- 録音待機中となります。ディスプレイに［**待機中**］が点滅し、LED 表示ランプが点滅します。
- 音声同期レベル以上の入力があると、自動的に録音を開始します。

4 **音声同期録音が自動的に停止します**

- 音声同期レベル以下の音が設定時間以上続くと録音が自動的に終了し、録音待機状態または停止状態に戻ります。待機状態になるたびにファイルは閉じられ、新しいファイルで録音されていきます。
- 音声同期録音を途中で止める場合、**STOP**(■)ボタンを押してください。

ご注意

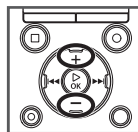
- ［**音声同期録音**］機能を使うときは、以下の機能は使用できません。
  - ［**VCVA**］(☞ P.79)

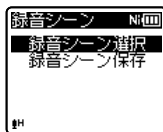
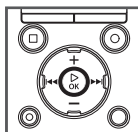
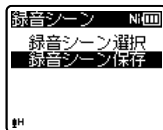
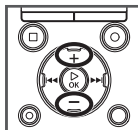
録音シーンの設定 [Rec Scene]

録音する場面や状況に合わせ、録音設定を［**口述**］、［**会議**］、［**講義**］または［**商談**］のテンプレートから選べるほか、お好みの録音設定を保存しておくことができます。

1 **停止中に録音レベルの設定［Rec Level］の手順 1 ～ 3 と同様の操作で［録音設定］画面に入ります（☞ P.74）**

2 **＋または－ボタンを押して［録音シーン］を選ぶ**

5
録音設定

3 ►OK ボタンを押す

- [**録音シーン**] 画面に入ります。

4 +または−ボタンを押して [録音シーン選択] または [録音シーン保存] を選ぶ

[**録音シーン選択**]:
録音する場面や状況に合わせた録音シーンをテンプレートから選べます。詳しくは「**テンプレートの設定内容**」をご覧ください (☞ P.85)。また、目的に合わせてカスタマイズした録音シーンも選べます。

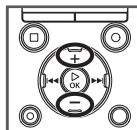
[**録音シーン保存**]:
現在の録音に関するメニュー設定を最大3件まで保存できます。

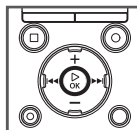
5 ►OK ボタンを押す

- [**録音シーン選択**] を選んだ場合、手順 8 の操作に進みます。

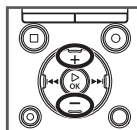
録音シーンを登録する

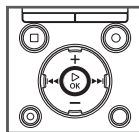
6 +または−ボタンを押して設定の保存先を選ぶ

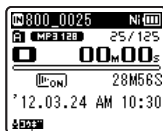
- あらかじめ録音設定は目的に合わせて設定を済ませてください (☞ P.74 ~ P.83)。

- 設定の保存先は [**ユーザー 1**]、[**ユーザー 2**] または [**ユーザー 3**] から選べます。

7 ►OK ボタンを押して設定を完了する

- [**録音シーン保存**] を選んだ場合、手順 10 の操作に進みます。

録音シーンを呼び出す

8 +または−ボタンを押して録音シーンを選ぶ

- 設定の内容を確認するには、**＋**または**ー**ボタンで録音シーンを選び、▶▶| ボタンを押します。|◀◀ ボタンを押すと［**録音シーン選択**］画面に戻ります。

9 ▶OK ボタンを押して設定を完了する

10 STOP（■）ボタンを押してメニュー画面を終了する

- 設定に合わせて、ディスプレイにアイコンが表示されます。

ⓐ 録音シーン

テンプレートの設定内容

[講義]：

[録音レベル]	[高（講義)]
[録音モード]	[MP3]： [128 kbps]
[ローカットフィルタ]	[ON]
[VCVA]	[OFF]
[音声同期録音]	[OFF]

[会議]：

[録音レベル]	[高（講義)]
[録音モード]	[MP3]： [128 kbps]
[ローカットフィルタ]	[ON]
[VCVA]	[OFF]
[音声同期録音]	[OFF]

[商談]：

[録音レベル]	[中（会議)]
[録音モード]	[MP3]： [128 kbps]
[ローカットフィルタ]	[ON]
[VCVA]	[OFF]
[音声同期録音]	[OFF]

[口述]：

[録音レベル]	[低（口述)]
[録音モード]	[WMA]： [64kbps]
[ローカットフィルタ]	[ON]
[VCVA]	[OFF]
[音声同期録音]	[OFF]

ご注意

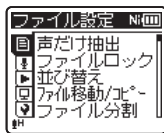
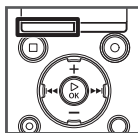
- 録音シーン選択時は、録音に関するメニュー設定の変更ができません。これらの機能をご使用になる場合、［**録音シーン**］の設定を［**OFF**］にしてください。

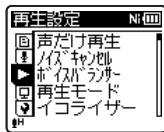
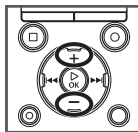
▶ 再生設定 [Play Menu]

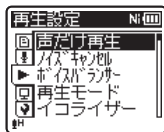
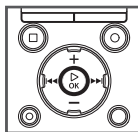
声だけ再生の設定 [Voice Playback]

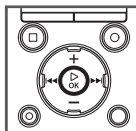
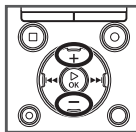
録音した音声ファイルの音声部分だけを再生できます。この機能を使用する場合、あらかじめファイルの音声部分を抽出してください（☞ P.65）。

1 停止中または再生中に **MENU** ボタンを押す

- メニュー画面に入ります（☞ P.59）。

2 ＋または－ボタンを押して［再生設定］を選ぶ

- 設定タブのカーソルを移動させるとメニュー画面が切り替わります。

3 ▶**OK** ボタンを押してカーソルを設定項目へ移動させる

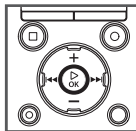
- ［**再生設定**］画面に入ります。

4 ▶**OK** ボタンを押す

- ［**声だけ再生**］画面に入ります。

5 ＋または－ボタンを押して［**ON**］または［**OFF**］を選ぶ

［**ON**］：
ファイルの無音部分を自動的にスキップして音声部分だけを再生します。

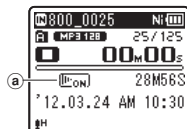
［**OFF**］：
機能しません。

- **⏮** ボタンを押すと設定がキャンセルされ、［**再生設定**］画面に戻ります。

6 ▶**OK** ボタンを押して設定を完了する

5

▶ 再生設定

7 **STOP（■）ボタンを押して メニュー画面を終了する**

- 設定に合わせて、ディスプレイにアイコンが表示されます。

ⓐ声だけ再生

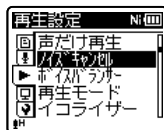
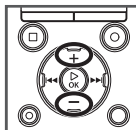
ご注意

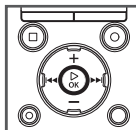
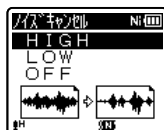
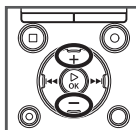
- ［**声だけ再生**］は［**レコーダー**］モードのときのみ機能します。

ノイズキャンセルの設定 [Noise Cancel]

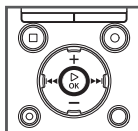
録音した音声が聞き取りにくいときはノイズキャンセルを設定してください。

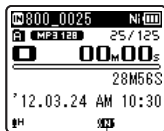
1 **声だけ再生の設定［Voice Playback］の手順 1 ～ 3 と同様の操作で［再生設定］画面に入ります（☞ P.86）**

2 **＋または－ボタンを押して［ノイズキャンセル］を選ぶ**

3 **►OK ボタンを押す**

- ［**ノイズキャンセル**］画面に入ります。

4 **＋または－ボタンを押して［HIGH］、［LOW］または［OFF］を選ぶ**

[**HIGH**] [**LOW**]：
周囲の雑音を低減し、よりクリアな音質で再生します。
[**OFF**]：
機能しません。

- ⏮ ボタンを押すと設定がキャンセルされ、[**再生設定**] 画面に戻ります。

5 ►OK ボタンを押して設定を完了する

6 STOP（■）ボタンを押してメニュー画面を終了する

- 設定に合わせて、ディスプレイにアイコンが表示されます。

ⓐ ノイズキャンセル

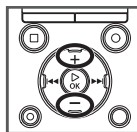
ご注意

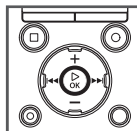
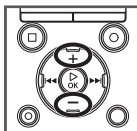
- [**ノイズキャンセル**] は [**レコーダー**] モードのときのみ機能します。
- [**ノイズキャンセル**] 機能を使うときは、以下の機能は使用できません。
  - 再生中における速度・音程の変更（☞ P.44）
  - [**ボイスバランサー**]

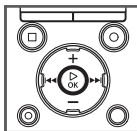
ボイスバランサーの設定 [Voice Balancer]

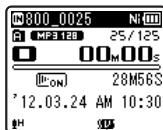
録音した音声ファイルの音量が小さい部分を大きくなるように補正する機能です。会話などの小さい音を大きく明瞭にします。音声録音用フォルダ（[A] ～ [E]）に保存されているファイルで使用できます。

1 声だけ再生の設定 [Voice Playback] の手順 1 ～ 3 と同様の操作で [再生設定] 画面に入ります（☞ P.86）

2 ＋またはーボタンを押して [ボイスバランサー] を選ぶ

3 ►OK ボタンを押す

- [**ボイスバランサー**] 画面に入ります。

4 ＋または－ボタンを押して［ON］または［OFF］を選ぶ

［ON］：
音声ファイルの小さい部分を大きくなるように補正して再生します。
［OFF］：
機能しません。
- ⏮ ボタンを押すと設定がキャンセルされ、［**再生設定**］画面に戻ります。

5 ▶OK ボタンを押して設定を完了する

6 STOP（■）ボタンを押してメニュー画面を終了する

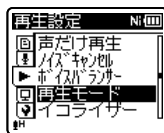
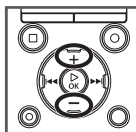
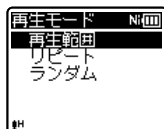
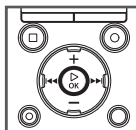
- 設定に合わせて、ディスプレイにアイコンが表示されます。

ⓐ ボイスバランサー

ご注意
- ［**ボイスバランサー**］は［**レコーダー**］モードのときのみ機能します。
- ［**ボイスバランサー**］機能を使うときは、以下の機能は使用できません。
  - ［**ノイズキャンセル**］（☞ P.87）

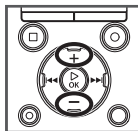
再生モードを選ぶ［Play Mode］

お好みに合わせて再生モードをお選びいただけます。

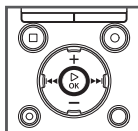
1 声だけ再生の設定［Voice Playback］の手順 1 〜 3 と同様の操作で［再生設定］画面に入ります（☞ P.86）

2 ＋または－ボタンを押して［再生モード］を選ぶ

3 ▶OK ボタンを押す

- ［**ホーム**］画面で［**ミュージック**］を選んだ場合、手順 6 の操作に進みます。

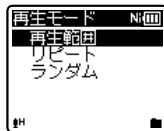
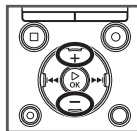
[レコーダー] モードの場合

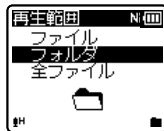
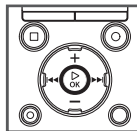
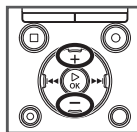
4 ＋または－ボタンを押して設定を選ぶ

[**ファイル**]:
現在のファイルを再生後に停止します。
[**フォルダ**]:
現在のフォルダ内の最終ファイルまで連続再生して停止します。

- ⏮ ボタンを押すと設定がキャンセルされ、[**再生設定**] 画面に戻ります。

5 ►OK ボタンを押して設定を完了する

- [**ホーム**] 画面で [**レコーダー**] を選んだ場合、手順 10 の操作に進みます。

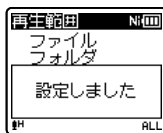
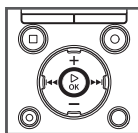
[ミュージック] モードの場合

6 ＋または－ボタンを押して [再生範囲]、[リピート] または [ランダム] を選ぶ

[**再生範囲**]:
ファイル再生の範囲を指定します。
[**リピート**]:
リピート再生の設定をする場合に選びます。
[**ランダム**]:
ランダム再生の設定をする場合に選びます。

7 ►OK ボタンを押す

8 ＋または－ボタンを押して設定を選ぶ

［再生範囲］を選んだ場合：
［**ファイル**］［**フォルダ**］［**全ファイル**］：
ファイル再生の範囲を指定します。

［リピート］または［ランダム］を選んだ場合：
［**ON**］：
再生範囲をリピート再生またはランダム再生します。
［**OFF**］：
リピート再生およびランダム再生を解除します。

- ⏮ ボタンを押すと設定がキャンセルされ、［**再生設定**］画面に戻ります。

9 ▶OK ボタンを押して設定を完了する

10 STOP（■）ボタンを押してメニュー画面を終了する

- 設定に合わせて、ディスプレイにアイコンが表示されます。

ⓐ 再生モード

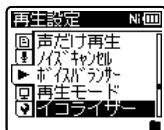
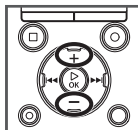
ご注意

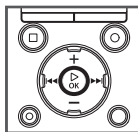
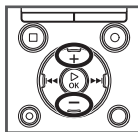
- ［**ファイル**］を設定した状態で、フォルダ内の最終ファイルの終わりまで進むと、ディスプレイに［**ファイルエンド**］が 2 秒間点滅し、最終ファイルの開始位置で停止します。
- ［**フォルダ**］を設定した状態で、フォルダ内の最終ファイルの終わりまで進むと、ディスプレイに［**ファイルエンド**］が 2 秒間点滅し、フォルダ内にある先頭ファイルの開始位置で停止します。
- ［**全ファイル**］に設定すると、フォルダ内の最終ファイルを再生後、次のフォルダの先頭ファイルから再生を開始します。本機内の最終ファイルの終わりまで進むと、ディスプレイに［**ファイルエンド**］が 2 秒間点滅し、本機内にある先頭ファイルの開始位置で停止します。

イコライザーの設定 [Equalizer]

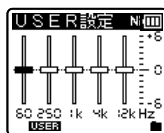
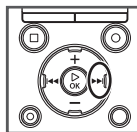
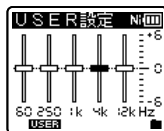
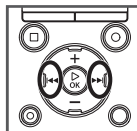
イコライザーの設定を変えると、お好みの音質で音楽を楽しめます。

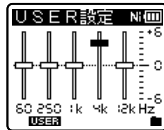
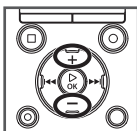
1 声だけ再生の設定［**Voice Playback**］の手順 1 ～ 3 と同様の操作で［**再生設定**］画面に入ります（☞ P.86）

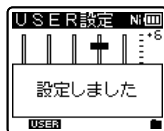
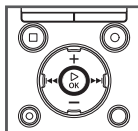
2 ＋または－ボタンを押して［**イコライザー**］を選ぶ

3 ►**OK** ボタンを押す

- ［**イコライザー**］画面に入ります。

4 ＋または－ボタンを押してイコライザー特性を選ぶ

- ［**USER**］を選ぶと、独自にイコライザーの設定を登録できます。
- ［**USER**］を選んだ場合、手順 5 に進んでください。
- ［**USER**］以外のイコライザー特性を選んだ場合、手順 8 に進んでください。

5 ►►I ボタンを押す

- ［**USER**］画面に入ります。

6 ►►I または I◄◄ ボタンを押して周波数帯域を選ぶ

- ［**60Hz**］［**250Hz**］［**1kHz**］［**4kHz**］［**12kHz**］の各周波数帯域ごとにレベルを設定できます。

7 ＋または－ボタンを押してレベルを設定する

- ［**－ 6**］から［**＋ 6**］までを 1 dB 単位で設定できます。
- レベル数を大きくすると、その周波数帯域が強調されます。
- 他の周波数帯域を変更する場合、手順 6 と手順 7 を繰り返してください。

8 ►**OK** ボタンを押して設定を完了する

9 **STOP**（■）ボタンを押してメニュー画面を終了する

- 設定に合わせて、ディスプレイにアイコンが表示されます。

ⓐイコライザー表示

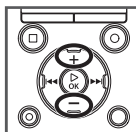
ご注意

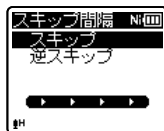
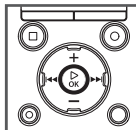
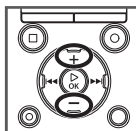
- ［**イコライザー**］は［**ミュージック**］モードのときのみ機能します。

スキップ間隔の設定［Skip Space］

再生中のファイルを設定した間隔だけスキップ（送る）または逆スキップ（戻る）して再生できる機能で、再生位置をすばやく移動したり、短いフレーズを繰り返し再生するときなどに便利です。

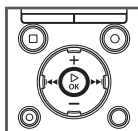
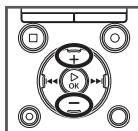
1 声だけ再生の設定［**Voice Playback**］の手順 1 ～ 3 と同様の操作で［**再生設定**］画面に入ります（☞ P.86）

2 **+**または**−**ボタンを押して［**スキップ間隔**］を選ぶ

3 ►**OK** ボタンを押す

- ［**スキップ間隔**］画面に入ります。

4 **+**または**−**ボタンを押して［**スキップ**］または［**逆スキップ**］を選ぶ

5 再生設定

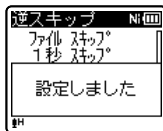
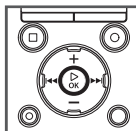
［**スキップ**］:
設定した間隔分だけ送って再生を開始します。
［**逆スキップ**］:
設定した間隔分だけ戻って再生を開始します。

5 ►OK ボタンを押す

- ［**スキップ**］または［**逆スキップ**］画面に入ります。

6 ＋または－ボタンを押して設定を選ぶ

［スキップ］を選んだ場合：
［**ファイル スキップ**］［**10 秒 スキップ**］［**30 秒 スキップ**］［**1 分 スキップ**］［**5 分 スキップ**］［**10 分 スキップ**］

［逆スキップ］を選んだ場合：
［**ファイル スキップ**］［**1 秒 スキップ**］～［**5 秒 スキップ**］［**10 秒 スキップ**］［**30 秒 スキップ**］［**1 分 スキップ**］［**5 分 スキップ**］［**10 分 スキップ**］

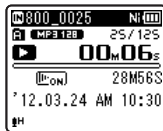
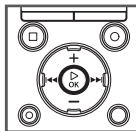
- **I◀◀** ボタンを押すと設定がキャンセルされ、［**スキップ間隔**］画面に戻ります。

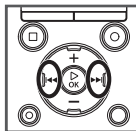
7 ►OK ボタンを押して設定を完了する

8 STOP（■）ボタンを押してメニュー画面を終了する

ご注意

- スキップ間隔より近い位置にインデックスマーク・テンプマーク、頭出し位置がある場合、その位置にスキップ・逆スキップします。

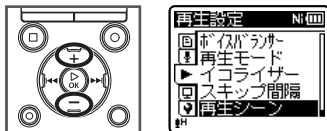
スキップ・逆スキップ再生のしかた

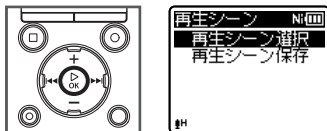
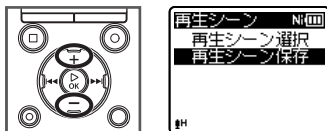
1 ►OK ボタンを押して再生を開始する

2 再生中に ▶▶I または I◀◀ ボタンを押す

- 設定した間隔でスキップまたは逆スキップして再生を開始します。

再生シーンの設定 [Play Scene]

本機で録音した音声ファイルやパソコンから取り込んだ音楽ファイルを、音質や再生方法に合わせて、お好みの再生設定を保存しておくことができます。

1 声だけ再生の設定［Voice Playback］の手順 1 ～ 3 と同様の操作で［再生設定］画面に入ります（☞ P.86）

2 ＋または－ボタンを押して［再生シーン］を選ぶ

3 ►OK ボタンを押す

- ［**再生シーン**］画面に入ります。

4 ＋または－ボタンを押して［再生シーン選択］または［再生シーン保存］を選ぶ

［**再生シーン選択**］：
お好みでカスタマイズした再生シーンを選べます。

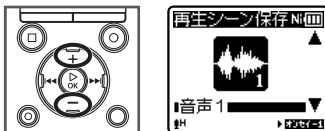
［**再生シーン保存**］：
現在の再生に関するメニュー設定を最大 5 件まで保存できます。

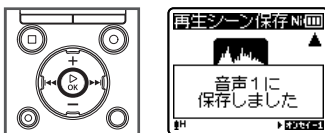
5 ►OK ボタンを押す

- ［**再生シーン選択**］を選んだ場合、手順 8 の操作に進みます。

再生シーンを登録する

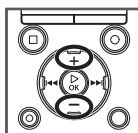
6 ＋または－ボタンを押して設定の保存先を選ぶ

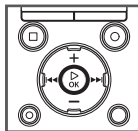
- あらかじめ再生設定は目的に合わせて設定を済ませてください（☞ P.86 ～ P.94）。

- 設定の保存先は、本機で録音した音声ファイル用に［**音声 1**］または［**音声 2**］。本機に転送した音楽ファイル用に［**音楽 1**］、［**音楽 2**］または［**音楽 3**］から選べます。

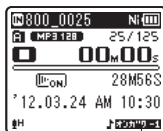
7 ►OK ボタンを押して設定を完了する

- ［**再生シーン保存**］を選んだ場合、手順 10 の操作に進みます。

再生シーンを呼び出す

8 **+**または**−**ボタンを押して再生シーンを選ぶ

- ［**再生シーン選択**］画面に入ります。

- 各再生シーンの設定内容を確認するには、［**再生シーン選択**］画面で、**+**または**−**ボタンを押して確認したい再生シーンを選び、**▶▶I** ボタンを押してください。**I◀◀** ボタンを押すと［**再生シーン選択**］画面に戻ります。

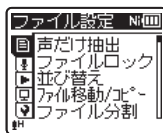
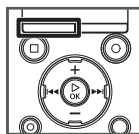
9 **▶OK** ボタンを押して設定を完了する

10 **STOP**（■）ボタンを押してメニュー画面を終了する

- 設定に合わせて、ディスプレイにアイコンが表示されます。

ⓐ再生シーン

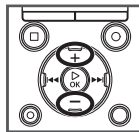
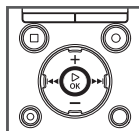
表示／音設定 [LCD/Sound Menu]

バックライトの設定 [Backlight]

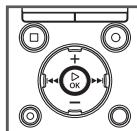
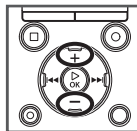
ボタンを押すたびにディスプレイのバックライトが約 10 秒間（初期設定）点灯します。

1 録音中、再生中または停止中に **MENU** ボタンを押す

- メニュー画面に入ります（☞ P.59）。

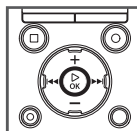
2 ＋または－ボタンを押して［表示／音設定］タブを選ぶ

- 設定タブのカーソルを移動させるとメニュー画面が切り替わります。

3 ►**OK** ボタンを押してカーソルを設定項目へ移動させる

- ［**表示／音設定**］画面に入ります。

4 ►**OK** ボタンを押す

- ［**バックライト**］画面に入ります。

5 ＋または－ボタンを押して設定を選ぶ

［**OFF**］：
バックライトは点灯しません。
［**5 秒**］［**10 秒**］［**30 秒**］［**1 分**］：
バックライトの点灯時間を設定します。

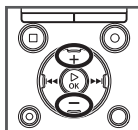
- **⏮** ボタンを押すと設定がキャンセルされ、［**表示／音設定**］画面に戻ります。

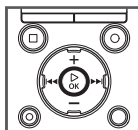
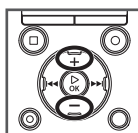
6 ►**OK** ボタンを押して設定を完了する

7 **STOP**（■）ボタンを押してメニュー画面を終了する

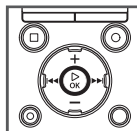
ディスプレイのコントラストの設定 [Contrast]

ディスプレイのコントラストを 12 段階に調整できます。

1 バックライトの設定［**Backlight**］の手順 1 ～ 3 と同様の操作で［**表示／音設定**］画面に入ります（☞ P.97）

2 ＋または－ボタンを押して［**コントラスト**］を選ぶ

3 ►OK ボタンを押す

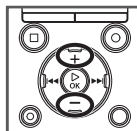
- ［**コントラスト**］画面に入ります。

4 ＋または－ボタンを押してレベルを調整する

- ［**01**］から［**12**］の間で調整を行います。
- ⏮ ボタンを押すと設定がキャンセルされ、［**表示 / 音設定**］画面に戻ります。

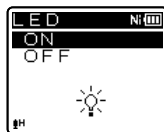
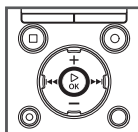
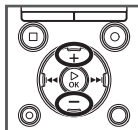
5 ►OK ボタンを押して設定を完了する

6 STOP（■）ボタンを押してメニュー画面を終了する

LED の設定 [LED]

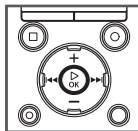
LED 表示ランプを点灯しないように設定できます。

1 バックライトの設定［**Backlight**］の手順 1 ～ 3 と同様の操作で［**表示／音設定**］画面に入ります（☞ P.97）

2 ＋または－ボタンを押して［**LED**］を選ぶ

3 ►OK ボタンを押す

- ［**LED**］画面に入ります。

4 ＋または－ボタンを押して設定を変更する

［**ON**］：
LED が点灯します。
［**OFF**］：
LED は点灯しません。

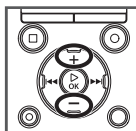
- ⏮ ボタンを押すと設定がキャンセルされ、［**表示 / 音設定**］画面に戻ります。

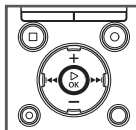
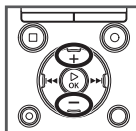
5 ►OK ボタンを押して設定を完了する

6 STOP（■）ボタンを押してメニュー画面を終了する

ビープ音の設定 [Beep]

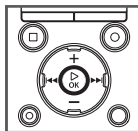
本機はボタン操作を知らせたり誤操作を警告したりするときにビープ音が鳴ります。ビープ音を出したくないときは鳴らないように設定することもできます。

1 バックライトの設定［Backlight］の手順 1 ～ 3 と同様の操作で［**表示／音設定**］画面に入ります（☞ P.97）

2 ＋または－ボタンを押して［ビープ音］を選ぶ

3 ►OK ボタンを押す

- ［**ビープ音**］画面に入ります。

4 ＋または－ボタンを押して設定を変更する

［**ON**］：ビープ音が機能します。
［**OFF**］：機能しません。

5
表示／音設定

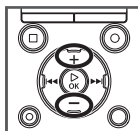
- ⏮ ボタンを押すと設定がキャンセルされ、[**表示 / 音設定**] 画面に戻ります。

5 **▶OK ボタンを押して設定を完了する**

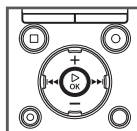
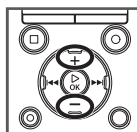
6 **STOP（■）ボタンを押してメニュー画面を終了する**

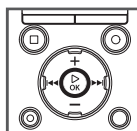
言語の設定 [Language(Lang)]

本機は日本語表示と英語表示のどちらかを選べます。

1 **バックライトの設定 [Backlight] の手順 1 ～ 3 と同様の操作で [表示／音設定] 画面に入ります (☞ P.97)**

2 **＋または－ボタンを押して [言語選択（Lang)] を選ぶ**

3 **▶OK ボタンを押す**

- [**言語選択（Lang)**] 画面に入ります。

4 **＋または－ボタンを押して設定を変更する**

- ⏮ ボタンを押すと設定がキャンセルされ、[**表示 / 音設定**] 画面に戻ります。

5 **▶OK ボタンを押して設定を完了する**

6 **STOP（■）ボタンを押してメニュー画面を終了する**

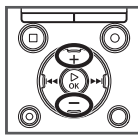
ご注意

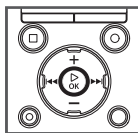
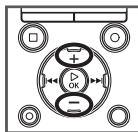
- 表示言語を切り替えても、すでに入力してあるフォルダ名やファイル名の言語は変わりません。

スピーカ出力の設定 [Speaker]

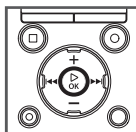
イヤホンを取り外した場合の内蔵スピーカの設定ができます。

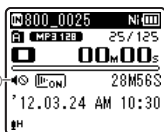
1 バックライトの設定［**Backlight**］の手順 1 ～ 3 と同様の操作で［**表示／音設定**］画面に入ります（☞ P.97）

2 ＋または－ボタンを押して［**スピーカ出力**］を選ぶ

3 ►**OK** ボタンを押す

- ［**スピーカ出力**］画面に入ります。

4 ＋または－ボタンを押して［**ON**］または［**OFF**］を選ぶ

［**ON**］：
内蔵スピーカから音を出力します。イヤホンを接続した場合、内蔵スピーカから音は出力されません。

［**OFF**］：
内蔵スピーカから音は出力されません。

5 ►**OK** ボタンを押して設定を完了する

6 **STOP**（■）ボタンを押してメニュー画面を終了する

- 設定に合わせて、ディスプレイにアイコンが表示されます。

ⓐ スピーカ出力停止表示
（［**スピーカ出力**］を［**OFF**］に設定すると表示されます）。

ご注意

- この機能は、［**FM 設定**］の［**出力設定**］とは独立した機能です。［**スピーカ出力**］の設定を［**OFF**］にしても、FM ラジオを聞いている場合、［**FM 設定**］メニューの［**出力設定**］が［**スピーカ**］に設定されているときは、スピーカからラジオ音声を出力します（☞ P.113）。

本体設定 [Device Menu]

記録するメディアを選択する [Memory Select]

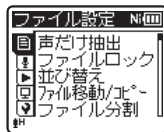
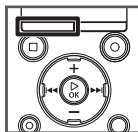
microSD カードを入れると、内蔵メモリに記録するか microSD カードに記録するか選べます（☞ P.26）。

1 停止中に MENU ボタンを押す

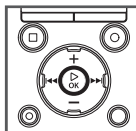
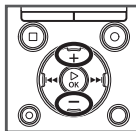
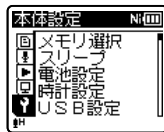
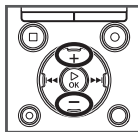
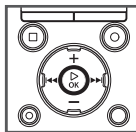
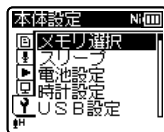
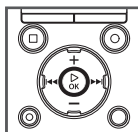
• メニュー画面に入ります（☞ P.59）。

2 ＋または－ボタンを押して［本体設定］タブを選ぶ

• 設定タブのカーソルを移動させるとメニュー画面が切り替わります。

3 ►OK ボタンを押してカーソルを設定項目へ移動させる

• ［**本体設定**］画面に入ります。

4 ►OK ボタンを押す

• ［**メモリ選択**］画面に入ります。

5 ＋または－ボタンを押して記録メディアを選ぶ

6 ►OK ボタンを押して設定を完了する

7 STOP（■）ボタンを押してメニュー画面を終了する

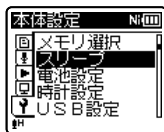
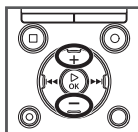
• 設定に合わせて、ディスプレイにアイコンが表示されます。

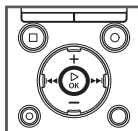
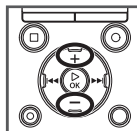
ⓐ 記録メディア表示

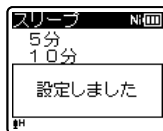
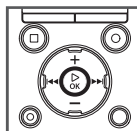
スリープの設定 [Power Save]

電源を入れて停止状態のまま10分以上（初期設定）経過すると、スリープ（省電力）モードになります。

1 記録するメディアを選択する［Memory Select］の手順1～3と同様の操作で［本体設定］画面に入ります（☞ P.102）

2 ＋またはーボタンを押して［スリープ］を選ぶ

3 ▶OK ボタンを押す

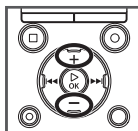
- ［**スリープ**］画面に入ります。

4 ＋またはーボタンを押して時間を設定する

［**5分**］［**10分**］［**30分**］［**1時間**］：
お好みの時間を設定してください。
［**OFF**］：
省電力モードは働きません。そのまま放置しておくと電池が早く消耗します。

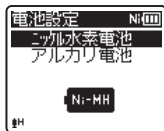
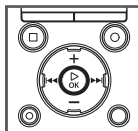
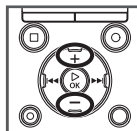
5 ▶OK ボタンを押して設定を完了する

6 STOP（■）ボタンを押してメニュー画面を終了する

電池の設定 [Battery]

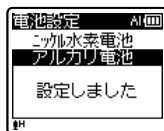
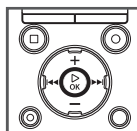
現在使用している電池に合わせて、お選びください。

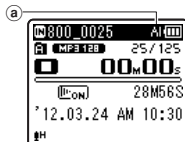
1 記録するメディアを選択する［Memory Select］の手順1～3と同様の操作で［本体設定］画面に入ります（☞ P.102）

2 ＋または－ボタンを押して［電池設定］を選ぶ

3 ▶OK ボタンを押す

- ［**電池設定**］画面に入ります。

4 ＋または－ボタンを押して設定する

［**ニッケル水素電池**］（Ni）：
オリンパス製ニッケル水素充電池（BR404）をご使用の場合にお選びください。

［**アルカリ電池**］（Al）：
アルカリ乾電池をご使用の場合にお選びください。

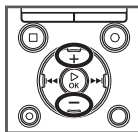
5 ▶OK ボタンを押して設定を完了する

6 STOP（■）ボタンを押してメニュー画面を終了する

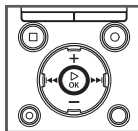
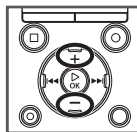
- 設定に合わせて、ディスプレイにアイコンが表示されます。

ⓐ電池の種類

USB の設定 [USB Settings]

パソコンと接続してファイルの送受信などを行う［**PC 接続**］や USB 接続 AC アダプタ(A514)(別売)を接続して充電を行う［**AC アダプタ接続**］の設定のほかに、用途に合わせて USB クラスの切り替えが可能です。

1 記録するメディアを選択する［Memory Select］の手順 1 ～ 3 と同様の操作で［本体設定］画面に入ります (☞ P.102)

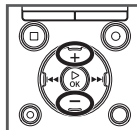
2 ＋または－ボタンを押して［USB 設定］を選ぶ

3 ►OK ボタンを押す

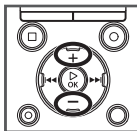
- ［**USB 設定**］画面に入ります。

4 ＋または－ボタンを押して［USB 接続］または［USB クラス］を選ぶ

［**USB 接続**］:
　パソコンと接続したときの設定をします。
［**USB クラス**］:
　USB クラスの設定をします。

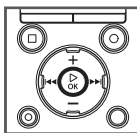
5 ►OK ボタンを押す

- ［**USB 接続**］または［**USB クラス**］画面に入ります。

6 ＋または－ボタンを押して設定を選ぶ

［USB 接続］を選んだ場合

［**PC 接続**］:
　パソコンに接続するときの設定です。ストレージまたはコンポジットとして接続されます。
［**AC アダプタ接続**］:
　パソコンから充電をしたり、AC アダプタ（A514）（別売）に接続するときの設定です。
［**毎回確認**］:
　USB 接続をするごとに接続方法を確認する設定です。

[USB クラス] を選んだ場合

[**ストレージ**]:
パソコン側から外部記憶装置として認識されます。
[**コンポジット**]:
パソコンと接続し、外部記憶装置、USB スピーカおよびマイクとして使うときの設定です。

7 **►OK ボタンを押して設定を完了する**

[**USB 接続**] を選んだ場合

8 **STOP (■) ボタンを押してメニュー画面を終了する**

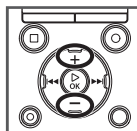
ご注意

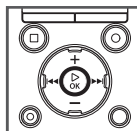
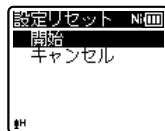
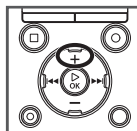
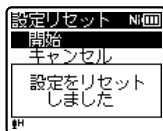
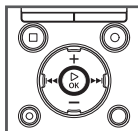
- 外部記憶装置として初めてパソコンに接続すると、自動的に本機のドライバがパソコンにインストールされます。
- [**USB 接続**] の設定が [**AC アダプタ接続**] の場合、パソコンに接続しても認識されません。
- パソコン側から外部記憶装置として認識されない場合、[**USB クラス**] の設定を [**ストレージ**] に切り替えてください。

設定をリセットする [Reset Settings]

各種機能を初期設定（工場出荷時）に戻します。

1 **記録するメディアを選択する [Memory Select] の手順 1 ～ 3 と同様の操作で [本体設定] 画面に入ります** (☞ P.102)

2 **＋または－ボタンを押して [設定リセット] を選ぶ**

3 **►OK ボタンを押す**

- [**設定リセット**] 画面に入ります。

4 **＋ボタンを押して [開始] を選ぶ**

5 ►OK ボタンを押して設定を完了する

- 各種設定が初期値に戻ります。

6 STOP（■）ボタンを押してメニュー画面を終了する

設定リセット後のメニュー設定（初期設定）

録音設定

メニュー項目	初期設定
［録音レベル］（☞ P.74）	［中（会議）］
［録音モード］（☞ P.76）	［WMA］：［128kpbs］
［ローカットフィルタ］（☞ P.78）	［OFF］
［VCVA］（☞ P.79）	［OFF］
［音声同期録音］（☞ P.81）	［ON/OFF］［OFF］ ［無音検出時間］［1 秒］ ［モード］［連続］
［録音シーン］（☞ P.83）	［OFF］

再生設定

メニュー項目	初期設定
［声だけ再生］（☞ P.86）	［ON］
［ノイズキャンセル］（☞ P.87）	［OFF］
［ボイスバランサー］（☞ P.88）	［OFF］
［再生モード］（☞ P.89）	［レコーダー］モード：再生範囲［ファイル］ ［ミュージック］モード：再生範囲［フォルダ］ リピート再生［OFF］ ランダム再生［OFF］
［イコライザー］（☞ P.92）	［OFF］
［スキップ間隔］（☞ P.93）	スキップ再生［ファイル スキップ］ 逆スキップ再生［ファイル スキップ］
［再生シーン］（☞ P.95）	［OFF］

表示 / 音設定

メニュー項目	初期設定
［バックライト］（☞ P.97）	［10 秒］
［コントラスト］（☞ P.98）	［06］
［LED］（☞ P.98）	［ON］
［ビープ音］（☞ P.99）	［ON］
［言語選択］（☞ P.100）	［日本語］
［スピーカ出力］（☞ P.101）	［ON］

本体設定

メニュー項目	初期設定
[**メモリ選択**] (☞ P.102)	[**内蔵メモリ**]
[**スリープ**] (☞ P.103)	[**10 分**]
[**電池設定**] (☞ P.104)	[**ニッケル水素電池**]
[**USB 設定**] (☞ P.105)	USB 接続：[**PC 接続**] USB クラス：[**ストレージ**]

FM 設定

メニュー項目	初期設定
[**録音モード**] (☞ P.112)	[**WMA**]
[**スキャン感度**] (☞ P.113)	[**感度 HIGH**]
[**出力設定**] (☞ P.113)	[**イヤホン**]

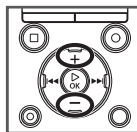
ご注意

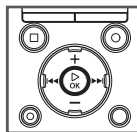
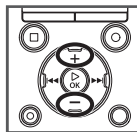
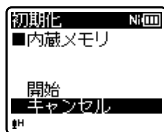
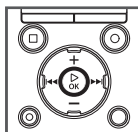
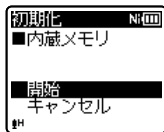
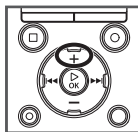
- 設定リセット後の時計設定やファイル番号については、初期設定には戻らず設定リセット前の設定を保持します。

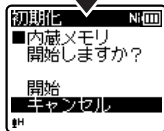
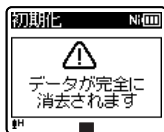
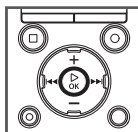
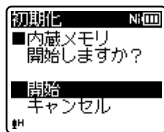
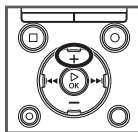
初期化する [Format]

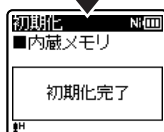
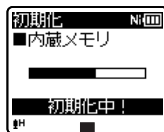
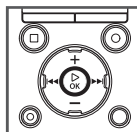
初期化すると記録されているファイルはすべて消去されます。大切なファイルはパソコンに転送してから初期化してください。

1 記録するメディアを選択する [Memory Select] の手順 1 ～ 3 と同様の操作で [**本体設定**] 画面に入ります (☞ P.102)

2 **+**または**−**ボタンを押して [**初期化**] を選ぶ

3 ▶**OK** ボタンを押す

- [**初期化**] 画面に入ります。

4 **+**または**−**ボタンを押して初期化する記録メディアを選ぶ

5 ▶**OK** ボタンを押す

6 **+** ボタンを押して［**開始**］を選ぶ

7 ▶**OK** ボタンを押す

- ［**データが完全に消去されます**］が 2 秒間表示され、［**開始**］、［**キャンセル**］が点灯します。

8 **+** ボタンを押してもう一度［**開始**］を選ぶ

9 ▶**OK** ボタンを押す

- ［**初期化中**］が表示され、初期化が開始されます。

- ［**初期化完了**］が表示されたら初期化終了です。

ご注意

- 本機をパソコンから 初期化することは絶対にしないでください。
- 初期化 をすると、ファイルロックをかけたファイルや読み取り専用ファイルを含む既存のデータはすべて消去されます。
- 各種機能の設定を初期設定に戻す場合、［**設定リセット**］を操作してください（☞ P.106）。
- 本機に microSD カードを入れた場合、操作する記録メディアが［**内蔵メモリ**］または［**microSD カード**］のどちらなのか間違えないよう必ず確認してください（☞ P.102）。
- 初期化中に電池が切れることのないように、操作の前にあらかじめ新しい電池に交換してください。初期化が完了するまで数十秒かかる場合があります。データが破損するおそれがありますので、初期化中には次のような操作は絶対にしないでください。

① 初期化中に USB 接続 AC アダプタを取り外す。
② 初期化中に電池を取り外す。
③ 記録メディアが［**microSD カード**］の場合、初期化中に microSD カードを取り外す。

- 本機での microSD カードの初期化はクイックフォーマットとなります。microSD カード内のデータは、［**初期化**］をしてもファイル管理情報が更新されるだけで完全には消去されません。譲渡・廃棄をする場合には、microSD カード内にあるデータの流出にご注意ください。廃棄の際には、microSD カードを破壊するなどの対処をおすすめします。

記録メディアの情報を見る [Memory Info.]

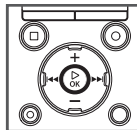
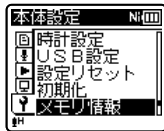
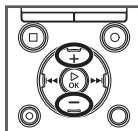
メニュー画面から記録メディアの記録可能残量や容量を表示できます。

1 記録するメディアを選択する［Memory Select］の手順 1 〜 3 と同様の操作で［**本体設定**］画面に入ります (☞ P.102)

2 **+**または**−**ボタンを押して［**メモリ情報**］を選ぶ

3 **►OK** ボタンを押す

- ［**メモリ情報**］画面に入ります。

4 **+**または**−**ボタンを押して画面を切り替える

5 情報を確認したら、**►OK** ボタンを押して［**メモリ情報**］画面から出る

6 **STOP**（■）ボタンを押してメニュー画面を終了する

5 本体設定

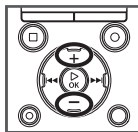
ご注意

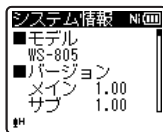
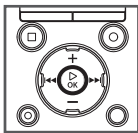
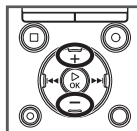
- メモリ容量の一部を管理領域として使用しているため、実際に使用できる容量は少なくなります。

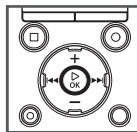
システム情報を見る [System Info.]

メニュー画面から本機の情報を確認できます。

1 記録するメディアを選択する［Memory Select］の手順1～3と同様の操作で［**本体設定**］画面に入ります（☞ P.102）

2 ＋または－ボタンを押して［**システム情報**］を選ぶ

3 ►OK ボタンを押す

- ［**システム情報**］画面に入ります。

4 ＋または－ボタンを押して画面を切り替える

- ［**モデル名**］［**バージョン**］［**シリアル番号**］が表示されます。

5 情報を確認したら、►OK ボタンを押して［**システム情報**］画面から出る

6 STOP（■）ボタンを押してメニュー画面を終了する

FM 設定 [FM Menu]

FM ラジオの録音設定 [Rec Mode]

FM ラジオ録音時の録音モードの切り替えができます。目的に合わせて録音モードをお選びください。

1 ［**FM 設定**］画面にする
(☞ P.55 手順 1 ～手順 3)

2 ＋またはーボタンを押して［**録音モード**］を選ぶ

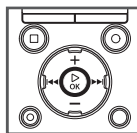
3 ►OK ボタンを押す
- ［**録音モード**］画面に入ります。

4 ＋またはーボタンを押して録音形式を選ぶ

[PCM]：
録音レートは［**44.1 kHz/16bit**］に自動的に設定されます。

[MP3]：
録音レートは［**128kbps**］に自動的に設定されます。

[WMA]：
録音レートは［**128kbps**］に自動的に設定されます。

5 ►OK ボタンを押して設定を完了する

6 STOP（■）ボタンを押してメニュー画面を終了する

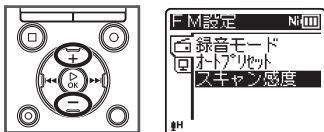
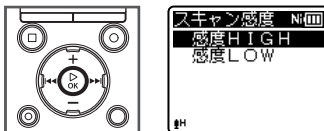
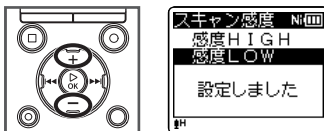
放送局の自動登録 [Auto Preset]

放送局を登録しておくと放送局の呼び出しに便利です。詳しくは「**放送局の自動登録［Auto Preset］**」をご覧ください
(☞ P.55)。

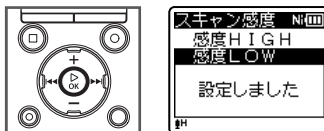
スキャン感度の設定 [Scan Level]

オートプリセット時のスキャン感度の切り替えができます。受信状況に合わせて選んでください。

1 [FM 設定] 画面にする
(☞ P.55 手順 1 〜手順 3)

2 +または−ボタンを押して [スキャン感度] を選ぶ

3 ▶OK ボタンを押す

4 +または−ボタンを押して [感度 HIGH] または [感度 LOW] を選ぶ

[**感度 HIGH**]：
高感度で放送局をスキャンします。通常はこの設定をお選びください。

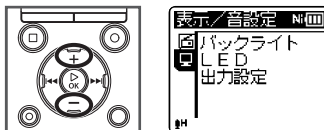
[**感度 LOW**]：
感度を抑えて放送局をスキャンします。放送局の混信などがある場合、この設定をお試しください。

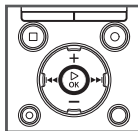
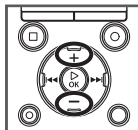
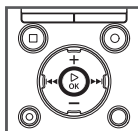
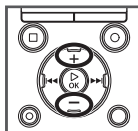
5 ▶OK ボタンを押して設定を完了する

6 STOP（■）ボタンを押してメニュー画面を終了する

出力設定 [Output]

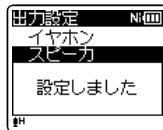
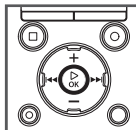
FM ラジオの音声出力の切り替えができます。

1 [FM 設定] 画面にする
(☞ P.55 手順 1 〜手順 2)

2 +または−ボタンを押して [表示／音設定] タブを選ぶ

3 ►OK ボタンを押してカーソルを設定項目へ移動させる

- ［**表示／音設定**］画面に入ります。

4 ＋または－ボタンを押して［出力設定］を選ぶ

5 ►OK ボタンを押す

6 ＋または－ボタンを押して［イヤホン］または［スピーカ］を選ぶ

［**イヤホン**］：
常にイヤホンから音声を出力します。イヤホンを取り外しても内蔵スピーカからはラジオ音声は出力されません。

［**スピーカ**］：
常に内蔵スピーカから音声を出力します。イヤホンを接続してもイヤホンからラジオ音声は出力されません。

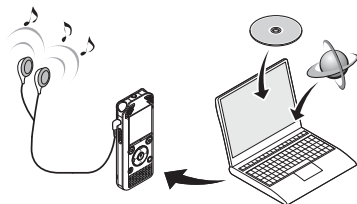
7 ►OK ボタンを押して設定を完了する

8 STOP（■）ボタンを押してメニュー画面を終了する

ご注意

- この機能は、［**表示／音設定**］の［**スピーカ出力**］とは独立した機能です。［**スピーカ出力**］の設定を［**OFF**］にしても、FM ラジオを聞いている場合、［**FM 設定**］メニューの［**出力設定**］が［**スピーカ**］に設定されているときは、スピーカからラジオ音声を出力します（☞ P.101）。

本機をパソコンでお使いいただくためには

本機はパソコンと接続することで次のようなことができます。

- Windows Media Player または iTunes を使ってパソコンに取り込んだ WMA・MP3・WAV 形式の語学コンテンツや音楽ファイルを転送し、本機でお楽しみいただけます。
- IC レコーダー、ミュージックプレーヤーとしての使いかたのほか、本機はパソコンの外部メモリとして、パソコンからのデータ保存や読み出しにもご使用いただけます（☞ P.120）。

パソコンの動作環境

Windows

OS（オペレーティングシステム）:
　Microsoft Windows XP/Vista/7/8
　標準インストール（日本語版）
対応パソコン :
　1 つ以上空きのある USB ポートを装備した Windows 対応パソコン

Macintosh

OS（オペレーティングシステム）:
　Mac OS X 10.4.11 ～ 10.8
　標準インストール（日本語版）
対応パソコン :
　1 つ以上空きのある USB ポートを装備した Apple Macintosh シリーズ

ご注意

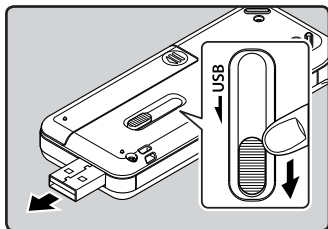
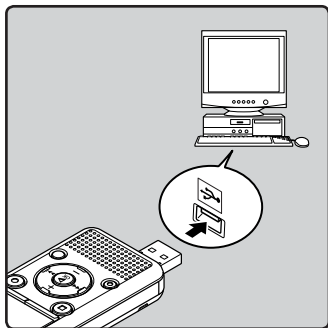
- 本機で録音したファイルを USB 接続でパソコンに保存する際の動作環境です。
- パソコンが USB ポートを備えていても、Windows 95/98/Me/2000 から XP/Vista/7 にアップグレードした場合はサポート対象外となります。
- 動作環境を満たしていても、自作パソコンでの不具合は動作保証外とさせて頂いております。

本機をパソコンに接続して扱う場合の注意事項

- 本機からファイルをダウンロードしたり本機にファイルをアップロードする場合、パソコンから通信中の画面が消えても、本機の LED 表示ランプが点滅中はデータを転送中ですので、USB 接続を外さないでください。また、USB 接続を外す場合、必ず ☞ P.118 に記載の方法で行ってください。ドライブを停止してから外さないと、正常にデータが転送されないことがあります。
- パソコンでは本機ドライブを初期化（フォーマット）しないでください。パソコンで初期化した場合、正しく初期化されません。初期化は、本機の［**初期化**］画面から行ってください（☞ P.108）。
- Windows または Macintosh のファイル管理画面から、本機に保存されているフォルダやファイルに対して移動や名前の変更などの操作を行うと、ファイルの順番が変わったり、ファイルを認識できなくなることがあります。
- パソコン上の操作で本機ドライブの属性をリードオンリー（読み取り専用）に設定しても、本機ではデータの読み書きができますのでご注意ください。
- ノイズにより周辺電子機器に影響を及ぼすことがありますので、パソコンに接続する場合、外部マイクやイヤホンを外してください。

パソコンに接続する

1 パソコンを起動する

2 USB 端子スライドレバーを矢印の方向へスライドさせ、本機の USB 端子を本体から引き出す

3 本機が停止していることを確認し、パソコンの USB ポートに接続する

- USB 接続中は、本機のディスプレイに［**PC と接続中です**］と表示されます。
- 本機の USB 接続設定で、［**AC アダプタ接続**］を設定していると、パソコンと接続状態になりません。USB 接続設定を［**PC 接続**］にしてください（☞ P.105）。
- Windows の場合、［**マイコンピュータ**］を開くと、製品名のドライブ名で認識されます。microSD カードが入っていると、［**リムーバブルディスク**］として使用できます。
- Macintosh の場合、デスクトップ上に製品名のドライブ名で認識されます。microSD カードが入っている場合は［**Untitled**］と表示されます。

ご注意

- 本機のホールドは解除してください。
- パソコンの USB ポートについては、ご使用のパソコンの取扱説明書をご覧ください。
- USB コネクタは奥まで確実に差し込んでください。正しく接続されていない場合、正常に動作しません。
- USB ハブを経由して本機を接続すると、動作が不安定になることがあります。この場合、USB ハブを使用しないでください。
- USB 延長ケーブルは必ず専用ケーブルをご使用ください。他社製品をご使用になると、故障の原因となりますので、絶対におやめください。またこの専用ケーブルを他社製品に接続することも絶対におやめください。

パソコンから取り外す

Windows

1 画面右下のタスクバーの［ ］をクリックして、**［USB 大容量記憶装置デバイスードライブを安全に取り外します］**をクリックする

- ご使用のパソコンにより、ドライブのアルファベット表記が異なります。
- ハードウェアの取り外しウィンドウが表示されたら、ウィンドウを閉じてください。

2 本機の LED 表示ランプが消灯していることを確認し、本機をパソコンから取り外す

Macintosh

1 デスクトップに表示されている本機のリムーバブルアイコンを、ドラッグ&ドロップでゴミ箱に移動する

2 本機の LED 表示ランプが消灯していることを確認し、本機をパソコンから取り外す

ご注意

- LED 表示ランプが点滅中は、絶対に USB 接続を取り外さないでください。データが破損するおそれがあります。

ファイルをパソコンに取り込む

音声録音用の 5 つのフォルダは、パソコン上でそれぞれ［**FOLDER_A**］、［**FOLDER_B**］、［**FOLDER_C**］、［**FOLDER_D**］、［**FOLDER_E**］という名前で表示され、その中に録音した音声ファイルが保存されています（FM ラジオの録音は［**FLD_FM**］に保存されます）。パソコン内のお好きなフォルダにコピーしてください。

Windows

1 本機をパソコンに接続する
(☞ P.117)

2 エクスプローラを起動する

- ［**マイコンピュータ**］を開くと、製品名のドライブ名で認識されます。microSD カードが入っていると、［**リムーバブルディスク**］として使用できます。

3 製品名のフォルダをクリックする

4 データをコピーする

5 本機をパソコンから取り外す
(☞ P.118)

Macintosh

1 本機をパソコンに接続する
(☞ P.117)

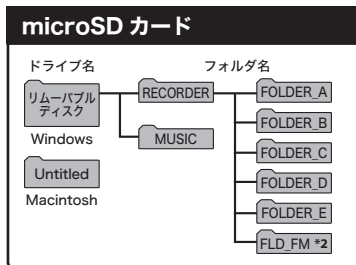
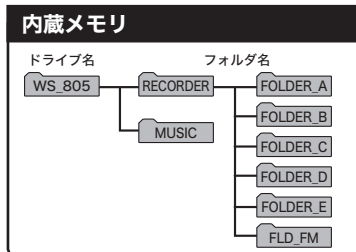
- Mac OS に本機を接続すると、デスクトップ上に製品名のドライブ名で認識されます。microSD カードが入っている場合、［**Untitled**］というドライブ名で認識されます。

2 デスクトップの製品名のリムーバブルアイコンをダブルクリックする

3 データをコピーする

4 本機をパソコンから取り外す
(☞ P.118)

■ パソコンを接続した場合のドライブ名とフォルダ名

ご注意

- データ通信中は［**データ送信中**］または［**データ受信中**］と表示され、LED 表示ランプが点滅します。LED 表示ランプ点滅中は、絶対に USB 接続を取り外さないでください。データが破損するおそれがあります。
- Mac OS の標準環境では、WMA 形式のファイルは再生できません。

パソコンの外部メモリとして使う

IC レコーダー、ミュージックプレーヤーとしての使いかたのほか、本機はパソコンの外部メモリとして、パソコンからのデータ保存や読み出しにもご使用いただけます。
本機とパソコンを接続すれば、本機のデータをパソコンへ転送したり、パソコンに保存されたデータを本機に保存できます。

Windows

1 本機をパソコンに接続する (☞ P.117)

2 エクスプローラを起動する

- ［**マイコンピュータ**］を開くと、製品名のドライブ名で認識されます。

3 製品名のフォルダをクリックする

4 データをコピーする

5 本機をパソコンから取り外す (☞ P.118)

Macintosh

1 本機をパソコンに接続する (☞ P.117)

- Mac OS に本機を接続すると、デスクトップ上に製品名のドライブ名で認識されます。

2 デスクトップの製品名のリムーバブルアイコンをダブルクリックする

3 データをコピーする

4 本機をパソコンから取り外す (☞ P.118)

ご注意

- データ通信中は［**データ送信中**］または［**データ受信中**］と表示され、LED 表示ランプが点滅します。LED 表示ランプが点滅中は、絶対に USB 接続を取り外さないでください。データが破損するおそれがあります。

警告表示一覧

表示	詳細	解決方法
電池残量がありません（Battery low）	電池残量がない。	新しい電池に交換するか、充電してください（☞ P.16、P.18）。
ファイルロック中 消去できません（File locked）	ファイルロックがかかっているファイルを消去しようとした。	ファイルロックを解除してください（☞ P.66）。
A～E フォルダで録音してください（Cannot record in this folder）	［**レコーダー**］モード以外で録音しようとしている。	［**レコーダー**］モードに切り替え、［**フォルダ A**］～［**フォルダ E**］を選び直して録音してください（☞ P.28、P.31）。
	［**FM ラジオ**］フォルダで録音しようとしている。	［**フォルダ A**］～［**フォルダ E**］を選び直して録音してください（☞ P.29、P.31）。
これ以上記録できません（No more can be set）	ファイル内でインデックスマークを最大数（99）まで使用している。	必要のないインデックスマークを消去してください（☞ P.45）。
	ファイル内でテンプマークを最大数（99）まで使用している。	必要のないテンプマークを消去してください（☞ P.45）。
ファイル件数がいっぱいです（Folder full）	フォルダ内のファイル件数が最大数（200）になっている。	必要のないファイルを消去してください（☞ P.50）。
メモリに異常があります（Memory error）	内蔵メモリに異常がある。	当社カスタマーサポートセンターにご連絡ください（☞ 裏表紙）。
microSD カードに異常があります（Card error）	microSD カードが正しく認識されていない。	もう一度 microSD カードの抜き差しを行ってください（☞ P.26、P.27）。
不正コピーされたファイルです（Illegally copied file）	不正にコピーされた音楽ファイルです。	ファイルを消去してください（☞ P.50）。
メモリがいっぱいです（Memory full）	メモリ残量がない。	必要のないファイルを消去してください（☞ P.50）。
ファイルがありません（No file）	フォルダ内にファイルがない。	他のフォルダを選び直してください（☞ P.29 ～ P.31）。

表示	詳細	解決方法
初期化に失敗しました（Format error）	初期化に問題があった。	メモリをもう一度初期化し直してください（☞ P.108）。
管理ファイルが作成できません PC に接続して不要なファイルを消去してください（Can't create the system file. Connect to PC and erase unnecessary file）	メモリ残量がないため、管理用のファイルが作成できない。	パソコンに接続し、不要なファイルを消去してください。
このファイルは再生できません（Cannot play this file）	未対応フォーマットです。	本機で再生可能なファイルを選び直してください（☞ P.42）。
ファイルを選んでください（Select a file）	ファイルが選択されていない。	ファイルを選んでから操作してください（☞ P.29 ～ P.31）。
同一フォルダには移動（コピー）できません（Same folder can't be moved（copied））	同じフォルダに移動（コピー）しようとしている。	別のフォルダを選んでください。
移動（コピー）できないファイルがあります（Some files can't be moved（copied））	移動（コピー）先に同一ファイル名がある場合。	ファイルを選び直してください。
分割できないファイルです（This file can't be divided.）	本機で録音した MP3 形式、WAV 形式以外のファイルを分割しようとしている。	ファイルを選び直してください。

故障かな？と思ったら

症状	考えられる原因	対処方法
ディスプレイに何も表示されない	電池が正しく入っていない。	電池の ⊕ と ⊖ を確かめてください（☞ P.16）。
	電池残量がない。	新しい電池に交換するか、充電してください（☞ P.16、P.18）。
	電源が切れている。	電源を入れてください（☞ P.21）。
操作できない	電池残量がない。	新しい電池に交換するか、充電してください（☞ P.16、P.18）。
	電源が切れている。	電源を入れてください（☞ P.21）。
	ホールドがかかっている。	ホールドを解除してください(☞ P.22)。
録音できない	メモリ残量がない。	必要のないファイルを消去してください（☞ P.50）。
	ファイル件数が最大記録件数になっている。	他のフォルダを選び直してください（☞ P.29 〜 P.31）。
	［**FM 設定**］の［**出力設定**］の設定が［**スピーカ**］になっている。	［**出力設定**］の設定を［**イヤホン**］にしてください（☞ P.113）。
再生音が聞こえない	**EAR** ジャックにイヤホンを接続している。	内蔵スピーカから出力する場合、イヤホンを取り外してください。
	［**スピーカ出力**］の設定が［**OFF**］になっている。	内蔵スピーカから出力する場合、［**スピーカ出力**］の設定を［**ON**］にしてください（☞ P.101）
	音量が［**00**］になっている。	ボリュームを調節してください（☞ P.39）。
録音のレベルが小さい	録音レベルが低い。	録音レベルの設定を［**高（講義)**］または［**中（会議)**］にしてもう一度録音してください（☞ P.74）。
	接続した外部機器の出力レベルの過少が考えられます。	外部機器の出力レベルを調整してください。
音声ファイルがステレオ録音されてない	接続した外部マイクがモノラルである。	外部モノラルマイクを接続して録音すると、L チャンネルのみに音声が録音されます。
	［**録音モード**］の設定がモノラル録音形式である。	［**録音モード**］の設定をステレオ形式から選んでください（☞ P.76）。

症状	考えられる原因	対処方法
音声ファイルがない	録音したフォルダではない。	他のフォルダを選び直してください(☞ P.29 ～ P.31)。
再生時に雑音がする	録音時に本機をこすったりした。	――――――
	録音時、再生時に本機を携帯電話や蛍光灯近くに置いている。	操作時に本機の位置を変えてください。
再生時、無音部分がスキップされない	[**声だけ抽出**]の処理をしていない。	[**声だけ抽出**]を使って音声を抽出してください(☞ P.65)。
	[**声だけ再生**]の設定が[**OFF**]になっている。	[**声だけ再生**]の設定を[**ON**]にしてください(☞ P.86)。
ファイルが消去できない	ファイルロックがかかっている。	ファイルロックを解除してください(☞ P.66)。
	読み取り専用ファイルである。	ファイルロックを解除するかパソコンで読み取り専用の設定を解除してください。
フォルダが消去できない	フォルダ内に本機で認識できないファイルがある。	パソコンに接続してフォルダを消去してください(☞ P.117)。
録音モニターでノイズが聞こえる	ハウリングをおこしています。	アンプ内蔵スピーカなどを接続している場合、録音中にハウリングをおこすおそれがあります。録音モニターはイヤホンをご使用になることをおすすめします。
		イヤホンとマイクの距離を離す、マイクをイヤホンの方へ向けないなど調整をしてください。
インデックスマーク・テンプマークがつけられない	マーク件数が最大(99 件)になっている。	必要のないマークは消去してください(☞ P.45)。
	ファイルロックがかかっている。	ファイルロックを解除してください(☞ P.66)。
	読み取り専用ファイルである。	ファイルロックを解除するかパソコンで読み取り専用の設定を解除してください。

症状	考えられる原因	対処方法
FM ラジオが受信できない	**EAR** ジャックにイヤホンを接続していない。	付属のイヤホンはアンテナの役割もしております。ご使用の際はイヤホンを接続してください。
	［**出力設定**］の設定が［**イヤホン**］になっている。	内蔵スピーカから出力する場合、［**出力設定**］の設定を［**スピーカ**］にしてください（☞ P.113）。
充電ができない	［**電池設定**］の設定が［**アルカリ電池**］になっている。	付属の充電池をご使用の上、電池設定を［**ニッケル水素電池**］にしてください。また、充電池の推奨温度範囲外でのご使用はお避けください（☞ P.17、P.20 、P.104）。
	▶**OK** ボタンを押していない。	USB 接続したときに表示される確認画面に従い、▶**OK** ボタンを押してください。
	［**USB クラス**］の設定が［**コンポジット**］になっている。	［**USB クラス**］の設定を［**ストレージ**］にしてください（☞ P.105）。
パソコン側から本機を認識できない	［**USB 接続**］の設定が［**AC アダプタ接続**］になっている。	［**USB 接続**］の設定を［**PC 接続**］にしてください（☞ P.105）。

アクセサリー（別売）

OLYMPUS 製 IC レコーダー専用のアクセサリーは、当社 Web サイトの「オンラインショップ」で直接ご購入いただけます。http://shop.olympus-imaging.jp/index.html

ステレオマイクロホン：ME51SW

大口径マイク内蔵で、高感度のステレオ録音が可能です。

2 チャンネルマイクロホン（全指向性）：ME30W

モノラルマイクロホン ME30 2本と小型三脚、接続アダプタのセットです。プラグインパワー対応の高感度全指向性マイクで、楽器演奏の録音に適しています。

コンパクトガンマイクロホン（単一指向性）：ME31

野鳥の声の野外録音などに役立つ指向性のガンマイクです。金属切削ボディの採用により、高い本体剛性を実現しました。

コンパクトズームマイクロホン：ME32（単一指向性）

三脚と一体化しているので、テーブルに設置して会議や講義など離れた場所の音を録音したい場合に適しています。

モノラルマイクロホン（単一指向性）：ME52W

周囲の雑音の影響を軽減し、離れた場所の音を録音したい場合に使用します。

モノラルタイピンマイク（全指向性）：ME15

タイピン型ホルダー付きの目立たない小型マイクです。

テレホンピックアップマイクロホン: TP8

イヤホン型マイクを耳に入れてそのまま通話できます。電話の声や会話を明瞭に録音できます。

単 4 形ニッケル水素充電池：BR404

持続性に優れた高性能充電池です。

USB 接続 AC アダプタ：A514

USB 接続型 DC5V の AC アダプタです。（AC100-240V　50/60Hz）

コネクティングコード：KA333

両端がステレオミニプラグ（ϕ 3.5）の抵抗入り接続コードです。イヤホン出力をライン入力に接続して録音する場合に使用します。モノラルミニプラグ（ϕ 3.5）、またはモノラルミニミニプラグ（ϕ 2.5）への変換プラグアダプタ（PA331/PA231）も同梱しています。

USB 接続ケーブル：KP19

ユーティリティーソフト：Olympus Sonority Plus

本機で録音した音声をパソコン上で再生したり、ファイル管理することができます。またポッドキャスティングにも対応しています。

用語の説明

用語	意味
サンプリング周波数（サンプリングレート）[Hz・kHz]	サンプリング周波数は、音のきめ細かさを決める数値のことです。この周波数が高いほど前後の音との差が減少し、なめらかな流れの録音ができます。
量子化ビット数（ビット深度）[bit]	量子化ビット数は、音声等のアナログ信号をデジタル化する際に、どれだけ多くのデータで記録を残すかを決める数値のことです。
ビットレート［kbps］	1 秒間に何ビットのデータで再現しているかを示す数値のことです。例えば 128kbps のファイルは 1 秒間に 128kbit を使って再現されているデータということになります。ビットレートの数値を下げるほど、音は劣化しますがデータ容量が少なく済みます。ビットレートの数値が同じでも、MP3 や WMA などの音声圧縮方式によって音質が異なります。MP3/128kbps と WMA/128kbps では、同じ音質にはなりません。
リニア PCM 方式	得られたデータに対して圧縮等の処理を行わないため、音質を損なわずにありのままの音を記録することができます。音楽 CD（CD-DA）がこの方式を利用しています。
MP3 方式	最も広く普及している音声圧縮方式の一つです。音楽 CD 並の音質をほとんど劣化させずに、データ容量を元データの約 1/11 まで圧縮することができるとされています。
WMA 方式	Microsoft 社が開発した音声圧縮方式です。音楽 CD 並の音質をほとんど劣化させずに、データ容量を元データの約 1/22 まで圧縮することができるとされています。
メモリ（メディア）	記憶媒体のことで、電源が切れてもデータは消えない構造になっています。本書では内蔵メモリ、および microSD カードのことを指します。
符号化（エンコード）処理	得られた情報を一定の規則に従ってデータに置き換えて記録することです。また、ある形式のデータを一定の規則に基づいて別の形式に変換（音声圧縮など）することです。

主な仕様

一般事項

■ **記録形式：**
リニア PCM（Pulse Code Modulation）形式
MP3（MPEG-1 Audio Layer3）形式
WMA（Windows Media Audio）形式

■ **サンプリング周波数：**
リニア PCM 形式

44.1 kHz/16 bit	44.1 kHz

MP3 形式

256 kbps	44.1 kHz
128 kbps	44.1 kHz

WMA 形式

128 kbps	44.1 kHz
64 kbps	44.1 kHz
32 kbps	44.1 kHz
16 kbps	22.05 kHz
8 kbps	8 kHz

■ **ヘッドホン最大出力：**
3 mW ＋ 3 mW（16 Ω負荷時）

■ **記録媒体 *：**
内蔵型 NAND FLASH メモリ：4 GB
microSD カード：
2 GB ～ 32 GB に対応
* メモリ容量の一部を管理領域として使用しているため、実際に使用できる容量は少なくなります。

■ **スピーカ：**
φ 18 mm 丸型ダイナミックスピーカ内蔵

■ **MIC ジャック：**
φ 3.5 mm インピーダンス 2 k Ω

■ **EAR ジャック：**
φ 3.5 mm インピーダンス 8 Ω以上

■ **スピーカ実用最大出力：**
150 mW（スピーカ 8 Ω）

■ **電源：**
規定電圧：1.5 V
電　　池：単 4 形乾電池 1 本（LR03）またはオリンパス製ニッケル水素充電池 1 本
外部電源：USB 接続 AC アダプタ（A514）（DC5V）

■ **外形寸法：**
100.2 mm × 40 mm × 14.8 mm（最大突起部含まず）

■ **質量：**
57 g（電池含む）

■ **使用温度：**
0 ～ 42℃

■ **受信周波数：**
FM ラジオ：76.0 MHz ～ 90.0 MHz

■ **同梱品：**
本体／イヤホン／単 4 形ニッケル水素充電池× 1 ／取扱説明書（保証書付）

周波数特性

■ **MIC ジャック録音時：**

リニア PCM 形式

44.1 kHz/16 bit	40 Hz ～ 21 kHz

MP3 形式

256 kbps	40 Hz ～ 20 kHz
128 kbps	40 Hz ～ 17 kHz

WMA 形式

128 kbps	40 Hz ～ 19 kHz
64 kbps	40 Hz ～ 16 kHz
32 kbps	40 Hz ～ 13 kHz
16 kbps	40 Hz ～ 8 kHz
8 kbps	40 Hz ～ 3 kHz

■ **内蔵ステレオマイク録音時：**

70 Hz ～ 20 kHz（但し、MP3 形式または WMA 形式で録音する場合、周波数特性の上限値は各録音モードによる）

■ **再生時：**

20 Hz ～ 20 kHz

電池持続時間

以下の値はあくまでめやすです。

■ 内蔵ステレオマイク録音時（内蔵メモリ使用時）：

録音モード		アルカリ乾電池	ニッケル水素充電池
リニア PCM 形式	44.1 kHz/16 bit	約 20 時間	約 15 時間
MP3 形式	128 kbps	約 22 時間	約 18 時間
WMA 形式	128 kbps	約 21 時間	約 17 時間
	8 kbps	約 27 時間	約 22 時間

■ 音声ファイル再生時（全再生モード）：

スピーカ再生時

録音モード		アルカリ乾電池	ニッケル水素充電池
リニア PCM 形式	44.1 kHz/16 bit	約 19 時間	約 15 時間
MP3 形式	128 kbps	約 21 時間	約 17 時間
WMA 形式	128 kbps	約 21 時間	約 17 時間
	8 kbps	約 24 時間	約 20 時間

イヤホン再生時

録音モード		アルカリ乾電池	ニッケル水素充電池
リニア PCM 形式	44.1 kHz/16 bit	約 22 時間	約 17 時間
MP3 形式	128 kbps	約 29 時間	約 21 時間
WMA 形式	128 kbps	約 30 時間	約 22 時間
	8 kbps	約 30 時間	約 22 時間

■ FM ラジオモード時（内蔵メモリ使用時）：

イヤホン再生時

本機の状態	アルカリ乾電池	ニッケル水素充電池
FM ラジオ受信時	約 12 時間	約 11 時間
FM ラジオ録音時	約 7 時間	約 7 時間

ご注意

- 電池持続時間は当社試験法によるものです。使用電池、使用条件により大きく変わります。
- 繰り返し使用したニッケル水素充電池では電池持続時間は短くなります。
- microSD カードご使用時は電池持続時間は短くなります。

録音時間

以下の値はあくまでめやすです。

■ リニア PCM 形式：

記録メディア		録音モード
		44.1 kHz/16 bit
内蔵メモリ	4 GB	約 6 時間
microSD カード	32 GB	約 48 時間 40 分
	16 GB	約 24 時間 15 分
	8 GB	約 12 時間 5 分

■ MP3 形式：

記録メディア		録音モード	
		256 kbps	128 kbps
内蔵メモリ	4 GB	約 33 時間	約 66 時間 30 分
microSD カード	32 GB	約 268 時間	約 537 時間
	16 GB	約 134 時間	約 268 時間
	8 GB	約 66 時間 30 分	約 133 時間

■ WMA 形式：

記録メディア		録音モード				
		128 kbps	64 kbps	32 kbps	16 kbps	8 kbps
内蔵メモリ	4 GB	約 65 時間	約 129 時間	約 259 時間	約 511 時間	約 1016 時間
microSD カード	32 GB	約 525 時間	約 1049 時間	約 2098 時間	約 4130 時間	約 8209 時間
	16 GB	約 262 時間	約 523 時間	約 1047 時間	約 2061 時間	約 4097 時間
	8 GB	約 130 時間	約 261 時間	約 522 時間	約 1027 時間	約 2042 時間

ご注意

- 小刻みに録音を繰り返したときは、録音可能時間がこれより短くなる場合があります（録音可能時間および録音時間表示はめやすとしてご使用ください）。
- ご使用の microSD カードにより空き容量に差が出ることがあるため、録音可能時間にも差が発生します。

1ファイルあたりの最長録音時間

- 1ファイルあたりの最大容量は、WMA形式、MP3形式は約4GBに制限されています。
- メモリ残量にかかわらず、1ファイルあたりの最長録音時間は下記の値に制限されています。

■ リニアPCM形式：

録音モード	録音時間
44.1 kHz/16 bit	約3時間20分

■ MP3形式：

録音モード	録音時間
256 kbps	約37時間10分
128 kbps	約74時間30分

■ WMA形式：

録音モード	録音時間
128 kbps	約26時間40分
64 kbps	約26時間40分
32 kbps	約26時間40分
16 kbps	約53時間40分
8 kbps	約148時間40分

記録可能な曲数

以下の値はあくまでめやすです。

4GB	約1,000曲

128 kbps、1曲4分換算

本機の仕様および外観は性能改良などのため、予告なく変更する場合がありますのであらかじめご了承ください。

索引

記号

アルファベット

E

F

L

M

P

R

S

U

W

かな

い

お

か

け

こ

さ

し

す

せ

て

と

な

の

は

ひ

ふ

ほ

み

め

ら

り

れ

ろ

＜保証規定＞

1. この保証書は、取扱説明書、品質表示ラベル等の注意書に従った正常なお取扱いにより発生した故障に対して、お買い上げ日から満一年間、当社が無料修理の責任を負うことを保証するものです。
2. 有効期間内に故障して無料修理を受けられる場合は、商品と本書をご持参ご提示の上、お買い上げの販売店又は別紙の当社サービスステーションに依頼してください。当社では本機の補修用修理部品は、製造打ち切り後6年間をめやすに保有しており、期間中は原則として修理をお受けいたします。期間後でも修理可能の場合もありますのでお問い合わせください。
3. 販売店、または当社サービスステーションにご持参いただくに際しての諸費用は、お客様にご負担願います。製品を送る場合は、必ず書留小包または宅配便をご利用ください。また販売店と当社間の運賃諸掛につきましては、輸送方法によって（問屋便以外を使用した場合）一部ご負担いただく場合があります。
4. ご転居、ご贈答品等でお買い上げ販売店に依頼できない場合は、最寄りの当社サービスステーションにお問い合わせください。
5. この保証書は、本書に明示した期間、条件の元において無料修理をお約束するものです。従って、この保証書は、オリンパスイメージング株式会社、及びそれ以外の事業者に対するお客様の法律上の権利を制限するものではありません。
6. 本製品の故障に起因する付随的損害（録音、再生に要した諸費用及び録音、再生により得べかりし利益の損失等）については保証致しかねます。
7. 保証期間内でも次のような場合には有料修理になります。
   イ. ご使用上の誤り及び当社サービスステーション及び指定する修理取扱い所以外で行われた修理･改造･分解･掃除等による故障。
   ロ. お買い上げ後の輸送、落下等による故障及び損傷。
   ハ. 火災・異常電圧・地震・水害・落雷・公害・その他、天災・地変による破損又は故障。
   ニ. 本書のご提示がない場合。
   ホ. 本書にお買い上げ年月日、シリアル No.、販売店名の記入のない場合、あるいは字句を書き替えられた場合。
   ヘ. 電池等の消耗品による故障。
8. 保証の対象は本体のみです。

＜保証書取扱い上の注意＞

本書は日本国内においてのみ有効です。（THIS WARRANTY CARD IS VALID ONLY IN JAPAN）
販売店名およびお買い上げ年月日が記載されていることを確認してください。記入もれがあった場合は直ちにお買い上げの販売店にお申し出ください。

＜保証責任者・保証履行者＞

オリンパス イメージング株式会社
〒 192-8507 東京都八王子市石川町 2951

保証書

本書は、本書記載内容で無料修理を行なうことをお約束するものです。お買い上げの日から 1 年以内に故障した場合は本書をご提示の上お買い上げの販売店または当社サービスステーションに修理をご依頼ください。

	無料修理保証期間	部品代	修理工料
本体	1年	無料	
品名	DIGITAL VOICE RECORDER	型名	WS-805
シリアル No.		お買い上げ日	年　月　日
販売店名	無効		

OLYMPUS

オリンパスイメージング株式会社
〒192-8507 東京都八王子市石川町2951

● **ホームページによる情報提供について**

製品仕様・パソコンとの接続、OS対応の状況、Q&A等の各種情報を当社ホームページで提供しております。
また、オンライン修理受付の詳細やインターネットでのお申し込み、修理に関するお問い合わせ先（修理センター、国内サービスステーションなど）、カスタマーサポートセンターの営業日・営業時間につきましても当社ホームページで最新情報をお知らせしております。
オリンパスホームページ http://www.olympus.co.jp/ から「お客様サポート」のページをご参照ください。

● **製品に関するお問い合わせ先（カスタマーサポートセンター）**

フリーコール **0120-084215**

携帯電話・PHSからは042-642-7499

FAX　042-642-7486

調査等の都合上、回答までにお時間をいただく場合がありますので、ご了承ください。

便利でお得なサービスメニューをご用意しています。

● **オンライン修理受付のご案内**

オンライン修理受付では、インターネットを利用して修理のお申し込みや修理の状況をご確認いただけます。また、下記にご案内しておりますピックアップサービス（引取修理）もオンライン修理受付からお申し込みいただけます。

● **ピックアップサービス（引取修理）のご案内**

オリンパス指定の運送業者が、梱包資材を持ってお客様のご指定の日時にご自宅へお伺いし、故障した製品をお預かりします。
お客様自身での梱包は不要です。その後弊社にて修理完成後、お客様のご自宅へ返送いたします。

電話でのお申し込みの場合：「オリンパス修理ピックアップ窓口」
0120-971995
営業時間：平日 8：00～21：00
土・日・祭日 9：00～17：00（指定休業日を除く）

※ 記載内容は変更されることがあります。

J1-BS1328-02　AP1305